
守山市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
報告書

令和 8 年 3 月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 実施概要	1
(3) 配布件数、有効回答件数及び回答率 ※ () 内は前回調査	1
(4) 留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 圏域、年齢、性別	2
(2) 回答の記入者	2
3. ご家族や生活状況について	3
(1) 家族構成	3
(2) 暮らし・住まいの状況	4
① 介護・介助の必要性	4
② 主な介護者	8
③ 経済状況	9
4. からだを動かすことについて	10
(1) 運動・転倒の状況	10
◆運動器の機能低下リスクの判定	11
◆転倒リスクの判定	13
(2) 外出の状況	15
① 外出の頻度	15
◆閉じこもりのリスクの判定	16
② 外出を控えているか	18
③ 外出の際の移動手段	21
④ 自動車の運転と免許返納について	23
5. 食べることについて	30
(1) 口腔	30
① 口内の健康状態	30
◆口腔機能の低下リスクの判定	31
② 歯の状況	32
(2) 栄養	33
① 体重の状況	33
◆栄養改善のリスクの判定	33
◆低栄養のリスクの判定	35
② 孤食の状況	36

6. 毎日の生活について	37
(1) 物忘れ	37
◆認知機能の低下リスクの判定	38
(2) 日常生活について	40
7. 地域での活動について	45
(1) 趣味・生きがいについて	45
(2) 地域活動への参加意向	46
8. 助けあいについて	53
(1) 周囲との相互の関係	53
◆助けあいの合計点	57
(2) 家族や友人・知人以外の相談相手	58
(3) 友人・知人との関係性	59
9. 健康について	64
(1) 健康状態	64
① 主観的な健康感	64
② こころの健康	65
◆うつリスクの判定	67
(2) 喫煙	68
(3) 病気や健康づくり	69
10. 認知症について	82
(1) 認知症の症状の有無	82
(2) 認知症に関する理解	83
(3) 認知症に関する相談や施策	88
(4) 認知症の人の暮らし	93
11. 地域における暮らし	96
(1) 地域に関する認識	96
(2) 住まいについて	98
12. 高齢者福祉について	101
(1) 福祉サービスについて	101
13. 地域包括支援センターについて	102
14. 介護保険制度・サービスについて	109

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、「第 10 期守山市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者の生活状況や健康状態、地域における活動等の状況、普段感じていることなどを把握し、市の高齢者福祉施策の検討や、介護予防の充実に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 実施概要

調査対象	要介護 1～5 の方を除く 65 歳以上の高齢者から無作為に抽出した方
実施方法	郵送配布、郵送回収及び WEB 回答、期間中に 1 度礼状兼督促はがきを送付
実施期間	令和 7 年 12 月 22 日（月）～令和 8 年 1 月 21 日（水）

(3) 配布件数、有効回答件数及び回答率 ※（ ）内は前回調査

配布件数	有効回収件数	有効回収率
	うち WEB 回答の件数	有効回収に占める WEB 回答の割合
2,000 件（2,000 件）	1,580 件（1,501 件）	79.0%（75.1%）
	185 件	11.7%

(4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっている。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数。
2. 一部の設問では前の設問の回答内容などにより回答者が限られるため、母数が異なる場合がある。
3. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合がある。
4. 複数回答の場合、図中に MA（Multiple Answer＝いくつでも）、3LA（3 Limited Answer＝3 つまで）、2LA（2 Limited Answer＝2 つまで）と記載している。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合がある。
5. 各種リスク等判定結果は、母数から判定不能を除いている。
6. 表内において、**上位 1 位**、**上位 2 位**には色付けをしている。また、全体と比べて 10 ポイント以上高い場合には△、10 ポイント以上低い場合には▼の記号を付けている。
7. 報告にあたって、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では性別・年齢、学区、認定該当状況等、在宅介護実態調査では要介護度や家族構成、サービスの利用状況別等とのクロス集計を行い、市全体だけでなく、それぞれの属性における特徴や傾向について分析を行った。
8. 「前回調査」とは、令和 4 年度に実施した同調査のことです。

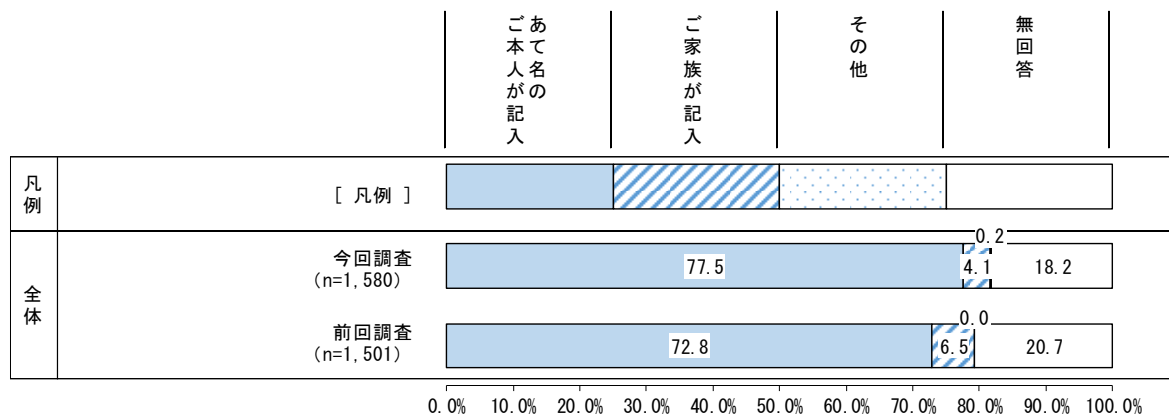
2. 回答者の属性

(1) 圏域、年齢、性別

上段：実数、下段：割合（％）

		全体	守山学区	吉身学区	小津学区	玉津学区	河西学区	速野学区	中洲学区
全体		1,580	402	314	163	100	287	247	67
		100.0	25.4	19.9	10.3	6.3	18.2	15.6	4.2
性・年齢	男性前期高齢者	322	84	70	21	25	38	70	14
		100.0	26.1	21.7	6.5	7.8	11.8	21.7	4.3
	男性後期高齢者	431	108	86	48	22	87	61	19
		100.0	25.1	20.0	11.1	5.1	20.2	14.2	4.4
	女性前期高齢者	327	82	72	42	16	51	48	16
		100.0	25.1	22.0	12.8	4.9	15.6	14.7	4.9
	女性後期高齢者	500	128	86	52	37	111	68	18
		100.0	25.6	17.2	10.4	7.4	22.2	13.6	3.6
状況 認定該当	一般高齢者	1,468	373	289	154	94	265	229	64
		100.0	25.4	19.7	10.5	6.4	18.1	15.6	4.4
	要支援１・２	112	29	25	9	6	22	18	3
		100.0	26.1	22.3	8.1	5.4	19.8	16.2	2.7

(2) 回答の記入者



3. ご家族や生活状況について

(1) 家族構成

●問1.1 家族構成を教えてください。(○は1つ)

【全体】

- 家族構成について、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 40.8%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が 20.6%、「その他」が 16.9%となっています。
- 「一人暮らし」と「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」を合わせた“高齢者のみ世帯”は 56.6%で、前回調査に比べてわずかに高くなっています。
- 前回調査に比べると、「一人暮らし」が高くなっています。一方、「高齢者の夫婦2人暮らし」や「息子等との2世帯」が低くなっているため、それらの影響があると思われます。

【性・年齢】

- 「一人暮らし」は女性 後期高齢者が 24.0%と他の区分に比べて高くなっています。
- 男性 後期高齢者では「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 54.5%と他の区分に比べて高く、“高齢者のみ世帯”も高くなっています。

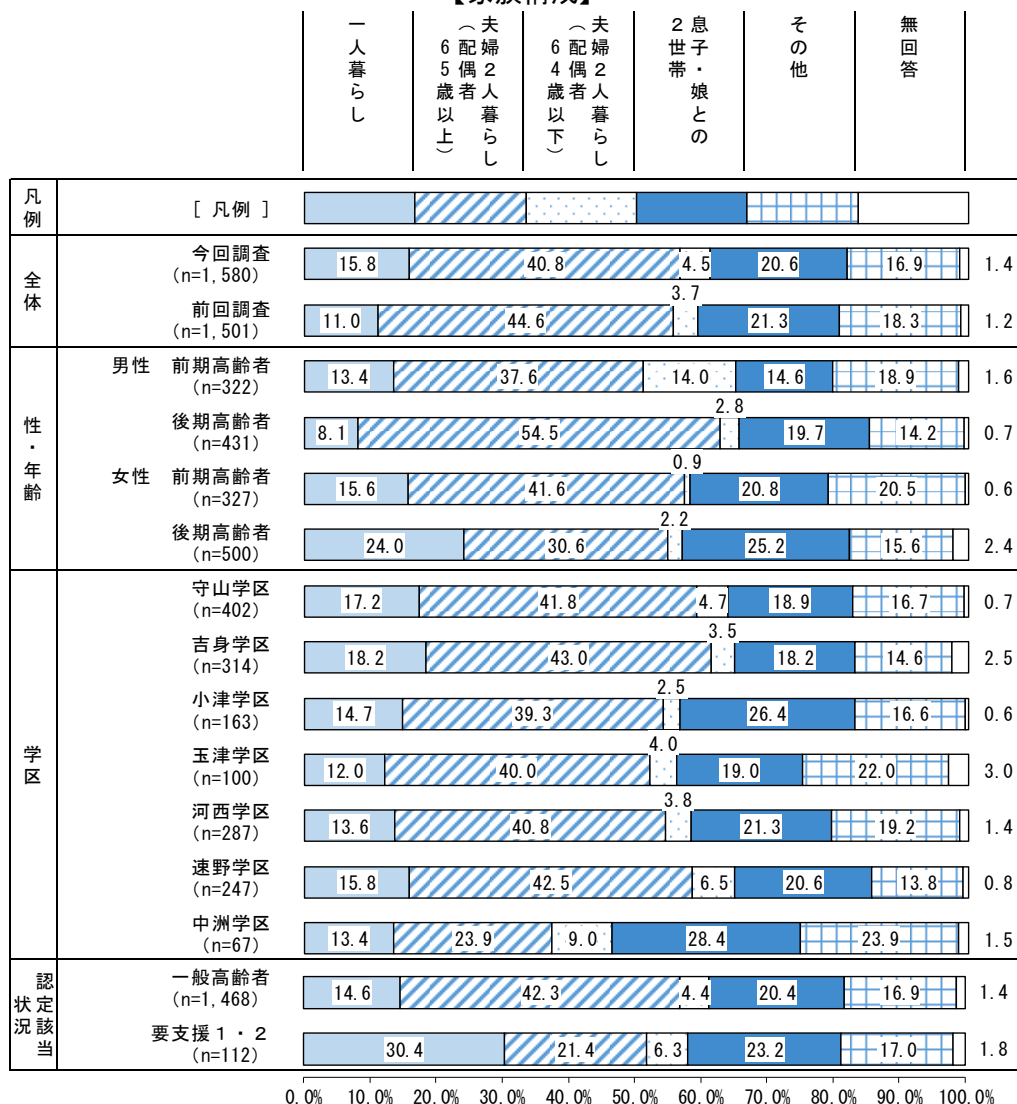
【学区】

- 「一人暮らし」は吉身学区で 18.2%とやや高く、玉津学区で 12.0%とやや低くなっています。
- 中洲学区では“高齢者のみ世帯”が他の区分に比べて低くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「一人暮らし」が 30.4%、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 21.4%となっています。

【家族構成】



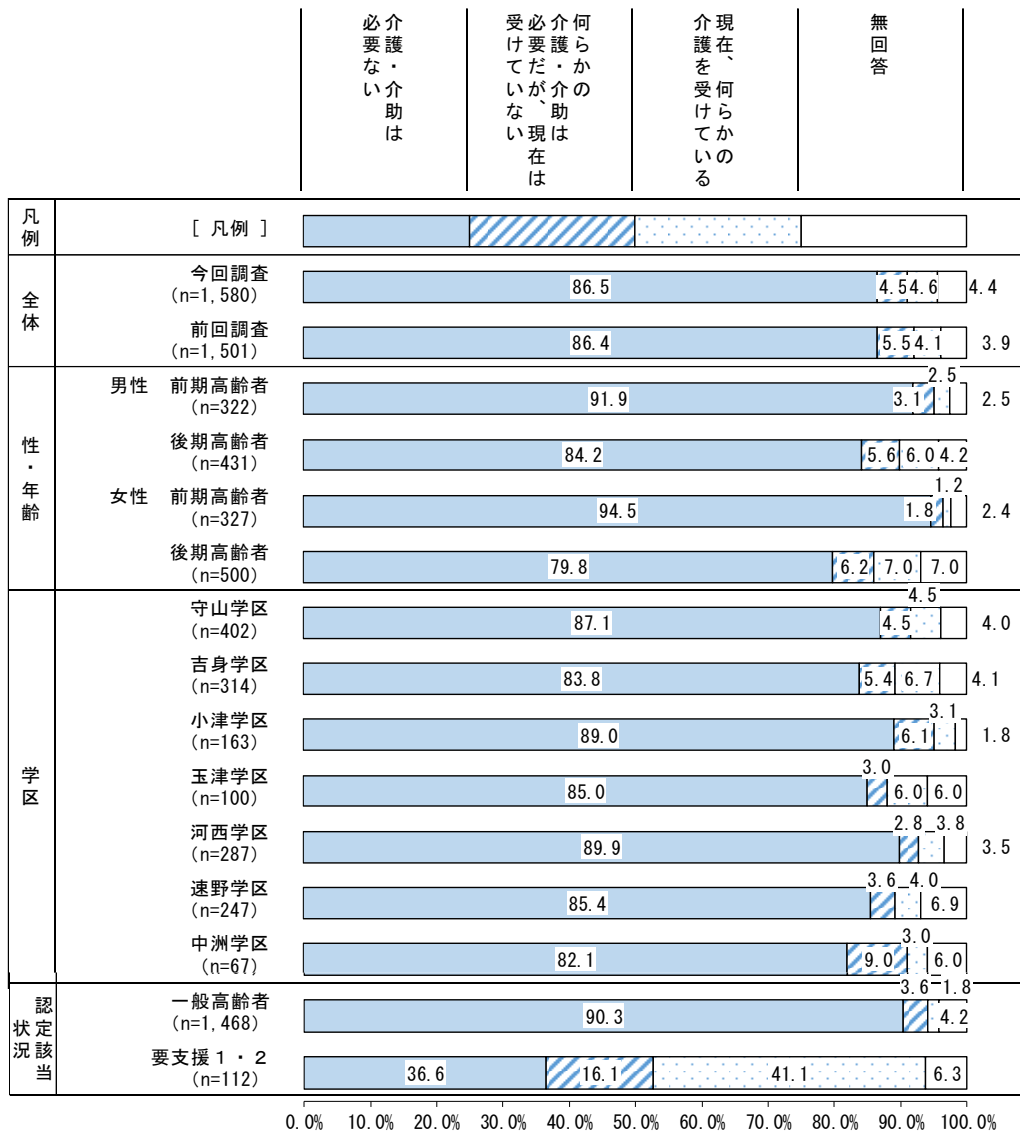
(2) 暮らし・住まいの状況

① 介護・介助の必要性

●問1.2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

【全体】	
○	介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」が86.5%で最も高く、次いで「現在、何らかの介護を受けている」が4.6%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.5%となっています。
○	前回調査に比べ、大きな変化はありません。
【性・年齢】	
○	男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「介護・介助は必要ない」が高くなっています。
○	「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」は男性 後期高齢者が5.6%、女性 後期高齢者が6.2%となっています。
【認定該当状況】	
○	要支援1・2では「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が16.1%となっています。

【介護・介助の必要性】

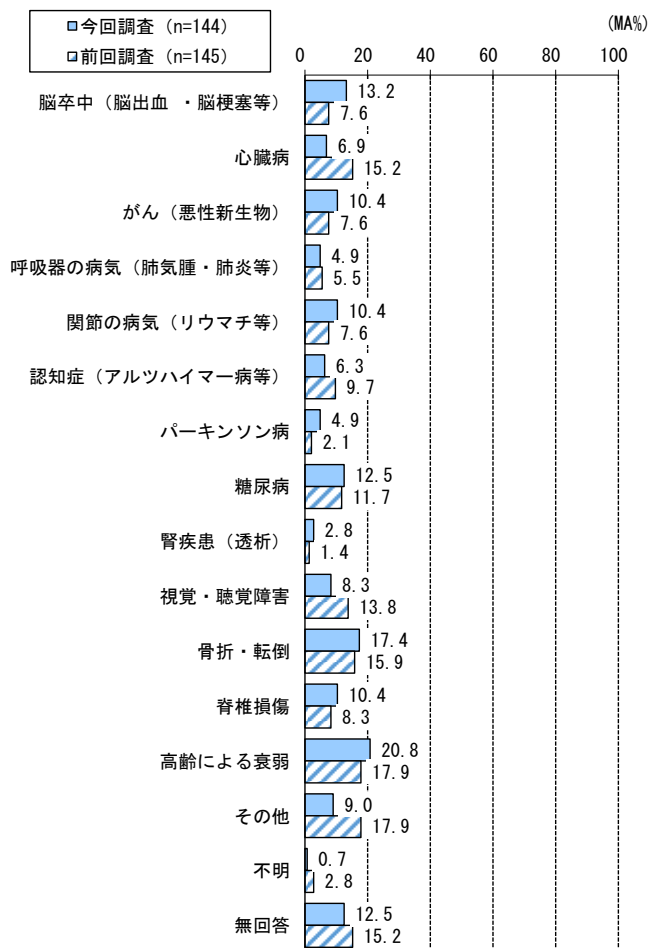


●問1.2-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- 介護・介助が必要になった主な原因について、「高齢による衰弱」が20.8%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が17.4%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が13.2%となっています。

【介護・介助が必要になった主な原因】



【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「骨折・転倒」が高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「骨折・転倒」が高くなっています。
- 男性 後期高齢者では、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」「心臓病」が他の区分に比べて高くなっています。
- 女性 後期高齢者では「関節の病気（リウマチ等）」などで他の区分に比べて高くなっています。

単位：％

		母数	介護・介助が必要になった主な原因							
			脳卒中・ 脳梗塞等 ()	心臓病	がん (悪性新生物)	呼吸器の病 気 (肺炎等)	関節の病 気 (リウマチ 等)	認知症 (アルツ ハイマ ー 病等)	パー キン ソン 病	糖尿 病
性・ 年 齢	男性 前期高齢者 (n=18)	18	5.6	5.6	5.6	-	-	△ 16.7	5.6	△ 27.8
	後期高齢者 (n=50)	50	20.0	14.0	10.0	8.0	8.0	6.0	6.0	12.0
	女性 前期高齢者 (n=10)	10	-	-	20.0	-	10.0	-	-	10.0
	後期高齢者 (n=66)	66	12.1	3.0	10.6	4.5	15.2	4.5	4.5	9.1
該 認 定 状 況	一般高齢者 (n=80)	80	11.3	8.8	12.5	2.5	12.5	6.3	3.8	12.5
	要支援 1・2 (n=64)	64	15.6	4.7	7.8	7.8	7.8	6.3	6.3	12.5

単位：％

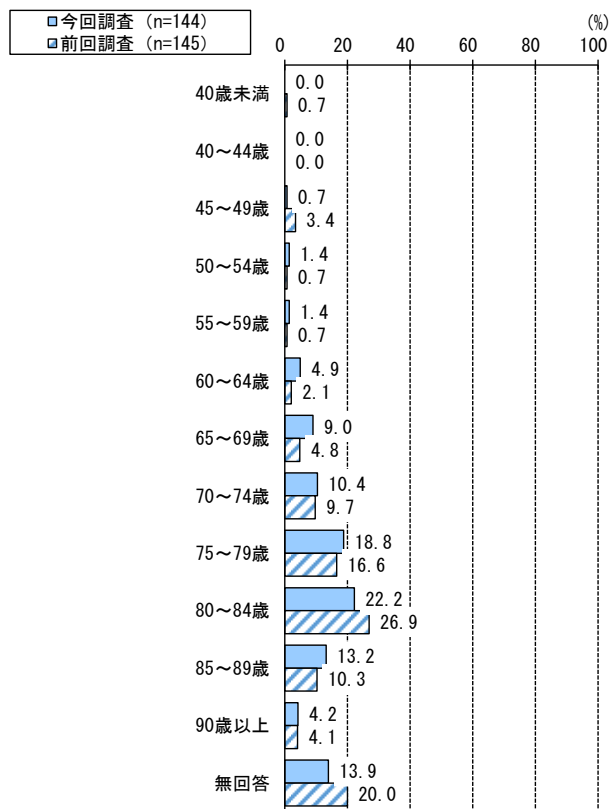
		母数	介護・介助が必要になった主な原因							
			腎疾患 (透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=18)	18	-	-	16.7	5.6	△ 33.3	11.1	5.6	11.1
	後期高齢者 (n=50)	50	4.0	6.0	10.0	14.0	22.0	6.0	-	10.0
	女性 前期高齢者 (n=10)	10	-	10.0	△ 70.0	△ 30.0	20.0	10.0	-	-
	後期高齢者 (n=66)	66	3.0	12.1	15.2	6.1	16.7	10.6	-	16.7
当該認定状況	一般高齢者 (n=80)	80	3.8	11.3	17.5	10.0	22.5	8.8	1.3	13.8
	要支援1・2 (n=64)	64	1.6	4.7	17.2	10.9	18.8	9.4	-	10.9

●問1.2-2 介護・介助が必要になった年齢をお教えてください。(○は1つ)

【全体】

○ 介護・介助が必要になった年齢について、「80～84 歳」が 22.2%で最も高く、次いで「75～79 歳」が 18.8%、「85～89 歳」が 13.2%となっています。

【介護・介助が必要になった年齢】



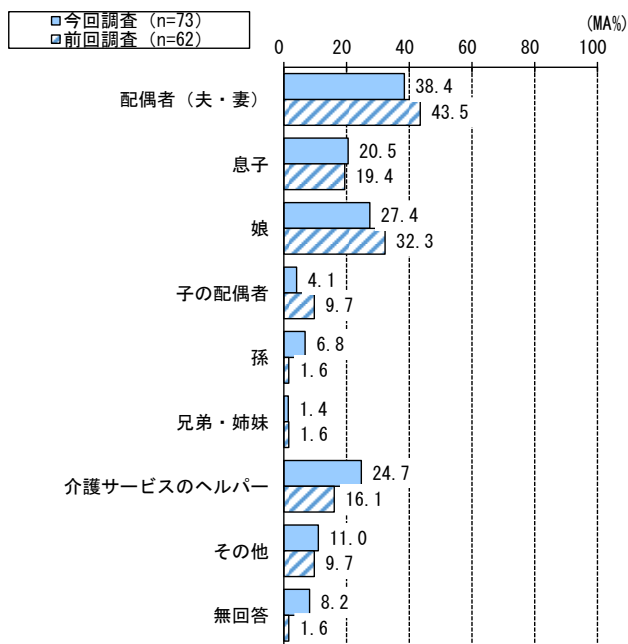
② 主な介護者

●問1.2-3 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(いくつでも○)

【全体】

- 主な介護・介助の担い手について、「配偶者（夫・妻）」が 38.4%で最も高く、次いで「娘」が 27.4%、「介護サービスのヘルパー」が 24.7%となっています。
- 前回調査に比べると、「介護サービスのヘルパー」が特に高くなっています。

【主な介護・介助の担い手】



単位：％

			主な介護・介助の担い手									
			母数	配偶者（夫・妻）	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービスのヘルパー	その他	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者（n=8）	8	▼ 25.0	—	25.0	—	—	—	△ 62.5	△ 25.0	12.5
		後期高齢者（n=26）	26	△ 61.5	19.2	19.2	7.7	11.5	—	23.1	7.7	—
	女性	前期高齢者（n=4）	4	—	25.0	△ 75.0	—	—	—	25.0	—	—
		後期高齢者（n=35）	35	28.6	25.7	28.6	2.9	5.7	2.9	17.1	11.4	14.3
状況認定	一般高齢者（n=27）		27	△ 51.9	11.1	29.6	3.7	11.1	—	18.5	14.8	7.4
	要支援1・2（n=46）		46	30.4	26.1	26.1	4.3	4.3	2.2	28.3	8.7	8.7
家族構成	1人暮らし（n=15）		15	—	13.3	33.3	6.7	—	—	△ 46.7	20.0	6.7
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）（n=20）		20	△ 85.0	▼ 10.0	▼ 5.0	—	5.0	—	20.0	—	5.0
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）（n=6）		6	△ 66.7	16.7	—	—	—	—	33.3	16.7	16.7
	息子・娘との2世帯（n=18）		18	▼ 22.2	△ 38.9	△ 55.6	11.1	16.7	5.6	16.7	5.6	5.6
	その他（n=13）		13	▼ 23.1	23.1	30.8	—	7.7	—	15.4	△ 23.1	7.7

③ 経済状況

●問1.3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

【全体】

○ 現在の経済的な暮らし向きについて、「ふつう」が 37.1%で最も高く、次いで「やや苦しい」が 13.9%、「ややゆとりがある」が 5.0%となっています。

○ 「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせた“苦しい”は 18.1%となっています。

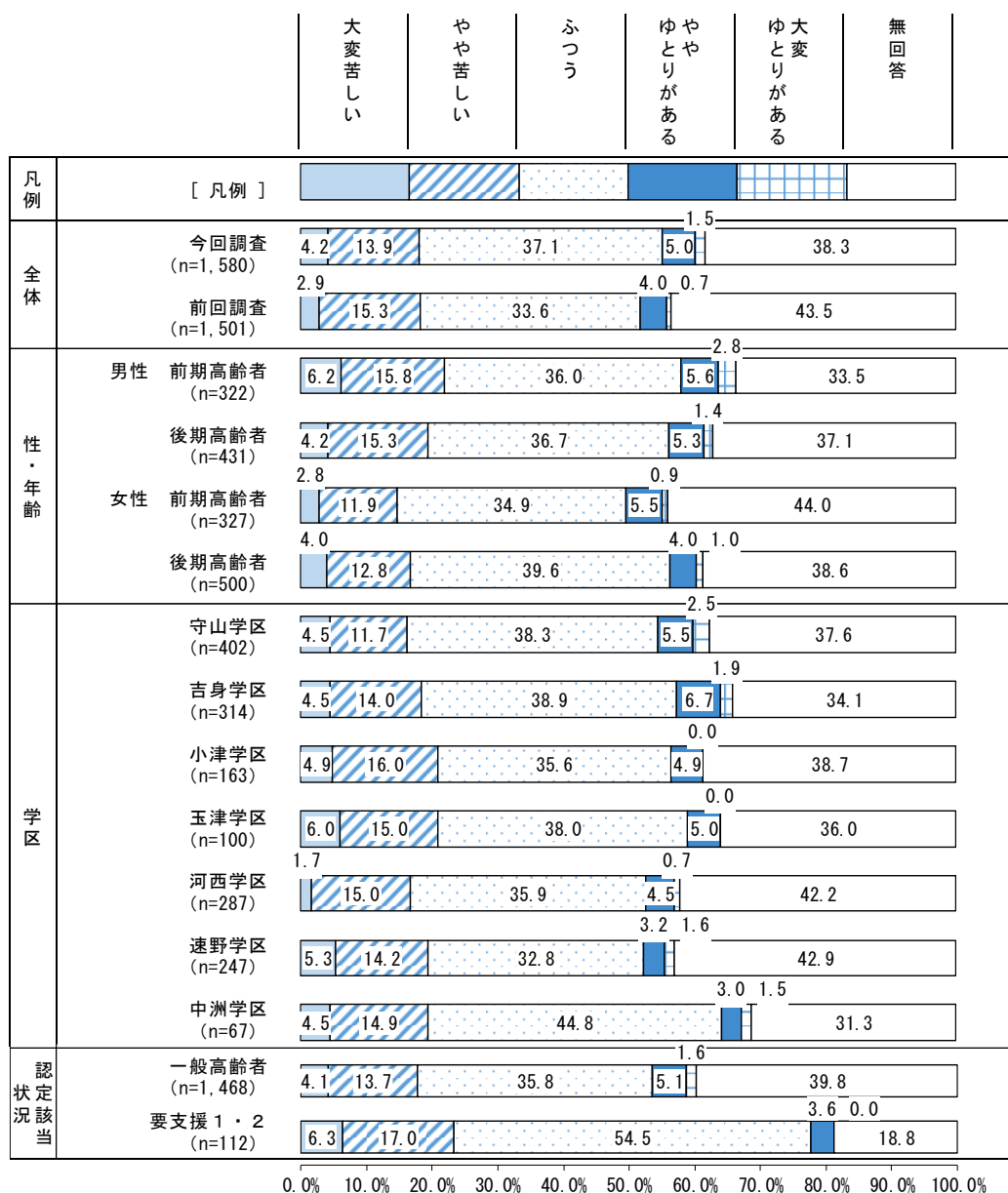
【性・年齢】

○ 男性 前期高齢者では“苦しい”が 22.0%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

○ 要支援1・2では“苦しい”が 23.3%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【現在の経済的な暮らし向き】



4. からだを動かすことについて

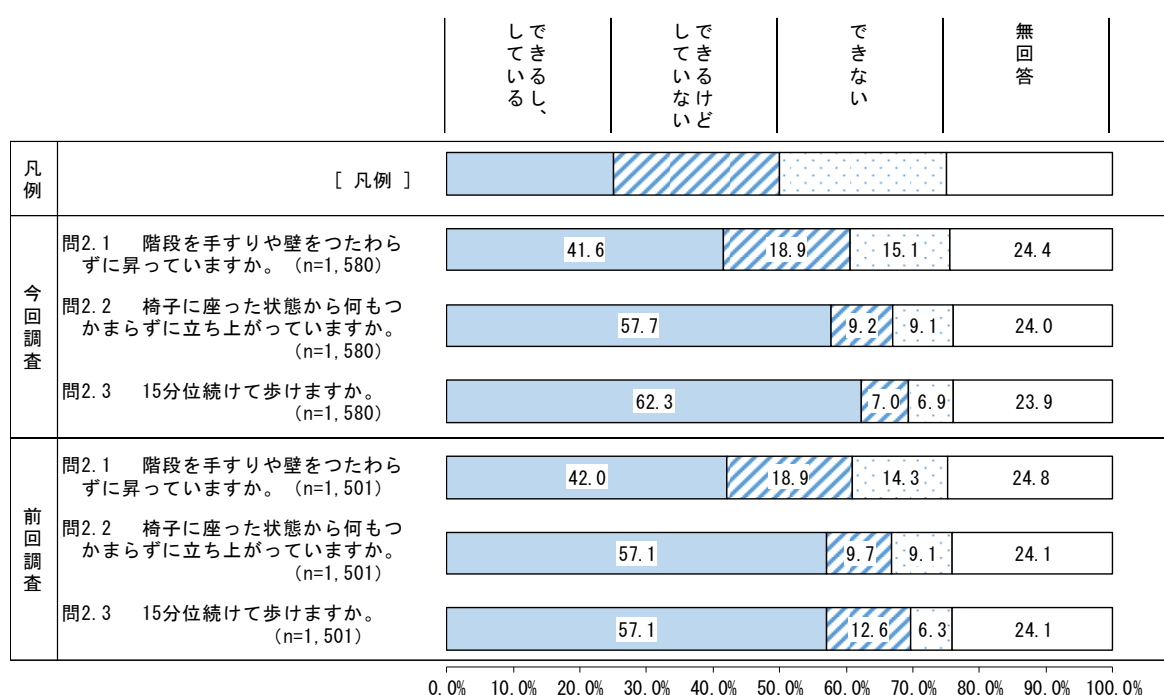
(1) 運動・転倒の状況

- 問2.1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)
- 問2.2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)
- 問2.3 15分位続けて歩けますか。(○は1つ)

【全体】

- 「できるし、している」は、[階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか] で 41.6%、[椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか] で 57.7%、[15分位続けて歩いていますか] で 62.3%となっています。
- 前回調査に比べると、[15分位続けて歩いていますか] で「できるし、している」が高くなっています。

【日常生活での運動の状況】



◆運動器の機能低下リスクの判定

●運動器の機能低下リスク

以下の設問に対して 5 問中 3 問以上該当する場合は、『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定している。

設問	選択肢
問 2.1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
問 2.2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
問 2.3 15 分位続けて歩いていますか	できない
問 2.4 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1 度ある
問 2.5 転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／やや不安である

【全体】

- 運動器の機能低下リスクについて、「該当」が 12.3%、「非該当」が 63.7%となっています。

【性・年齢】

- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「該当」が高く、前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「該当」が高くなっています。

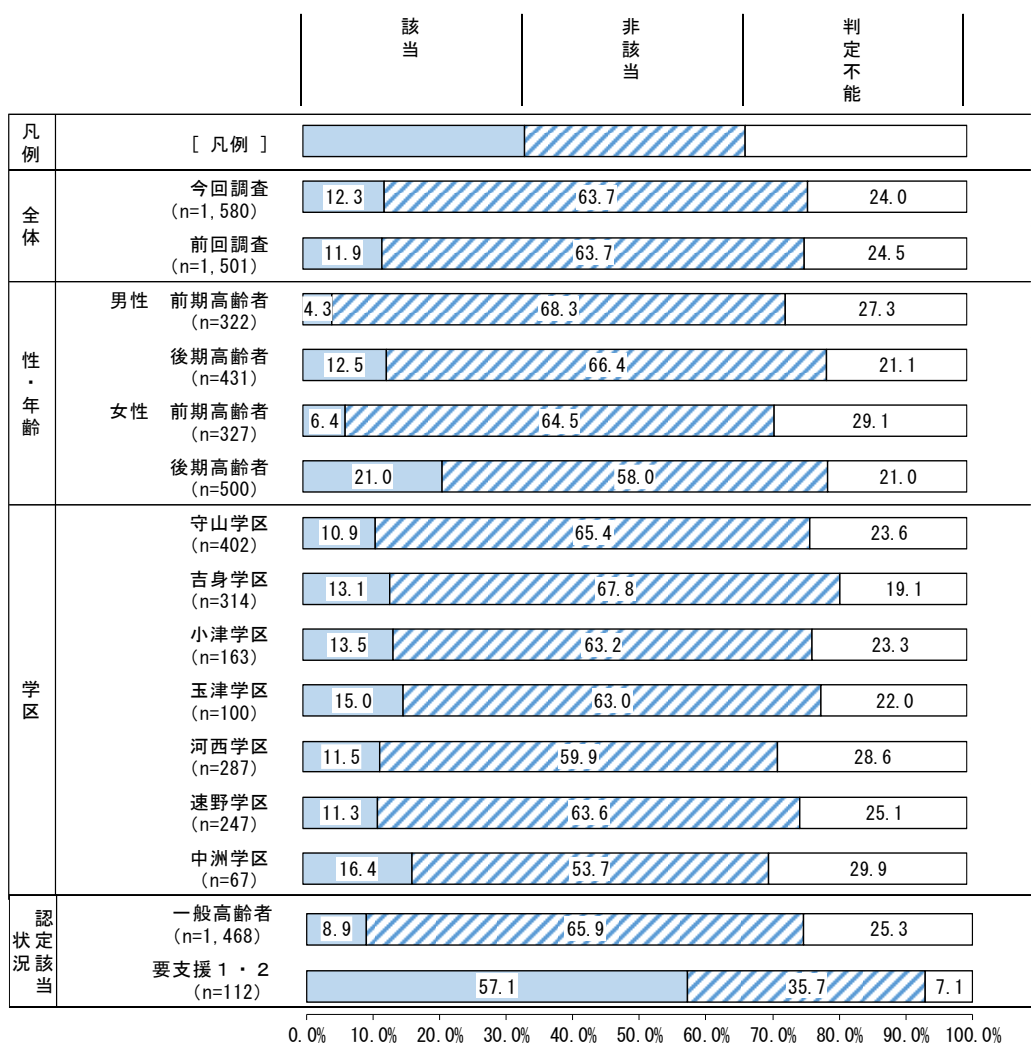
【学区】

- 「該当」は中洲学区では 16.4%と高く、守山学区では 10.9%と低くなっています。

【認定該当状況】

- 「該当」は、要支援 1・2 が 57.1%、一般高齢者が 8.9%となっています。

【運動器の機能低下リスク】

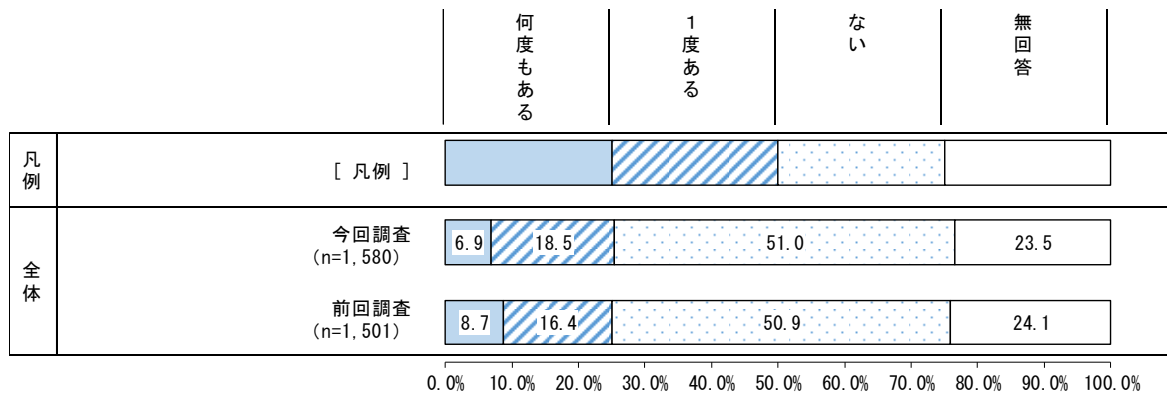


●問2.4 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

【全体】

○ 過去1年間の転倒経験について、「ない」が51.0%で最も高く、次いで「1度ある」が18.5%、「何度もある」が6.9%となっています。

【過去1年間の転倒経験】



◆転倒リスクの判定

●転倒リスク

以下の設問に対して該当する場合は、『転倒』のリスク該当者と判定している。

設問	選択肢
問 2.4 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1 度ある

【全体】

- 転倒リスクについて、「該当」が 25.4%、「非該当」が 51.0%となっています。

【性・年齢】

- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「該当」が高くなっています。

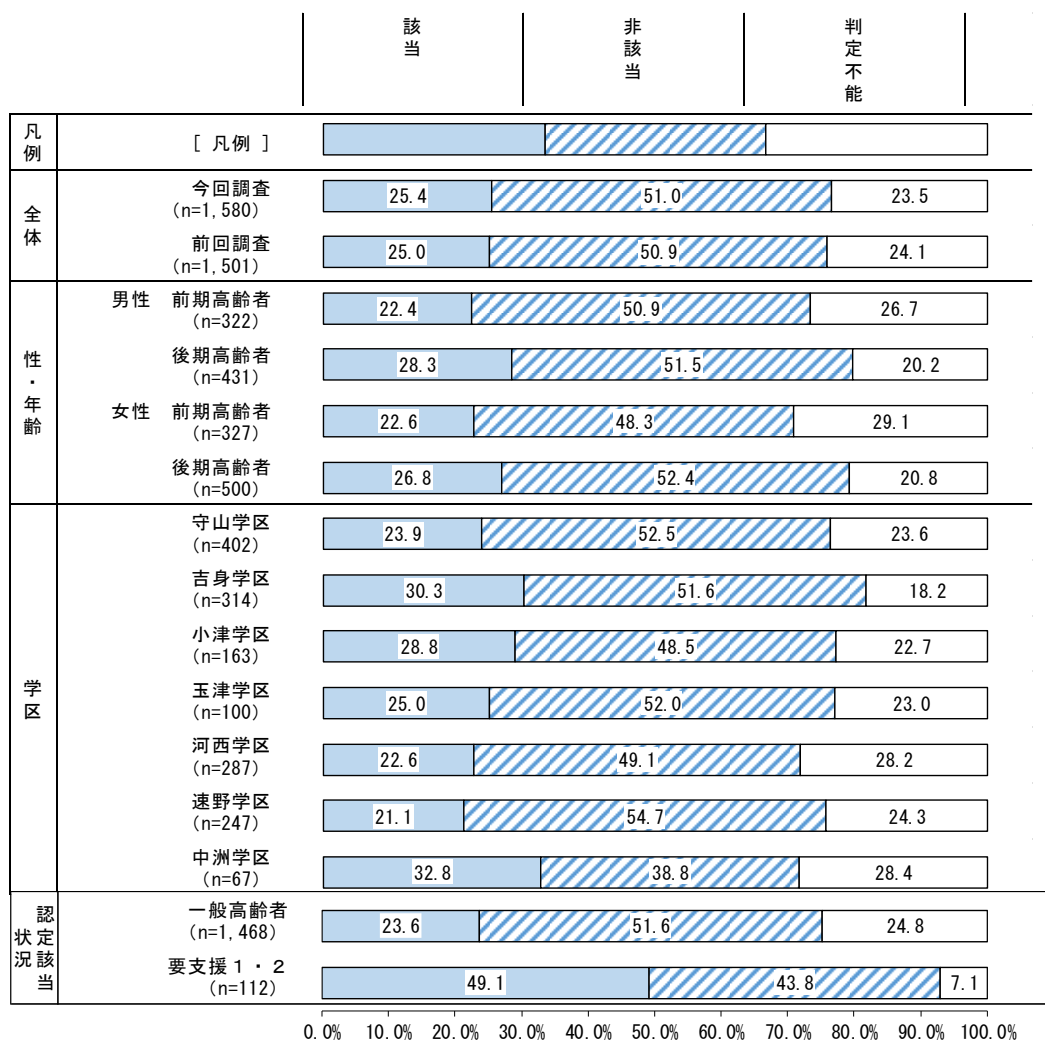
【学区】

- 「該当」は中洲学区で 32.8%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

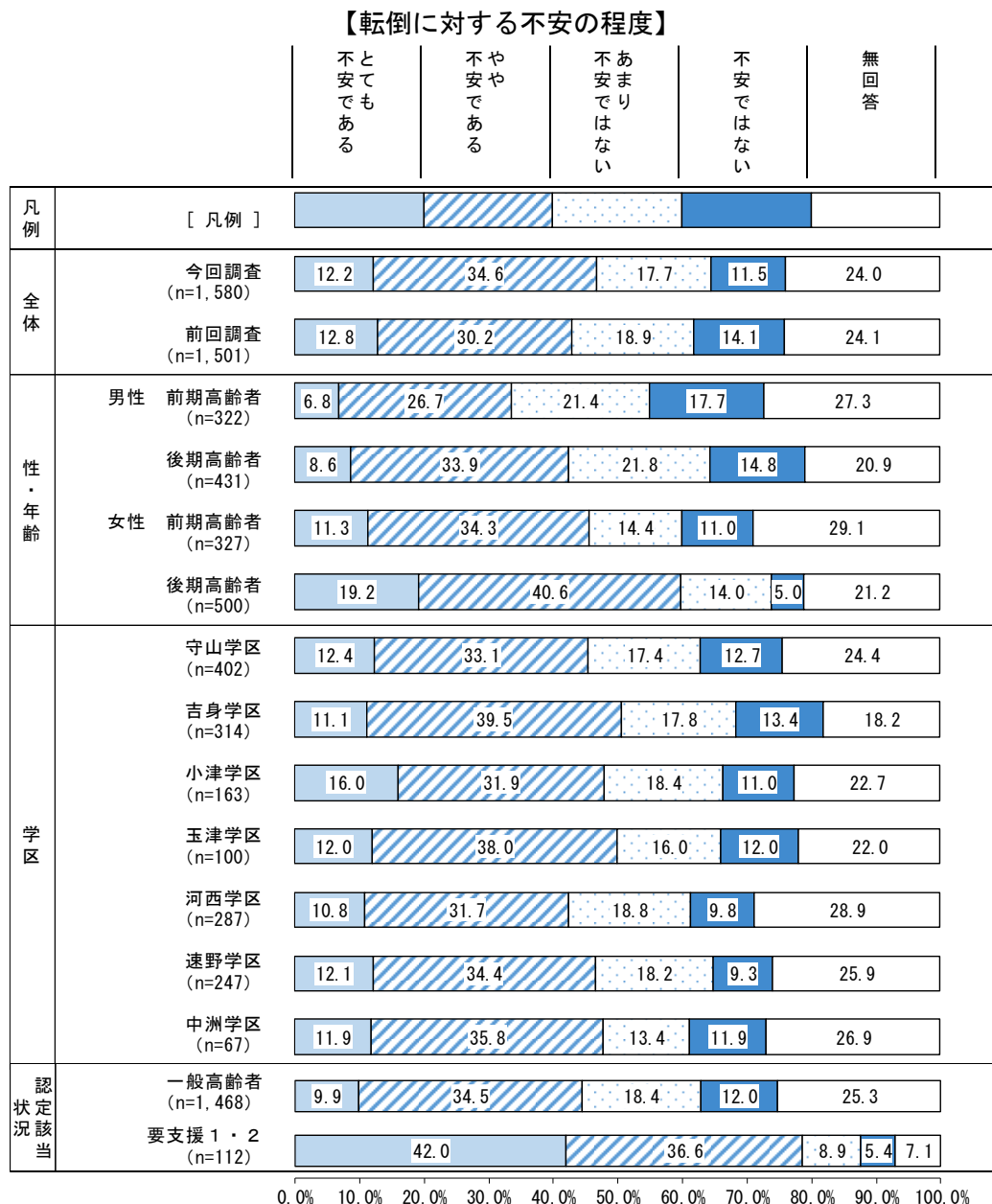
- 要支援 1・2 では「該当」が 49.1%で一般高齢者に比べて高くなっています。

【転倒のリスク】



●問2.5 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

【全体】	
○	転倒に対する不安の程度について、「やや不安である」が34.6%で最も高く、次いで「あまり不安ではない」が17.7%、「とても不安である」が12.2%となっています。
○	「とても不安である」「やや不安である」を合わせた“不安である”は46.8%となっています。
【性・年齢】	
○	前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「とても不安である」「不安である」が高くなっています。
○	男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「やや不安である」「不安である」が高くなっています。
【学区】	
○	“不安である”は吉身学区で50.6%、玉津学区で50.0%と他の区分に比べて高くなっています。
【認定該当状況】	
○	要支援1・2では「とても不安である」が42.0%と高くなっています。



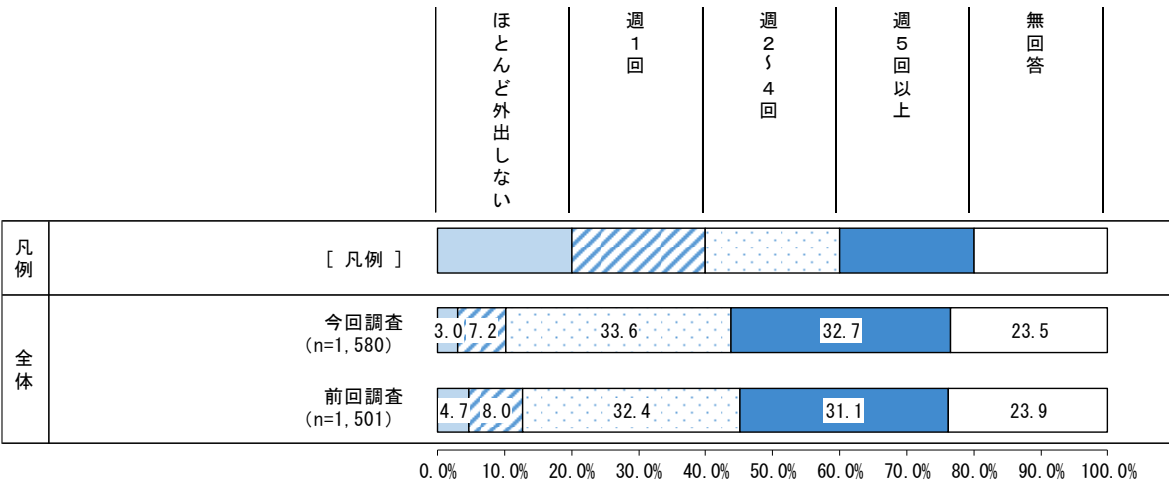
(2) 外出の状況

① 外出の頻度

●問2.6 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

【全体】
○ 週1回以上の外出習慣について、「週2～4回」が33.6%で最も高く、次いで「週5回以上」が32.7%、「週1回」が7.2%となっています。
○ 前回調査と比べると、「ほとんど外出しない」がやや低くなり、外出頻度が上がっている状況がみられます。

【週1回以上の外出習慣】



◆閉じこもりのリスクの判定

●閉じこもりのリスク

以下の設問に対して該当する場合は、『閉じこもり』のリスク該当者と判定している。

設問	選択肢
問 2.6 週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない／週1回

【全体】

- 閉じこもりのリスクについて、「該当」が10.2%となっています。

【性・年齢】

- 男女ともに後期高齢者は前期高齢者に比べて「該当」が高くなっています。

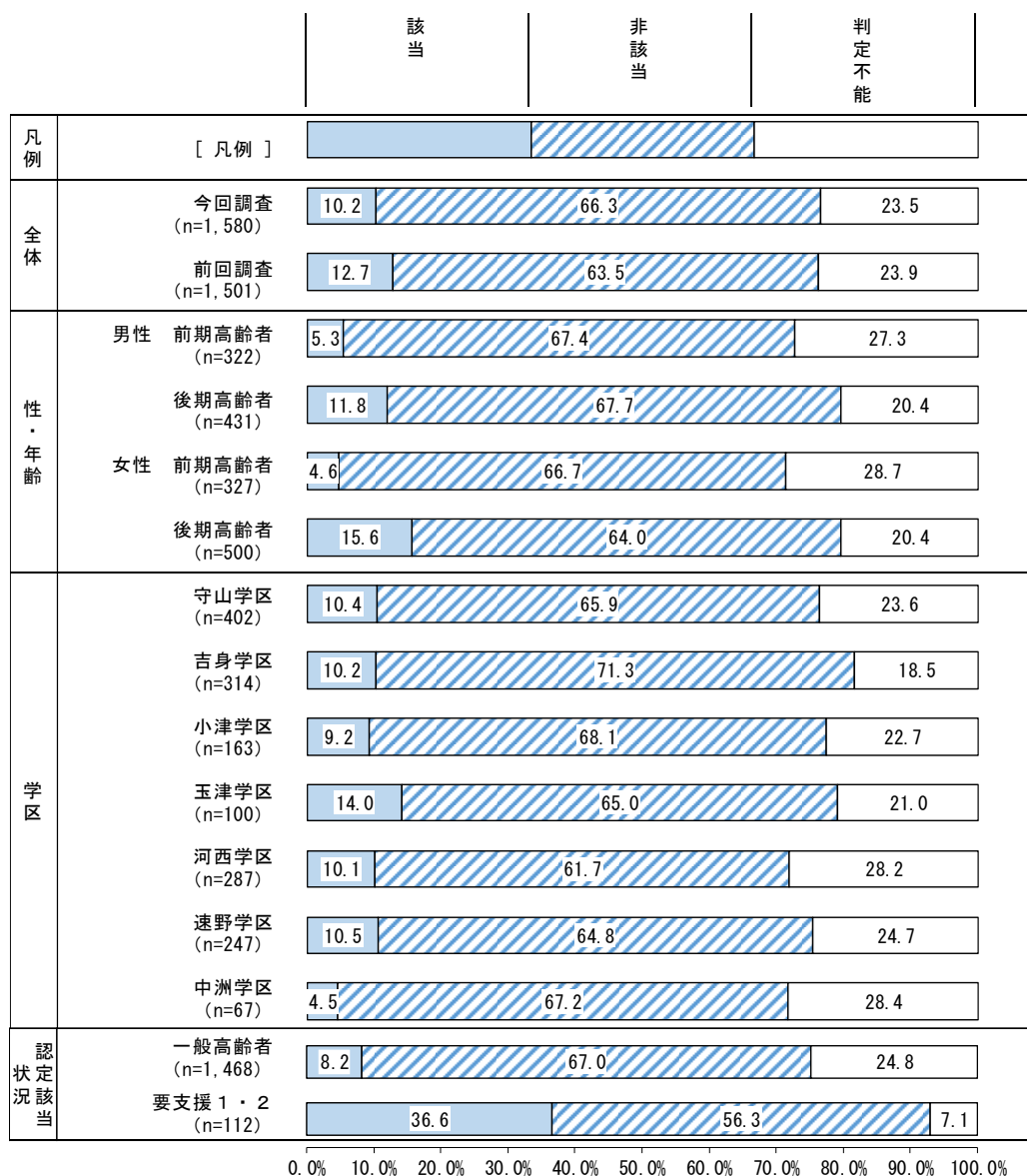
【学区】

- 「該当」をみると、玉津学区では14.0%と高く、中洲学区では4.5%と低くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「該当」が36.6%で一般高齢者に比べて高くなっています。

【閉じこもりのリスク】



●問2.7 1年前と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)

【全体】

- 1年前と比較した外出頻度の変化について、「あまり減っていない」が26.2%で最も高く、次いで「減っていない」が25.6%、「減っている」が21.5%となっています。
- 「とても減っている」「減っている」を合わせた“減っている”は24.9%となっています。

【性・年齢】

- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて“減っている”が高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて“減っている”が高くなっています。

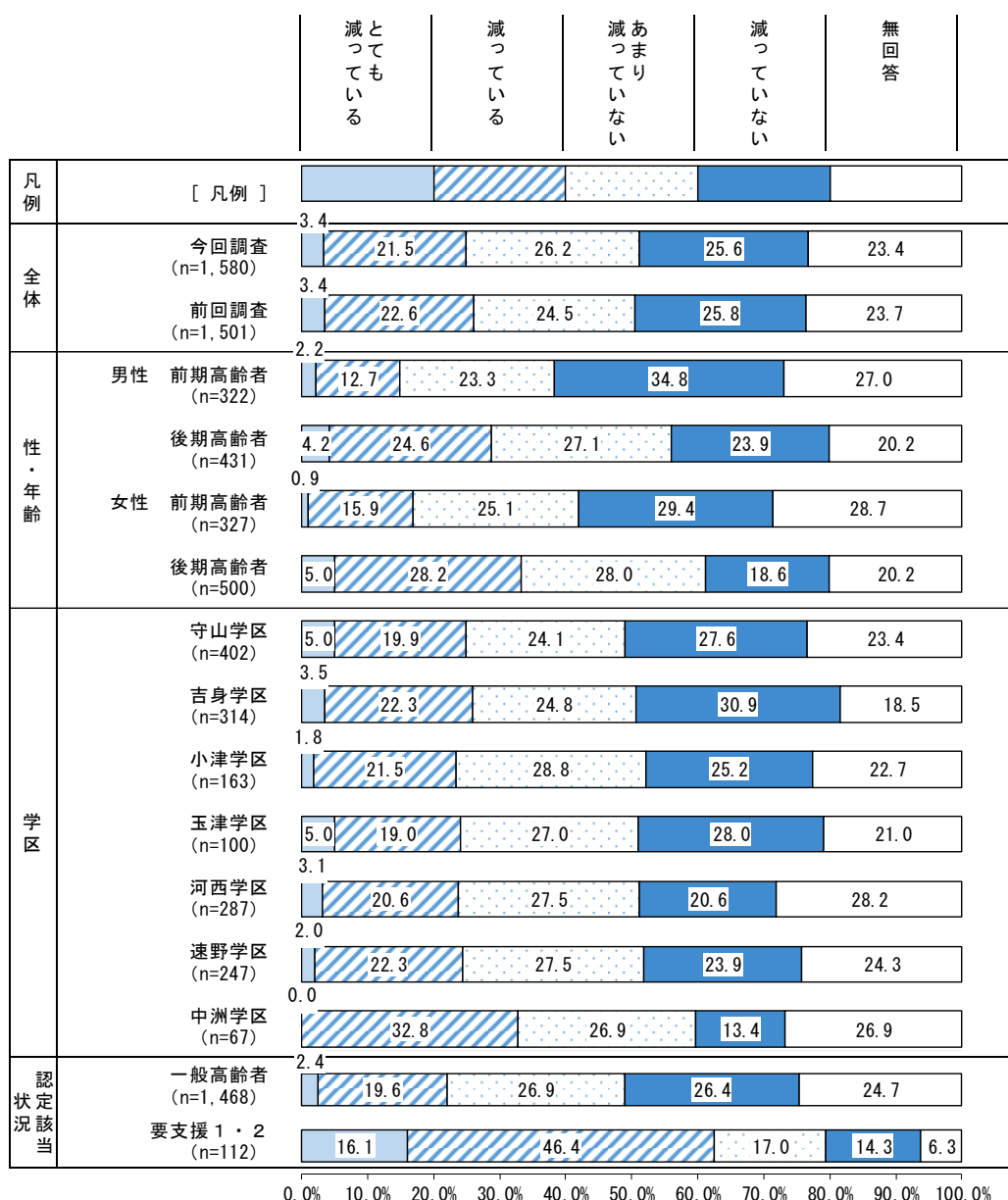
【学区】

- “減っている”は中洲学区で32.8%と他の学区に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「減っている」が16.1%、“減っている”が6割以上と一般高齢者に比べて高くなっています。

【1年前と比較した外出頻度の変化】

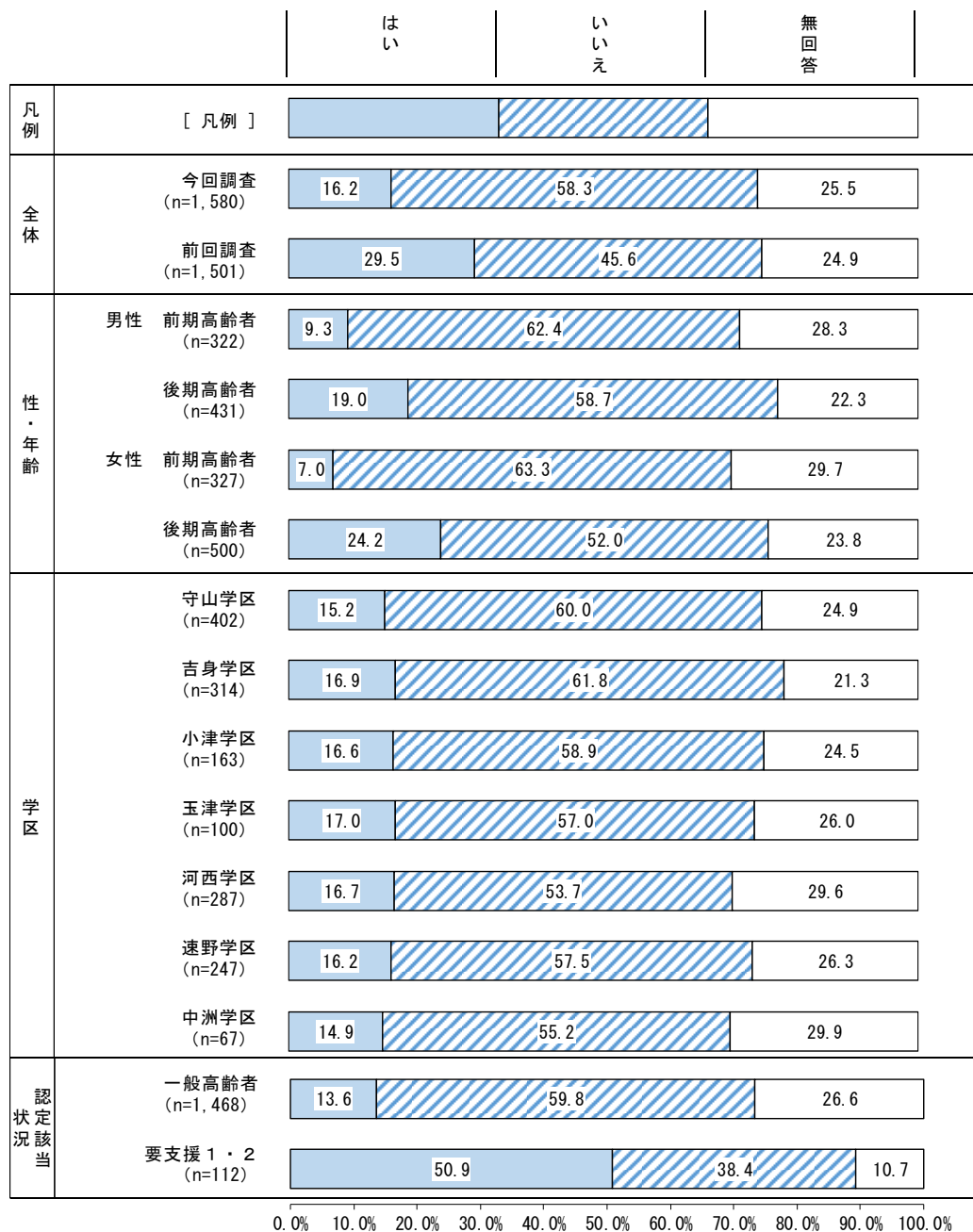


② 外出を控えているか

●問2.8 外出を控えていますか。(○は1つ)

【全体】
○ 外出控えの有無について、「はい」が16.2%、「いいえ」が58.3%となっています。
【性・年齢】
○ 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「はい」が高くなっています。
【学区】
○ 学区によって、回答に大きな差はみられませんでした。
【認定該当状況】
○ 要支援1・2では「はい」が50.9%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【外出控えの有無】

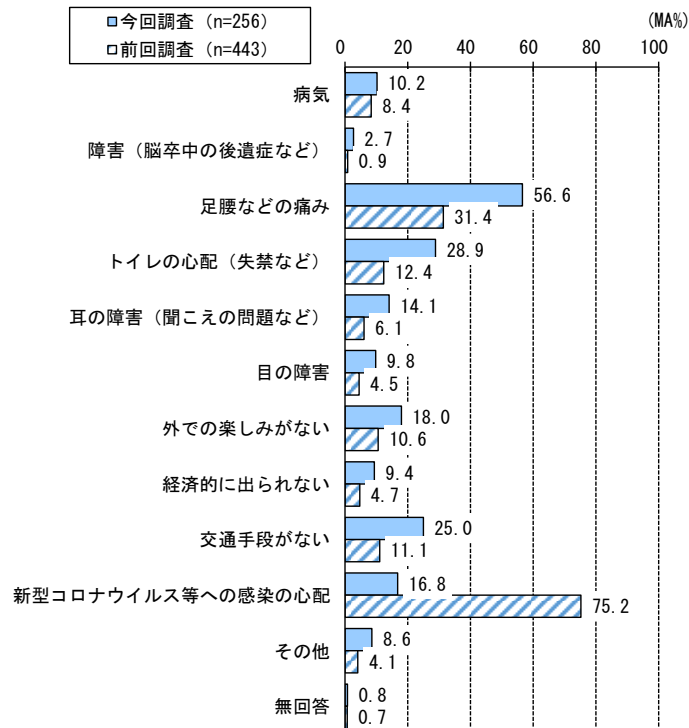


●問2.8-1 外出を控えている理由は、以下のどれですか。(いくつでも○)

【全体】

- 外出を控えている理由について、「足腰などの痛み」が56.6%で最も高く、次いで「トイレの心配（失禁など）」が28.9%、「交通手段がない」が25.0%となっています。
- 前回調査に比べると、「新型コロナウイルス等への感染の心配」が大きく低下し、それ以外の項目で高くなっています。

【外出を控えている理由】



【性・年齢】

- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「足腰などの痛み」「交通手段がない」が高くなっています。
- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「トイレの心配（失禁など）」が高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「外での楽しみがない」が高くなっています。

【学区】

- 守山学区、小津学区、玉津学区では、「交通手段がない」が約3割となっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では要支援1・2に比べて「経済的に出られない」「新型コロナウイルス等への感染の心配」が高く、その他の項目では低くなっています。

単位：％

		母数	外出を控えている理由					
			病 気	（障 害 後遺症 など）	足 腰 な ど の 痛 み	（ト イ レ の 心 配 ）	耳 の 障 害 （問 題 な え ど）	目 の 障 害
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=30)	30	20.0	10.0	▼ 40.0	△ 40.0	▼ 3.3	13.3
	後期高齢者 (n=82)	82	14.6	2.4	57.3	28.0	22.0	11.0
	女性 前期高齢者 (n=23)	23	-	-	52.2	30.4	-	-
	後期高齢者 (n=121)	121	6.6	1.7	61.2	26.4	14.0	9.9
学区	守山学区 (n=61)	61	9.8	3.3	50.8	29.5	11.5	11.5
	吉身学区 (n=53)	53	15.1	3.8	64.2	34.0	18.9	13.2
	小津学区 (n=27)	27	18.5	3.7	55.6	▼ 18.5	14.8	11.1
	玉津学区 (n=17)	17	5.9	-	47.1	△ 41.2	17.6	11.8
	河西学区 (n=48)	48	6.3	2.1	62.5	35.4	12.5	8.3
	速野学区 (n=40)	40	7.5	2.5	47.5	22.5	15.0	5.0
	中洲学区 (n=10)	10	-	-	△ 80.0	-	-	-
	一般高齢者 (n=199)	199	9.0	2.0	54.3	28.1	12.1	7.5
状況認定	要支援1・2 (n=57)	57	14.0	5.3	64.9	31.6	21.1	17.5

単位：％

		母数	外出を控えている理由					
			楽 外 し で の が な い	出 経 ら 済 れ な い	交 通 手 段 が な い	感 染 ウ 新 型 の ル コ 心 ス ロ 配 等 ナ ヘ の	そ の 他	無 回 答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=30)	30	26.7	△ 20.0	▼ 13.3	20.0	3.3	-
	後期高齢者 (n=82)	82	23.2	8.5	20.7	8.5	8.5	-
	女性 前期高齢者 (n=23)	23	17.4	13.0	▼ 8.7	17.4	13.0	4.3
	後期高齢者 (n=121)	121	12.4	6.6	33.9	21.5	9.1	0.8
学区	守山学区 (n=61)	61	21.3	13.1	29.5	13.1	8.2	1.6
	吉身学区 (n=53)	53	15.1	13.2	24.5	15.1	7.5	-
	小津学区 (n=27)	27	18.5	11.1	29.6	25.9	-	-
	玉津学区 (n=17)	17	23.5	-	29.4	▼ 5.9	11.8	5.9
	河西学区 (n=48)	48	16.7	6.3	20.8	12.5	12.5	-
	速野学区 (n=40)	40	17.5	7.5	22.5	25.0	10.0	-
	中洲学区 (n=10)	10	10.0	-	▼ 10.0	△ 30.0	10.0	-
	一般高齢者 (n=199)	199	16.6	10.1	23.6	18.1	8.0	1.0
状況認定	要支援1・2 (n=57)	57	22.8	7.0	29.8	12.3	10.5	-

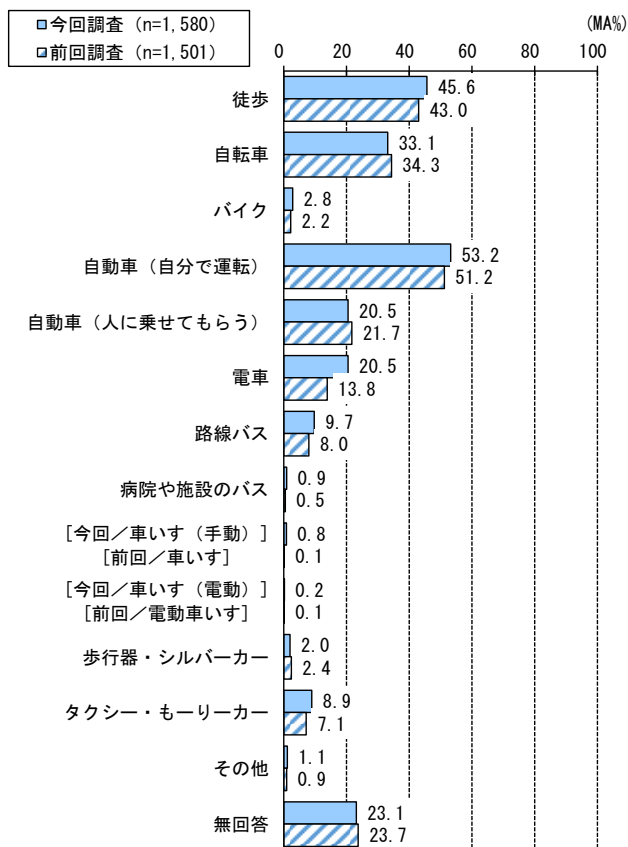
③ 外出の際の移動手段

●問2.9 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- 外出時の主な移動手段について、「自動車（自分で運転）」が 53.2%で最も高く、次いで「徒歩」が 45.6%、「自転車」が 33.1%となっています。
- 前回調査に比べると、「電車」の割合が高くなっています。(13.8%→20.5%)
- 全体的に、「電車」や「路線バス」の公共交通の割合が上昇傾向にあるものの、「自動車（自分で運転）」についても高くなっています。

【外出時の主な移動手段】



【性・年齢】

- 女性 後期高齢者では「徒歩」が最も高く、他の区分では「自動車（自分で運転）」が最も高くなっています。
- 男性 後期高齢者では「自転車」が42.0%と他の区分に比べて高くなっています。
- 女性 後期高齢者では「自動車（人に乗せてもらう）」が34.6%、「タクシー・もーりーカー」が17.0%と他の区分に比べて高くなっています。

【学区】

- 守山学区・吉身学区では「徒歩」が5割を超えています。
- 玉津学区・速野学区では「電車」が他の区分に比べて低く、特に玉津学区では1割未満となっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では、「自動車（人に乗せてもらう）」「病院や施設のバス」「歩行器・シルバーカー」「タクシー・もーりーカー」などが高くなっています。

【家族構成】

- 1人暮らしでは「路線バス」「タクシー・もーりーカー」が他の区分に比べて高くなっています。
- 息子・娘との2世帯では「自動車（人に乗せてもらう）」が他の区分に比べて高くなっています。
- 「徒歩」は夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が56.3%と他の区分に比べて高くなっています。

単位：％

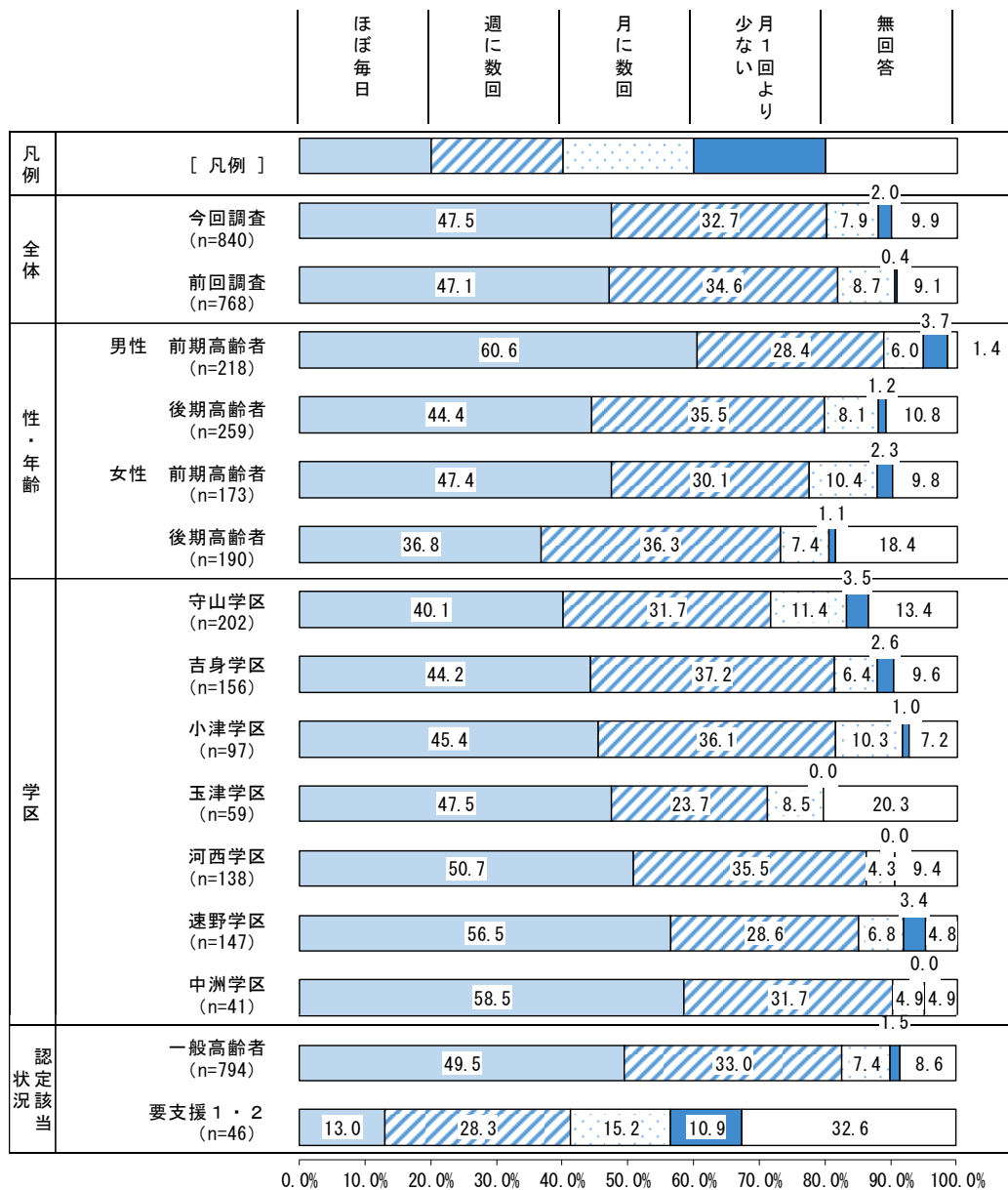
		母数	外出時の主な移動手段														単位：%
			徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せて もらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	「前回／車いす」 「今回／車いす」(手動)	「前回／車いす」 「今回／車いす」(電動)	歩行器・シルバーカー	タクシー・ モーターカー	その他	無回答	
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	41.9	27.3	4.7	△ 67.7	▼ 4.0	22.0	8.7	0.9	0.6	-	0.3	0.3	0.6	27.6	
	後期高齢者 (n=431)	431	47.8	42.0	3.0	60.1	14.4	18.3	8.1	0.9	1.2	0.5	1.4	8.6	1.2	20.0	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	45.3	32.4	1.5	52.9	23.2	25.4	11.0	1.5	0.3	-	0.6	5.5	0.6	28.4	
	後期高齢者 (n=500)	500	46.2	29.6	2.2	▼ 38.0	△ 34.6	18.2	10.8	0.6	0.8	0.2	4.4	17.0	1.6	19.4	
学区	守山学区 (n=402)	402	52.7	35.6	2.0	50.2	21.6	27.6	8.7	0.7	0.7	0.2	1.5	9.2	1.0	22.6	
	吉身学区 (n=314)	314	53.2	34.4	2.9	49.7	22.6	△ 31.2	11.1	1.6	1.3	-	2.9	10.5	2.2	18.5	
	小津学区 (n=163)	163	40.5	35.6	3.7	59.5	19.0	14.7	9.8	0.6	1.2	-	2.5	5.5	0.6	22.1	
	玉津学区 (n=100)	100	37.0	35.0	5.0	59.0	23.0	▼ 7.0	9.0	-	-	-	2.0	10.0	-	21.0	
	河西学区 (n=287)	287	42.2	38.0	2.4	48.1	20.2	17.8	10.1	1.0	0.7	-	2.1	9.1	0.3	27.5	
	速野学区 (n=247)	247	40.5	▼ 23.1	2.4	59.5	17.0	▼ 10.1	10.9	1.2	0.4	0.8	1.2	8.1	1.6	25.1	
	中洲学区 (n=67)	67	▼ 25.4	▼ 19.4	4.5	61.2	17.9	11.9	3.0	-	-	-	1.5	9.0	-	26.9	
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	45.6	34.1	2.8	54.1	18.8	21.4	9.7	0.7	0.4	0.1	1.0	7.6	0.9	24.3	
	要支援1・2 (n=111)	111	45.0	▼ 19.8	2.7	▼ 40.5	△ 42.3	▼ 9.0	9.0	3.6	5.4	0.9	△ 15.3	△ 26.1	3.6	7.2	
家族構成	1人暮らし (n=249)	249	47.0	32.9	2.4	50.2	18.1	22.1	16.5	2.0	0.8	0.4	2.8	16.1	1.2	18.5	
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=645)	645	48.1	37.4	2.8	57.2	19.4	24.2	8.4	0.5	0.5	0.2	0.5	8.1	0.8	23.6	
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=71)	71	△ 56.3	33.8	5.6	△ 64.8	14.1	29.6	11.3	-	2.8	-	-	5.6	-	16.9	
	息子・娘との2世帯 (n=326)	326	42.0	29.4	3.7	49.7	26.1	15.0	8.0	0.9	0.6	0.3	3.7	8.6	0.9	22.7	
	その他 (n=267)	267	40.1	28.8	1.5	47.2	20.6	15.7	8.6	1.5	1.1	-	3.0	5.6	1.9	28.5	

④ 自動車の運転と免許返納について

●問2.9-1 あなたは自動車の運転をどの程度されていますか。(○は1つ)

【全体】	
○	自動車の運転頻度について、「ほぼ毎日」が 47.5%で最も高く、次いで「週に数回」が 32.7%、「月に数回」が 7.9%となっています。
【性・年齢】	
○	男性 前期高齢者では「ほぼ毎日」が 60.6%と他の区分に比べて高くなっています。
【学区】	
○	「ほぼ毎日」は守山学区で最も低く 40.1%、中洲学区で最も高く 58.5%となっています。
【認定該当状況】	
○	要支援1・2では「ほぼ毎日」が 13.0%と一般高齢者に比べて大幅に低くなっています。

【自動車の運転頻度】



- 問2.9-2 あなたは自動車を運転する時、若い頃と比べて不安を感じることはありますか。(○は1つ)

【全体】

- 運転時における不安の有無について、「時々ある」が35.8%で最も高く、次いで「あまりない」が32.4%、「ある」が13.6%となっています。
○ 「ある」「時々ある」を合わせた“ある”は49.4%となっています。

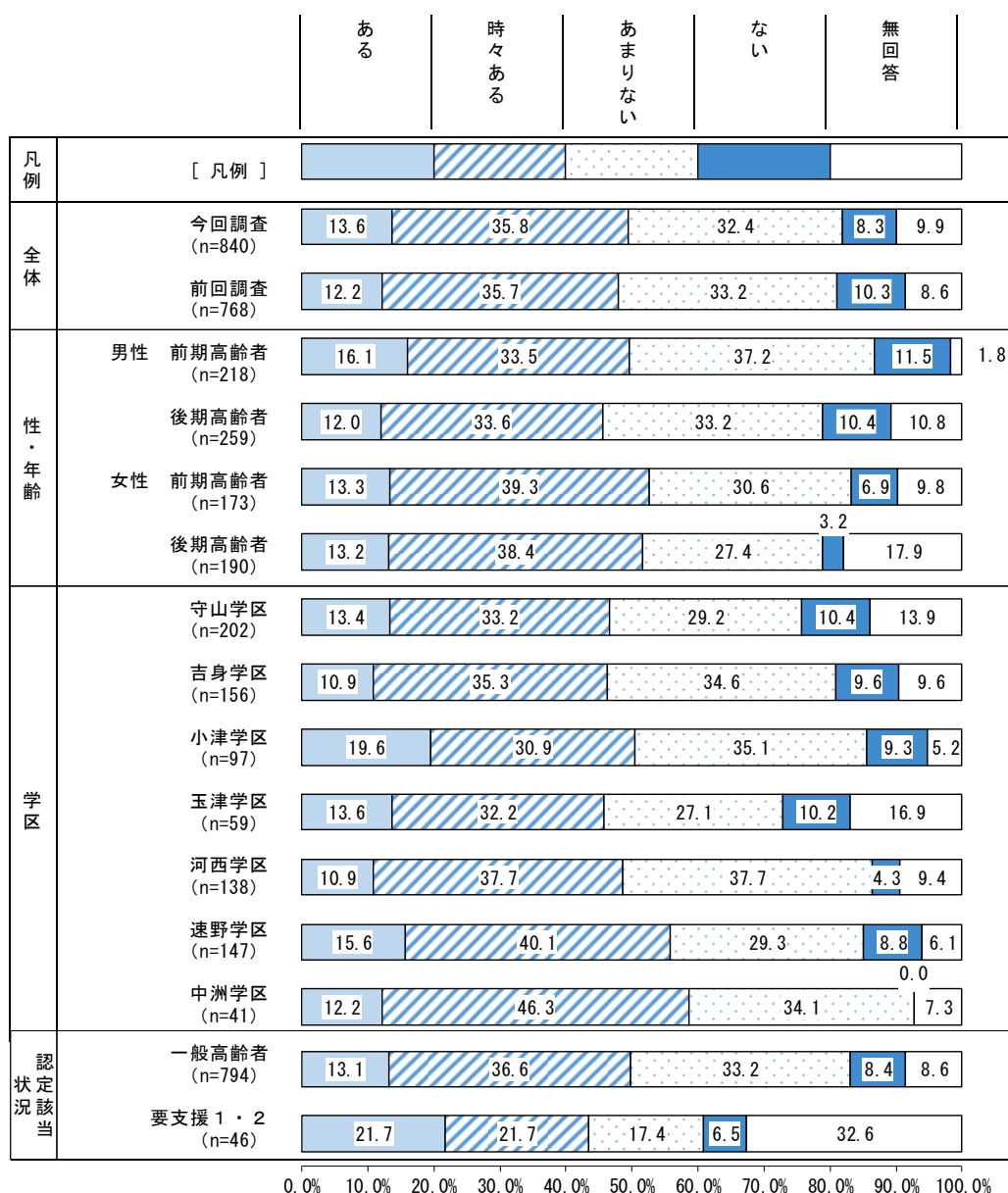
【性・年齢】

- 「ある」は男性 前期高齢者が16.1%と他の区分に比べて高くなっています。
○ “ある”は女性 前期高齢者が52.6%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「ある」が21.7%と一般高齢者に比べて高くなっていますが、“ある”は一般高齢者が49.7%と要支援1・2よりも高くなっています。

【運転時における不安の有無】



●問2.9-3 運転時に感じる不安はどのようなことですか。(いくつでも○)

【全体】

- 運転時に感じる不安の内容について、「注意力の低下」が53.0%で最も高く、次いで「視力の低下」が47.0%、「反応速度の低下」が42.4%となっています。

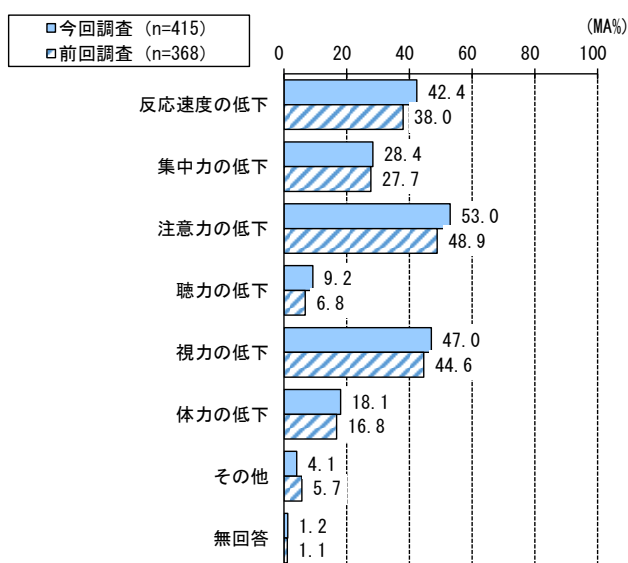
【性・年齢】

- 男性 前期高齢者では「視力の低下」が63.0%で最も高く、他の区分に比べても高くなっています。
- 男性 後期高齢者では「聴力の低下」が12.7%で他の区分に比べて高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「体力の低下」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて、「視力の低下」「その他」以外の項目で高くなっています。

【運転時に感じる不安の内容】



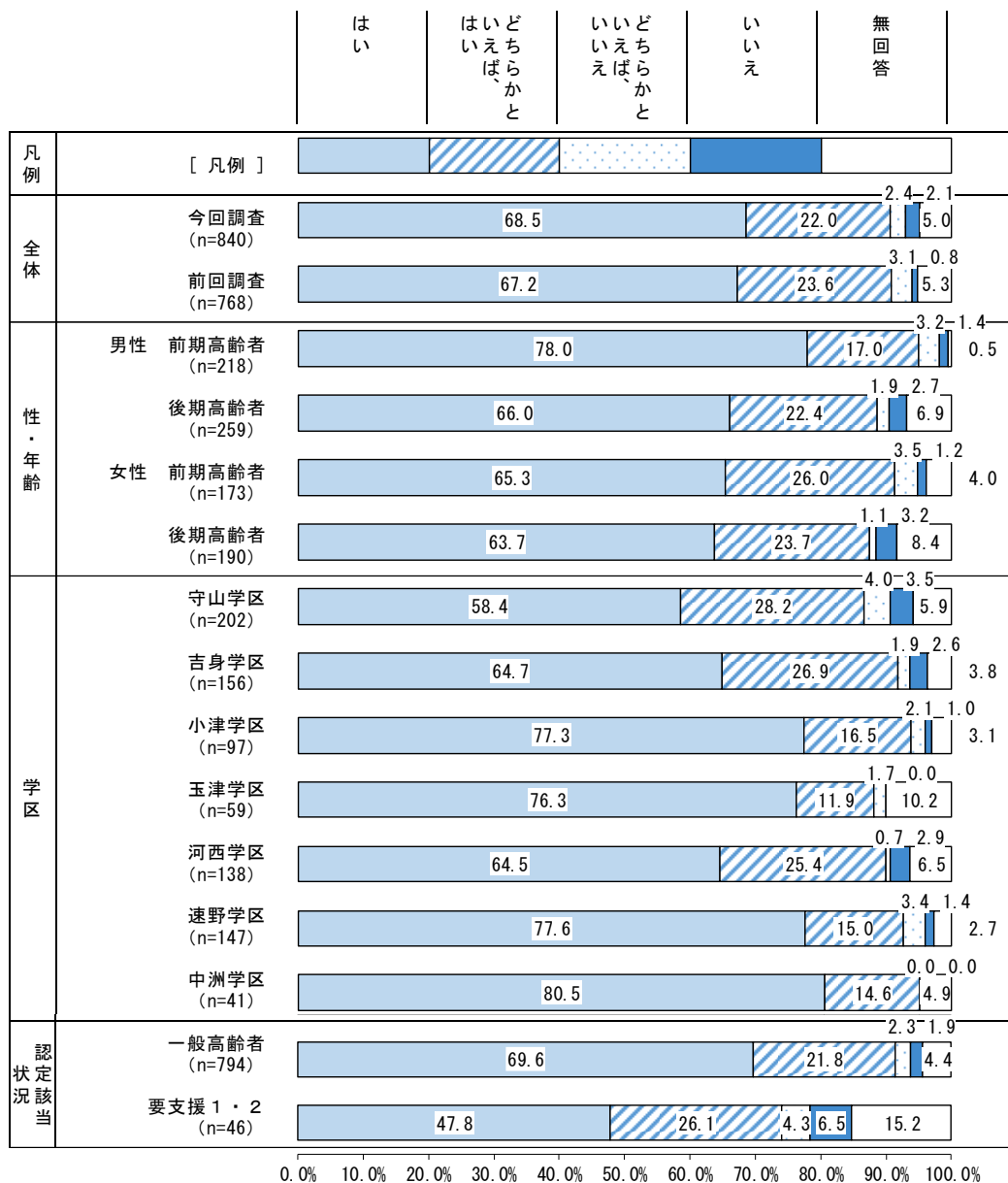
単位：%

			運転時に感じる不安の内容							
			母数	反応速度の低下	集中力の低下	注意力の低下	聴力の低下	視力の低下	体力の低下	その他
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=108)	108	49.1	36.1	52.8	8.3	△ 63.0	13.9	3.7
		後期高齢者 (n=118)	118	43.2	30.5	55.1	12.7	43.2	15.3	4.2
	女性	前期高齢者 (n=91)	91	34.1	20.9	52.7	6.6	46.2	22.0	5.5
		後期高齢者 (n=98)	98	41.8	24.5	51.0	8.2	▼ 34.7	22.4	3.1
学区	守山学区 (n=94)		94	42.6	24.5	54.3	9.6	53.2	11.7	6.4
	吉身学区 (n=72)		72	41.7	26.4	47.2	9.7	52.8	27.8	4.2
	小津学区 (n=49)		49	42.9	△ 38.8	49.0	8.2	49.0	22.4	2.0
	玉津学区 (n=27)		27	48.1	18.5	△ 63.0	11.1	▼ 33.3	▼ 7.4	3.7
	河西学区 (n=67)		67	△ 55.2	26.9	49.3	13.4	40.3	16.4	4.5
	速野学区 (n=82)		82	▼ 31.7	30.5	56.1	4.9	45.1	20.7	2.4
	中洲学区 (n=24)		24	37.5	37.5	62.5	8.3	41.7	12.5	4.2
	一般高齢者 (n=395)		395	41.8	28.1	52.2	9.1	47.1	17.0	4.3
状況認定	要支援1・2 (n=20)		20	△ 55.0	35.0	△ 70.0	10.0	45.0	△ 40.0	-

●問2.9-4 あなたにとって自動車の利用は、生活に欠かせませんか。(○は1つ)

【全体】	
○	生活における自動車利用の必要性について、「はい」が68.5%で最も高く、次いで「どちらかといえば、はい」が22.0%、「どちらかといえば、いいえ」が2.4%となっています。
【性・年齢】	
○	「はい」は男性 前期高齢者が78.0%と他の区分に比べて高くなっています。
【学区】	
○	「はい」は最も高い中洲学区で80.5%、最も低い守山学区で58.4%となっています。
【認定該当状況】	
○	「はい」は一般高齢者で69.6%、要支援1・2で47.8%となっています。

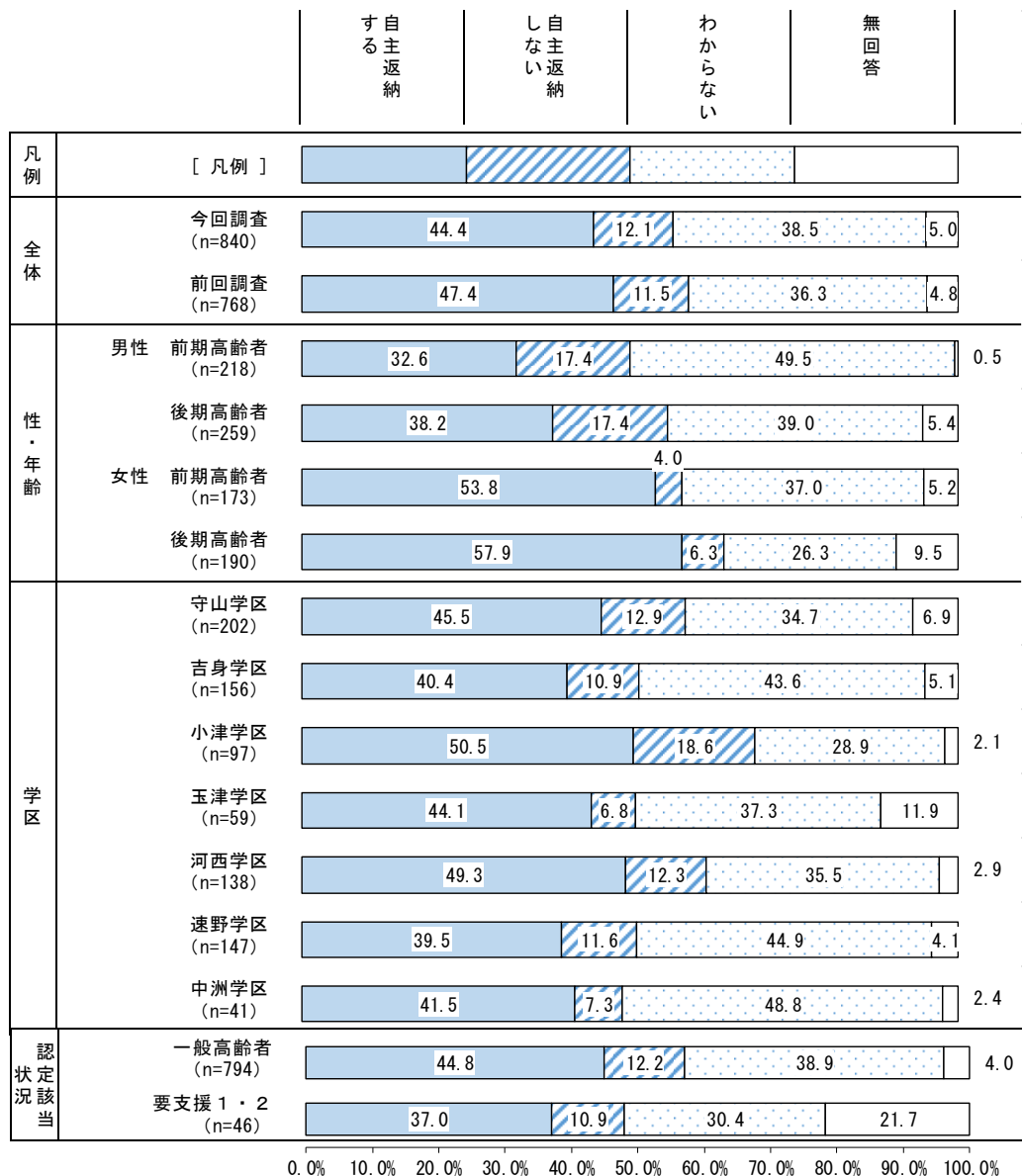
【生活における自動車利用の必要性】



- 問2.9-5 運転免許証の自主返納制度がありますが、あなたは将来的に自主返納しようと思われますか。(○は1つ)

【全体】	
○	運転免許証の自主返納の意向について、「自主返納する」が44.4%で最も高く、次いで「わからない」が38.5%、「自主返納しない」が12.1%となっています。
○	前回調査と比べ、「自主返納しない」が高く、「自主返納する」の割合が低くなっており、自主返納の意向は減少傾向にあります。
【性・年齢】	
○	男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「自主返納する」が高くなっています。
○	前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「自主返納する」が高くなっています。
【学区】	
○	小津学区と河西学区で「自主返納する」が約50%と高くなっています。
【認定該当状況】	
○	「自主返納する」は一般高齢者で44.8%、要支援1・2で37.0%となっています。

【運転免許証の自主返納の意向】

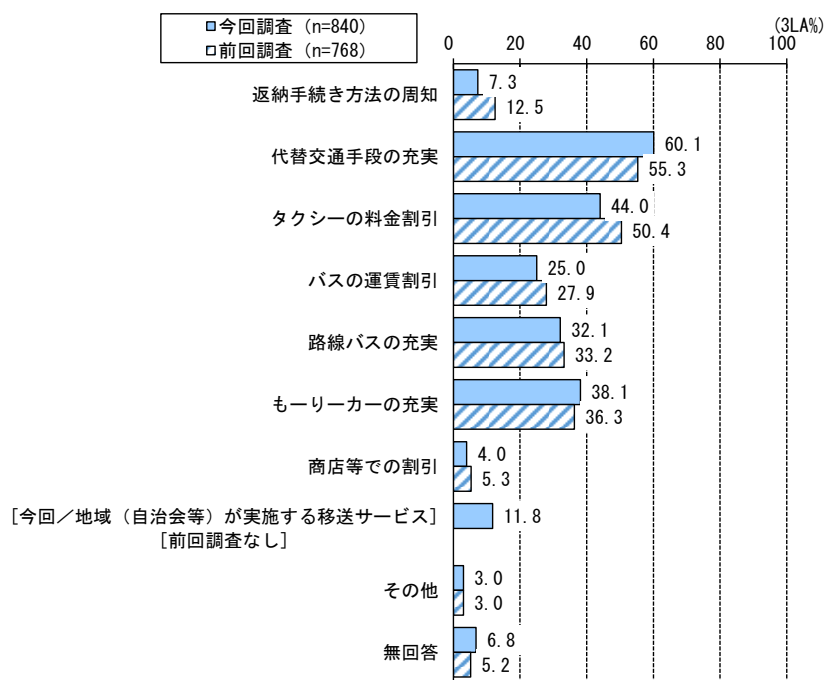


- 問2.9-6 あなたが、今後運転免許証を返納することになった場合、特にどのような支援等が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

- 免許返納後に必要となる支援について、「代替交通手段の充実」が60.1%で最も高く、次いで「タクシーの料金割引」が44.0%、「もーりーカーの充実」が38.1%となっています。
- 前回調査と比べ、「代替交通手段の充実」、「もーりーカーの充実」が高く、「タクシーの料金割引」「バスの運賃割引」が低くなっています。
- 公共交通の費用助成以上に、移動手段の確保を求められる傾向にあります。

【免許返納後に必要となる支援】



【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「代替交通手段の充実」が高くなっています。
- 女性 後期高齢者では他の区分に比べ、「バスの運賃割引」「路線バスの充実」が低く、「もーりーカーの充実」「地域（自治会等）が実施する移送サービス」が高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「タクシーの料金割引」「バスの運賃割引」が高くなっています。

【学区】

- 中洲学区、小津学区、速野学区では「もーりーカーの充実」が4割を超え高くなっています。
- 玉津学区では「地域（自治会等）が実施する移送サービス」が20.3%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べ「地域（自治会等）が実施する移送サービス」が高くなっています。

単位：％

単位：％

		母数	免許返納後に必要となる支援									
			返納手続き方法の周知	代替交通手段の充実	タクシーの料金割引	バスの運賃割引	路線バスの充実	もーりーカーの充実	商店等での割引	「前回調査なし」 「（自治会等）が実施する移送サービス」	「今回／地域（自治会等）が実施する移送サービス」	その他
性・年齢	男性 前期高齢者（n=218）	218	6.0	69.7	46.3	28.0	33.0	30.3	2.8	11.5	3.2	1.8
	後期高齢者（n=259）	259	4.6	54.8	47.1	27.0	31.7	37.1	6.9	11.6	4.6	8.1
	女性 前期高齢者（n=173）	173	11.6	65.9	42.2	26.0	37.6	42.2	3.5	10.4	2.3	4.0
	後期高齢者（n=190）	190	8.4	51.1	38.9	17.9	26.8	44.7	2.1	13.7	1.1	13.2
学区	守山学区（n=202）	202	11.9	60.4	47.0	22.3	25.7	28.2	6.4	10.4	2.5	6.9
	吉身学区（n=156）	156	7.7	61.5	46.2	25.6	28.2	35.3	3.8	12.2	4.5	8.3
	小津学区（n=97）	97	7.2	62.9	△ 55.7	15.5	39.2	46.4	3.1	12.4	-	5.2
	玉津学区（n=59）	59	3.4	55.9	42.4	20.3	35.6	37.3	1.7	20.3	3.4	8.5
	河西学区（n=138）	138	4.3	58.0	46.4	26.8	34.1	38.4	3.6	10.9	4.3	5.8
	速野学区（n=147）	147	4.8	58.5	▼ 33.3	△ 37.4	35.4	45.6	3.4	8.8	2.7	6.8
	中洲学区（n=41）	41	7.3	65.9	▼ 26.8	▼ 14.6	39.0	△ 51.2	2.4	17.1	2.4	4.9
状況認定	一般高齢者（n=794）	794	7.3	60.3	44.5	25.4	32.6	38.2	4.0	11.6	3.0	5.9
	要支援 1・2（n=46）	46	6.5	56.5	37.0	17.4	23.9	37.0	4.3	15.2	2.2	21.7

5. 食べることについて

(1) 口腔

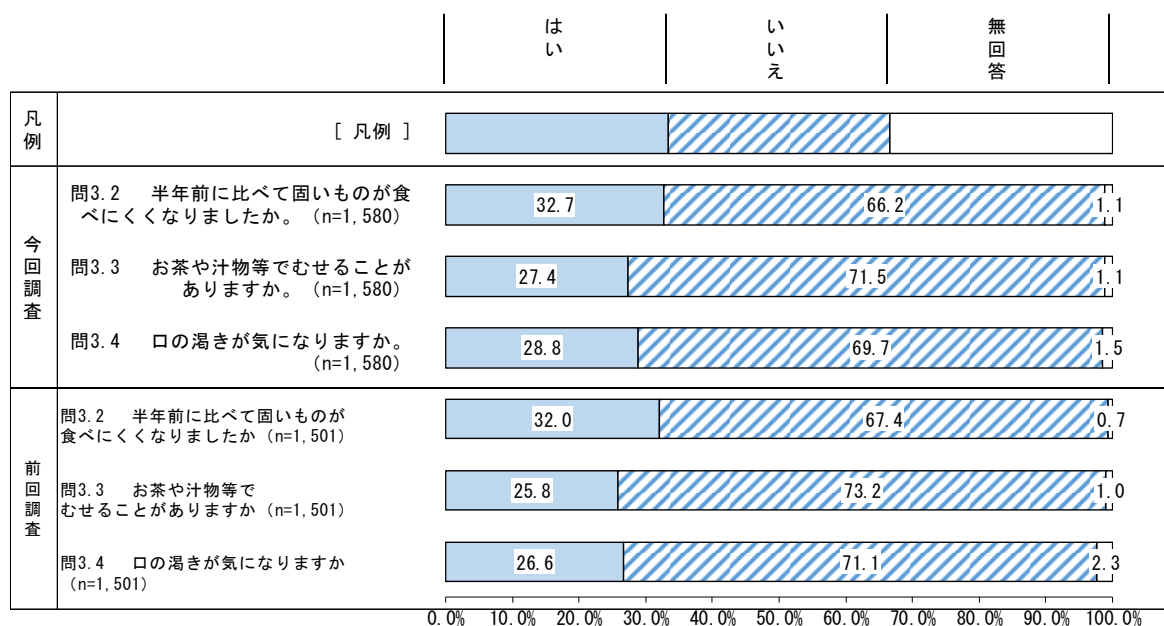
① 口内の健康状態

- 問3.2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)
- 問3.3 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)
- 問3.4 口の渇きが気になりますか。(○は1つ)

【全体】

○ [半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか] で 32.7%、[お茶や汁物等でむせることがありますか] で 27.4%、[口の渇きが気になりますか] で 28.8%の方が「はい」と回答しています。

【口内の状態について】

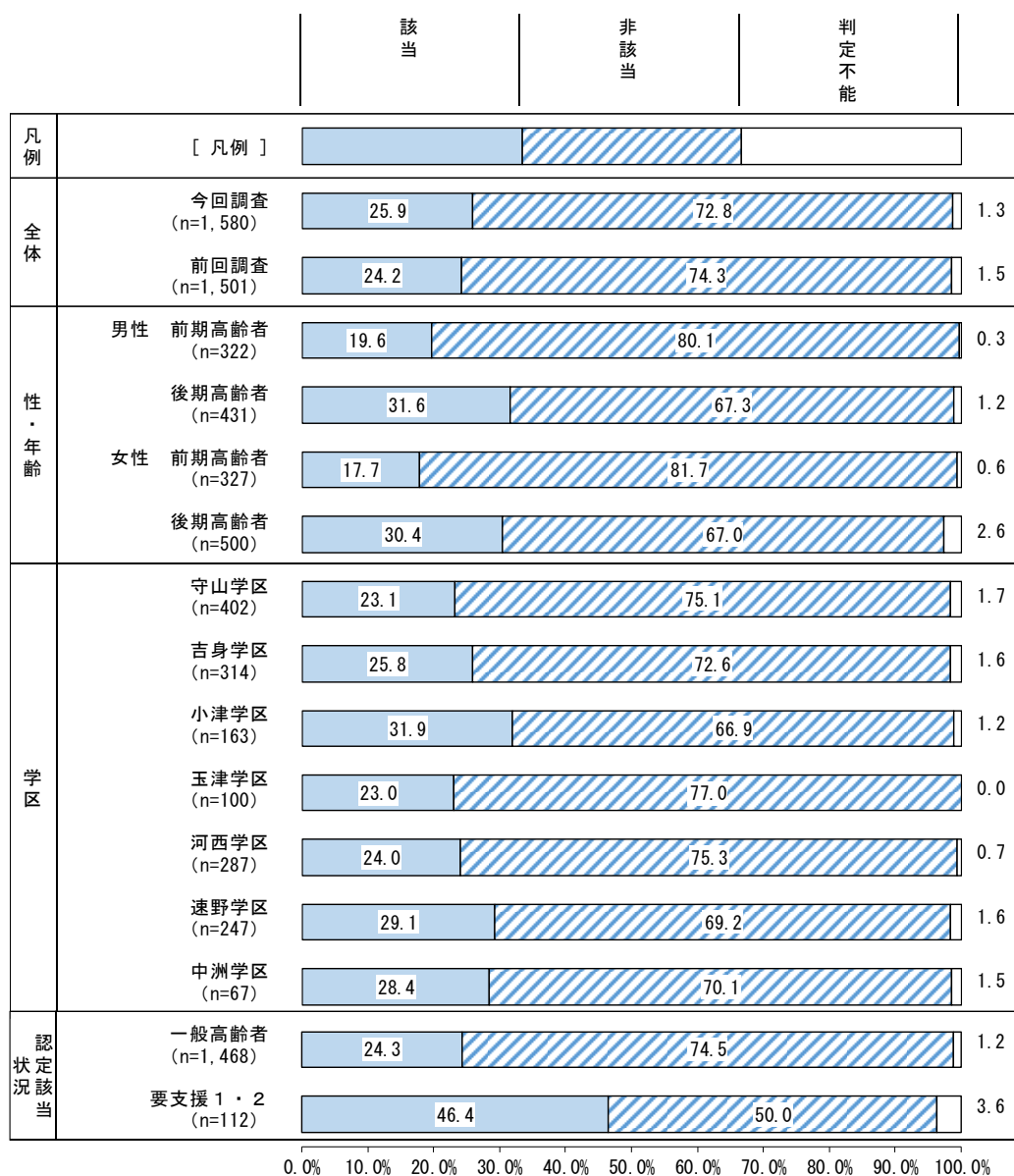


◆口腔機能の低下リスクの判定

●口腔機能の低下リスク

- 【全体】
○ 口腔機能の低下リスクについて、「該当」が25.9%、「非該当」が72.8%となっています。
- 【性・年齢】
○ 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「該当」が高くなっています。
- 【学区】
○ 小津学区、速野学区、中洲学区では「該当」が約3割となっています。
- 【認定該当状況】
○ 要支援1・2では「該当」が46.8%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【口腔機能の低下リスク】

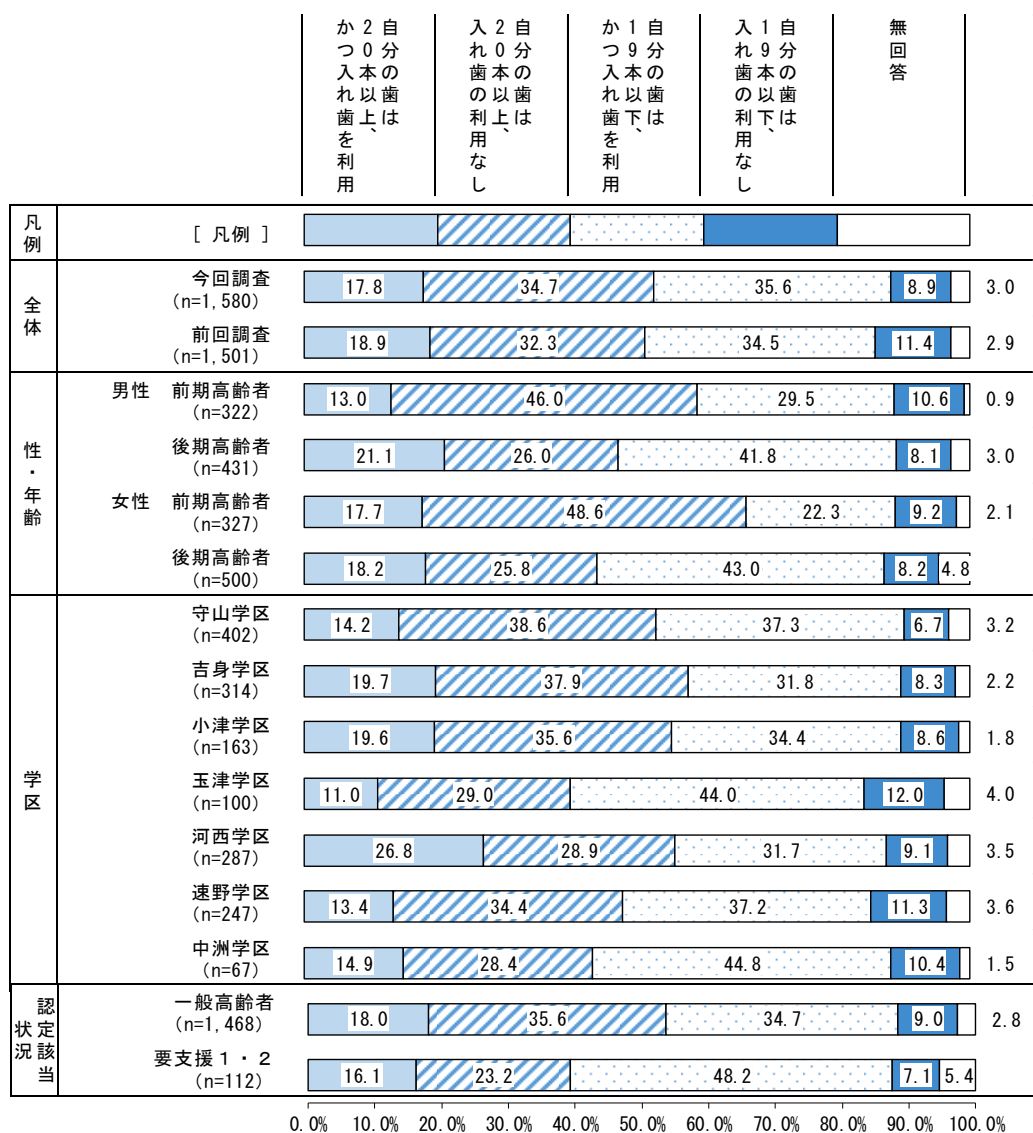


② 歯の状況

●問3.5 歯の数と入れ歯の利用状況を教えてください。(○は1つ)

【全体】	
○	歯の数と入れ歯の利用状況について、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 35.6%で最も高く、次いで「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 34.7%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 17.8%となっています。
○	「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」を合わせた“自分の歯は 20 本以上”は 52.5%となっています。
【性・年齢】	
○	“自分の歯は 20 本以上”は女性 前期高齢者で 66.3%と他の区分に比べて高く、女性 後期高齢者では 44.0%と他の区分に比べて低くなっています。
【学区】	
○	玉津学区、中洲学区では“自分の歯は 20 本以上”が約 4 割と低くなっています。
【認定該当状況】	
○	“自分の歯は 20 本以上”は一般高齢者で 53.6%、要支援 1・2 で 39.3%となっています。

【歯の数と入れ歯の利用状況】



(2) 栄養

① 体重の状況

◆栄養改善のリスクの判定

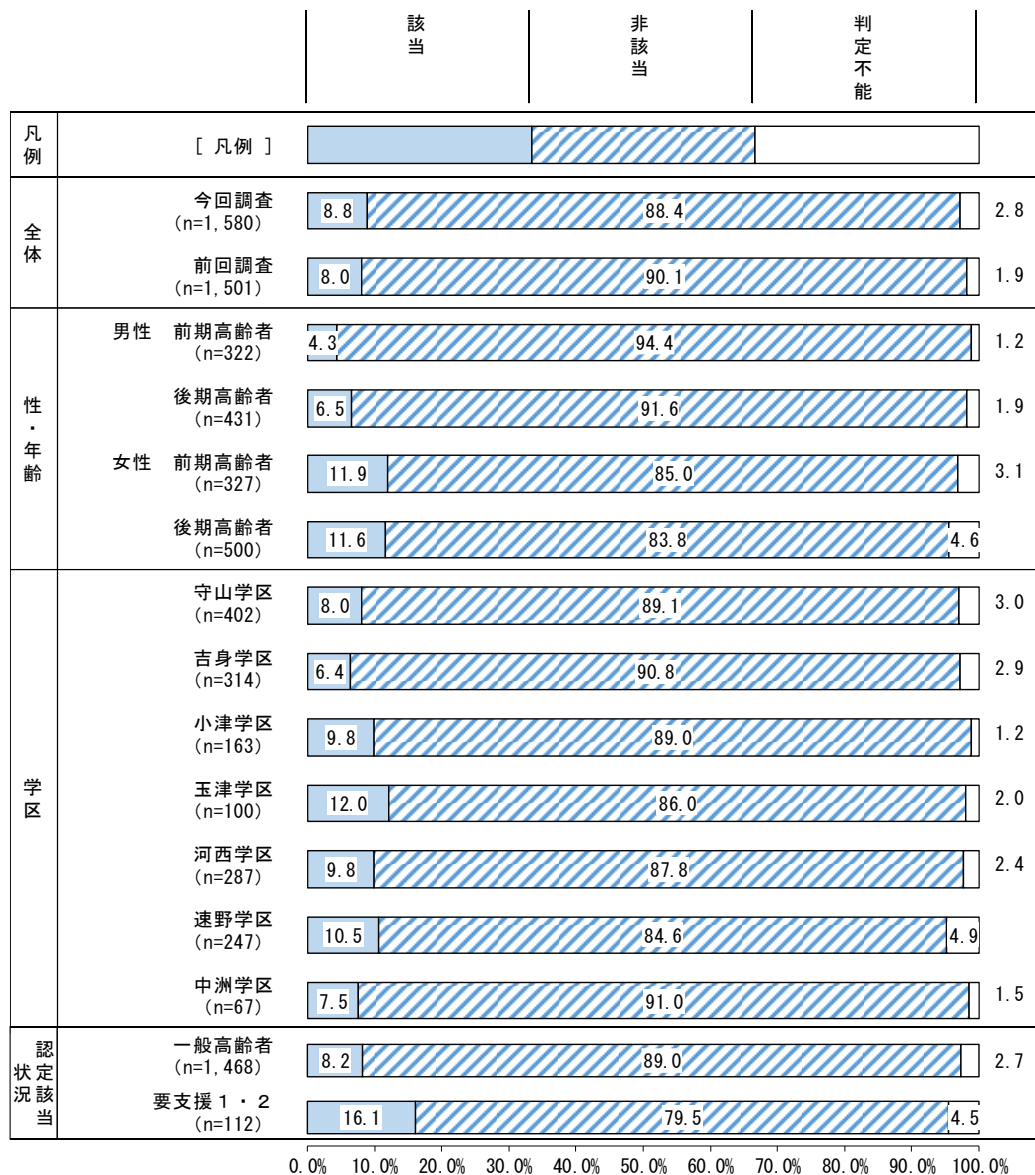
●栄養改善のリスク

以下の設問に対して該当する場合は、栄養改善リスクのある高齢者となります。

設問	選択肢
身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷身長（m） ² ）	18.5 以下

【全体】 ○ 栄養改善のリスクについて、「該当」が8.8%となっています。
【性・年齢】 ○ 女性は男性に比べて「該当」が高くなっています。
【学区】 ○ 玉津学区と速野学区で「該当」が1割を超えて、他の学区に比べて高くなっています。
【認定該当状況】 ○ 要支援1・2では「該当」が16.1%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【栄養改善のリスク】

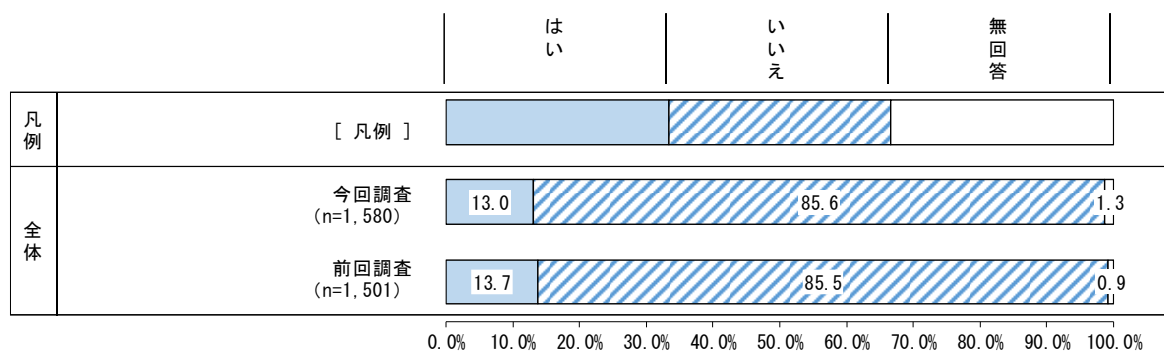


●問3.6 この6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○は1つ)

【全体】

○ 体重減少の有無（6か月で2～3kg以上）について、「はい」が13.0%、「いいえ」が85.6%となっています。

【6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無】



◆低栄養のリスクの判定

●低栄養のリスク

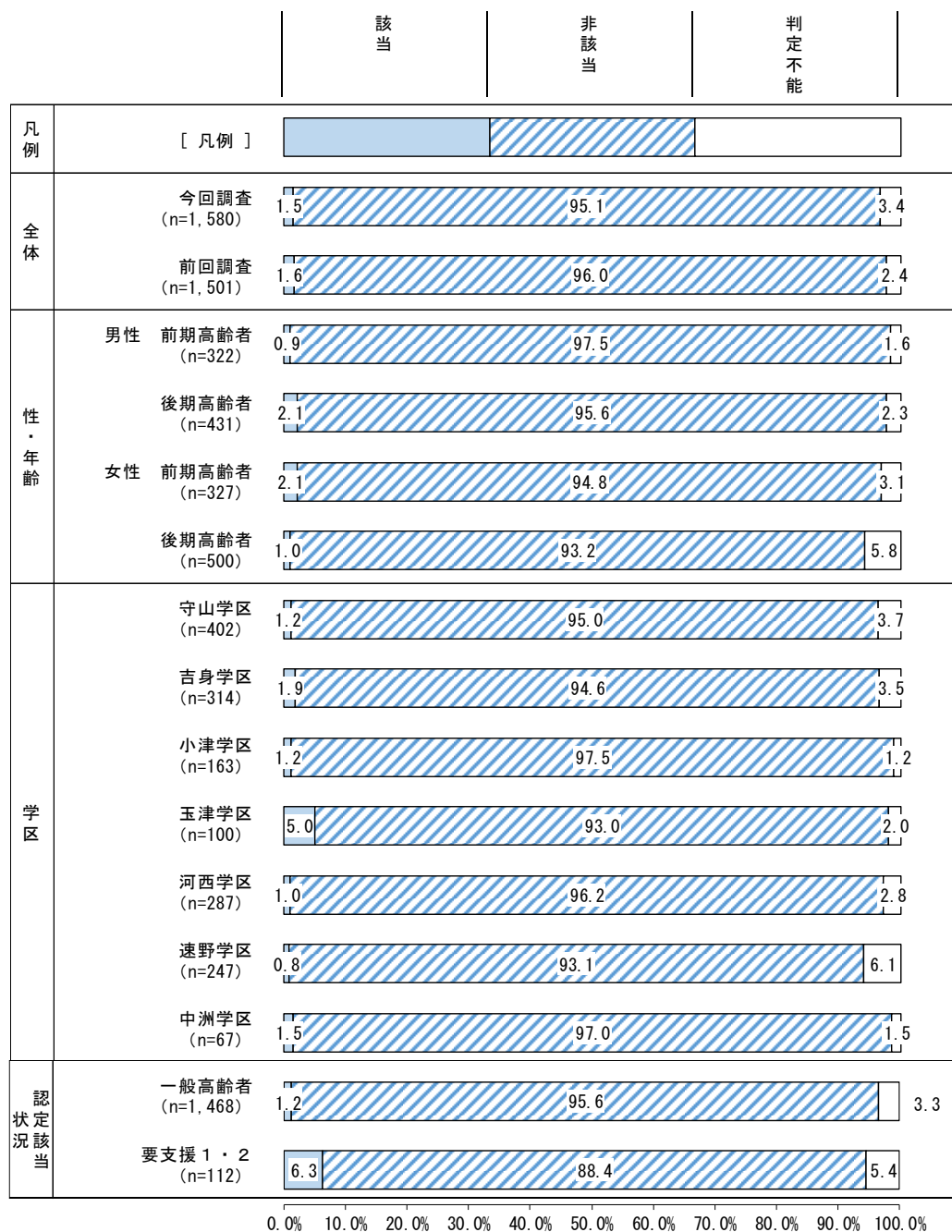
以下の設問に対して2問中2問該当する場合は、『低栄養』のリスク該当者と判定している。

設問	選択肢
問 3.1 身長・体重から算出される BMI (体重 (kg) ÷ 身長 (m) ²)	18.5 未満
問 3.6 6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか	はい

【全体】

○ 低栄養のリスクについて、「該当」が 1.5%となっています。

【低栄養のリスク】



② 孤食の状況

●問3.7 家族を含めてどなたかと食事をともにする機会がありますか。(○は1つ)

【全体】

○ 共食（誰かと食事をする）機会について、「毎日ある」が68.4%で最も高く、次いで「年に何度かある」が10.1%、「月に何度かある」が9.4%となっています。

○ 「年に何度かある」「ほとんどない」を合わせた“孤食傾向”は15.2%となっています。

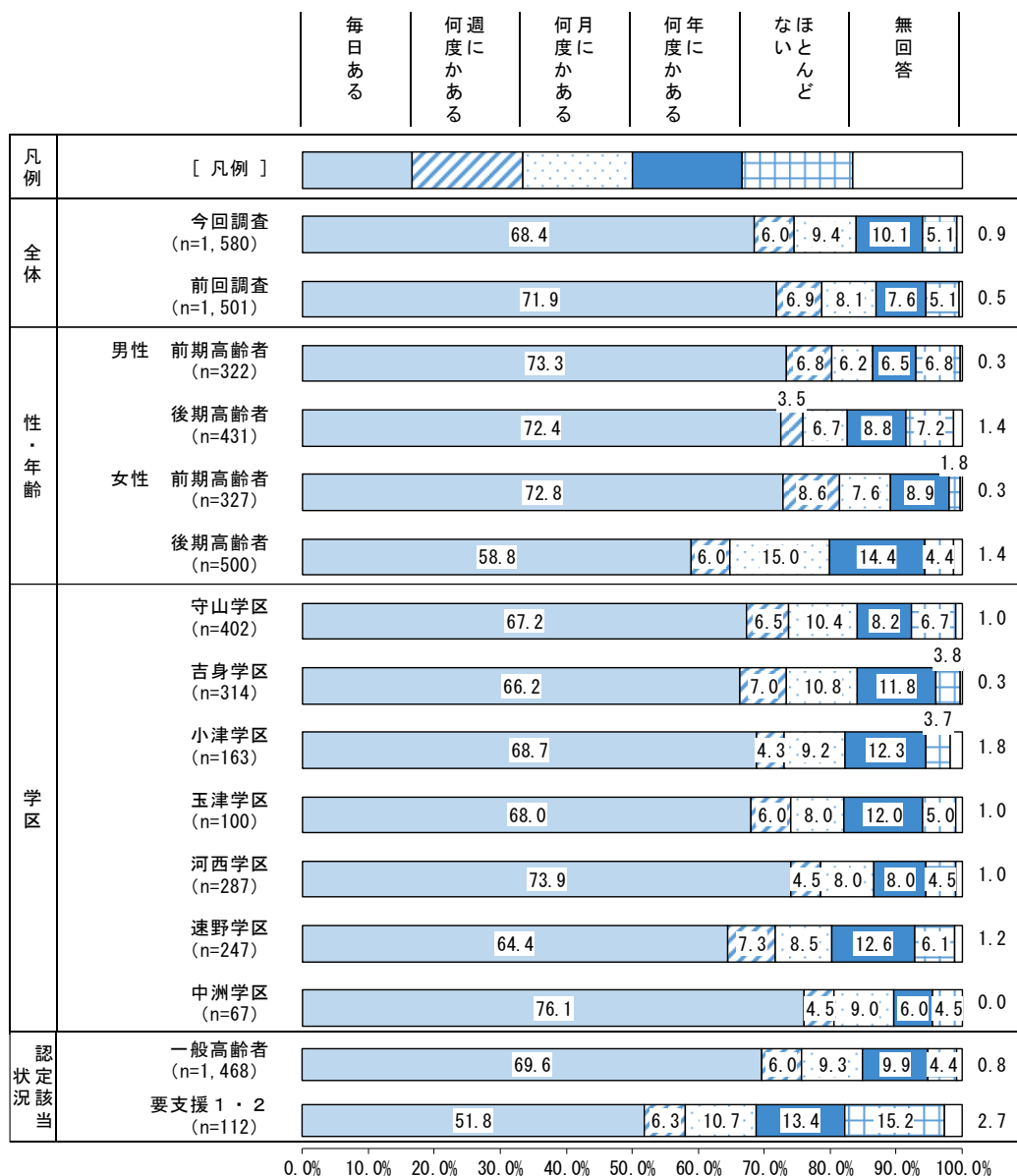
【性・年齢】

○ 女性 後期高齢者では「毎日ある」が58.8%と他の区分に比べて低く、“孤食傾向”が18.8%で他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

○ “孤食傾向”は要支援1・2で28.6%と高くなっています。

【共食の有無】



6. 毎日の生活について

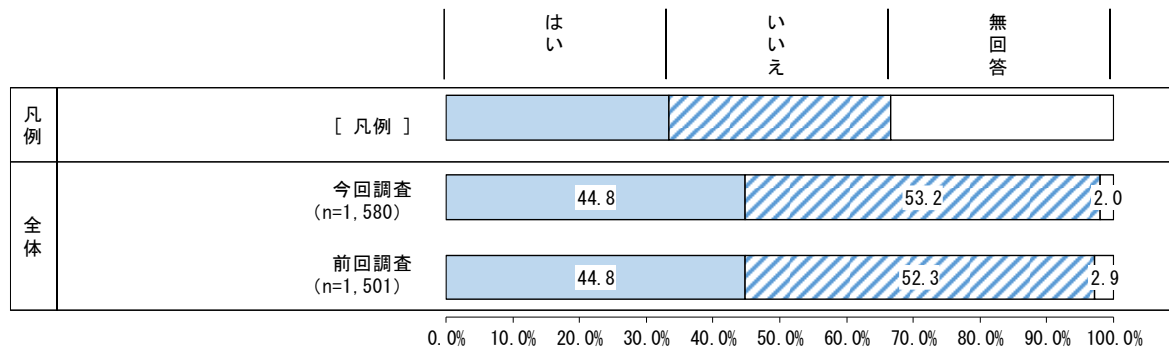
(1) 物忘れ

●問4.1 物忘れが多いと感じますか。(○は1つ)

【全体】

○ 物忘れの自覚について、「はい」が44.8%、「いいえ」が53.2%となっています。

【物忘れが多いと感じるか】



◆認知機能の低下リスクの判定

●認知機能の低下リスク

以下の設問に対して該当する場合は、『認知機能の低下』のリスク該当者と判定している。

設問	選択肢
問 4.1 物忘れが多いと感じますか	はい

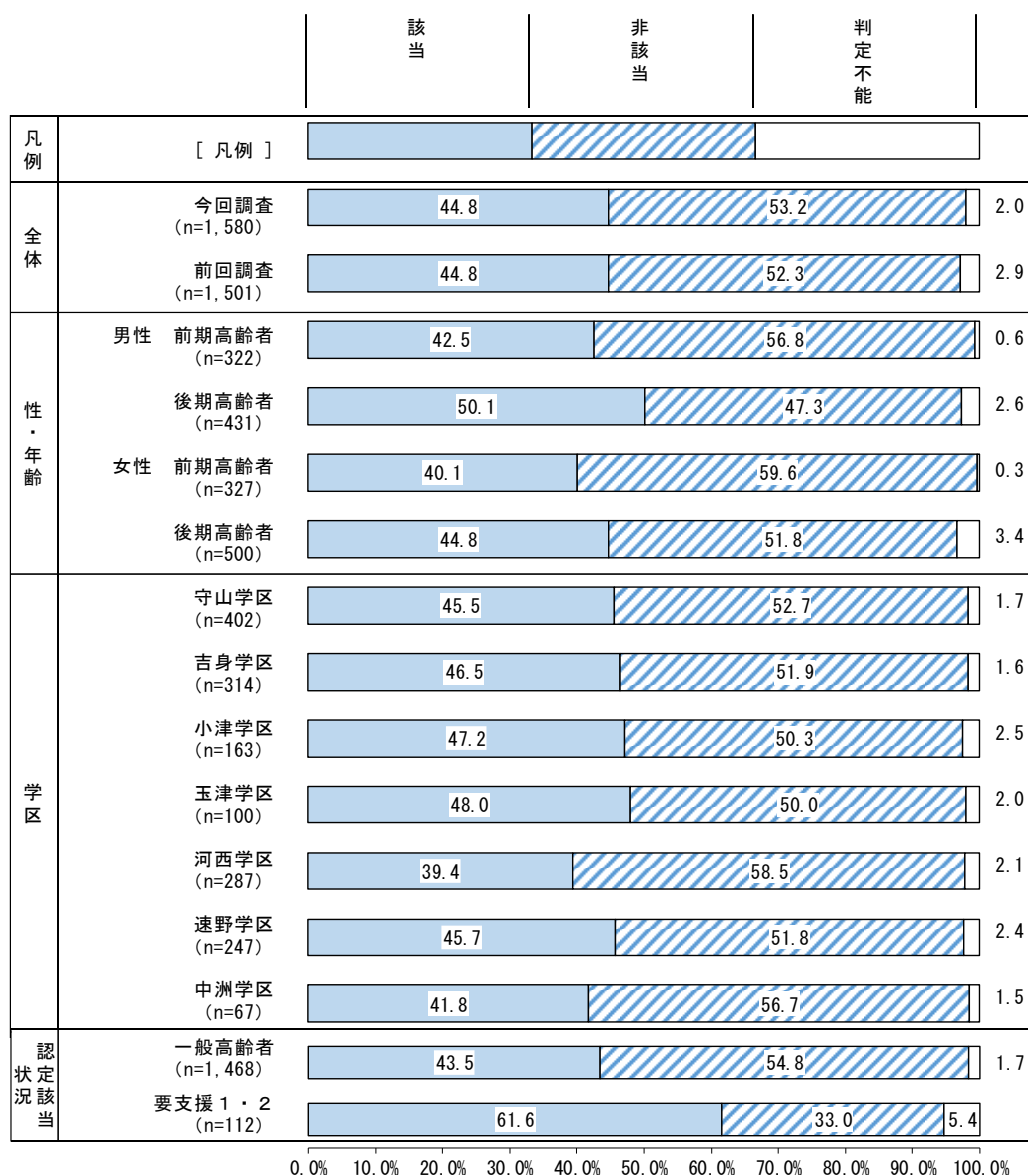
【全体】

○ 認知機能の低下リスクについて、「該当」が 44.8%となっています。

【認定該当状況】

○ 要支援 1・2 では「該当」が 61.6%と高くなっています。

【認知機能の低下リスク】

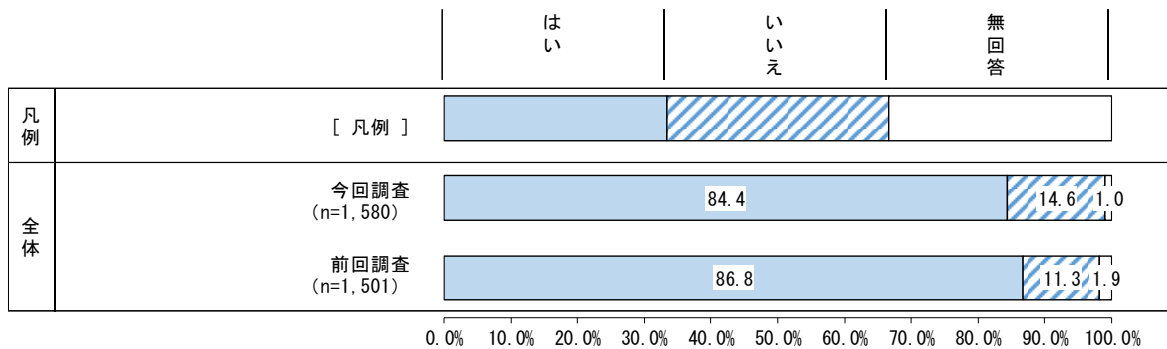


●問4.2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○は1つ)

【全体】

○ 自分で電話番号を調べて、電話をかけているかについて、「はい」が 84.4%、「いいえ」が 14.6%となっています。

【自分で電話番号を調べて、電話をかけているか】

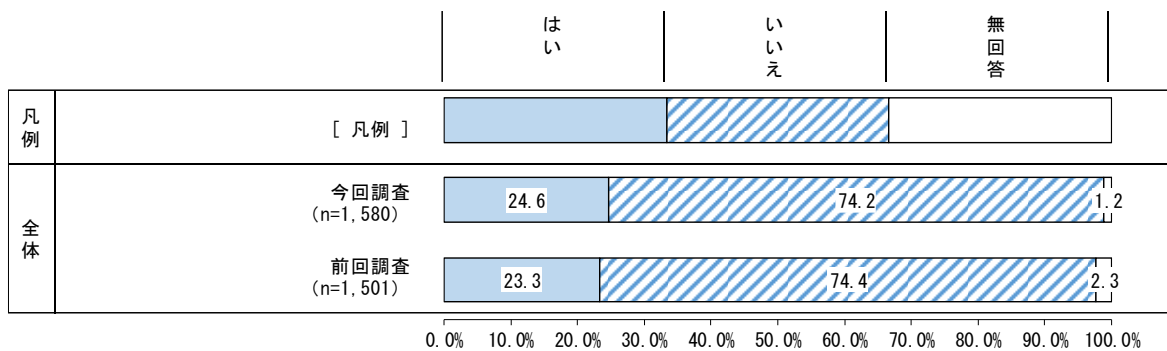


●問4.3 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○は1つ)

【全体】

○ 今日が何月何日かわからない時があるかについて、「はい」が 24.6%、「いいえ」が 74.2%となっています。

【今日が何月何日かわからない時があるか】



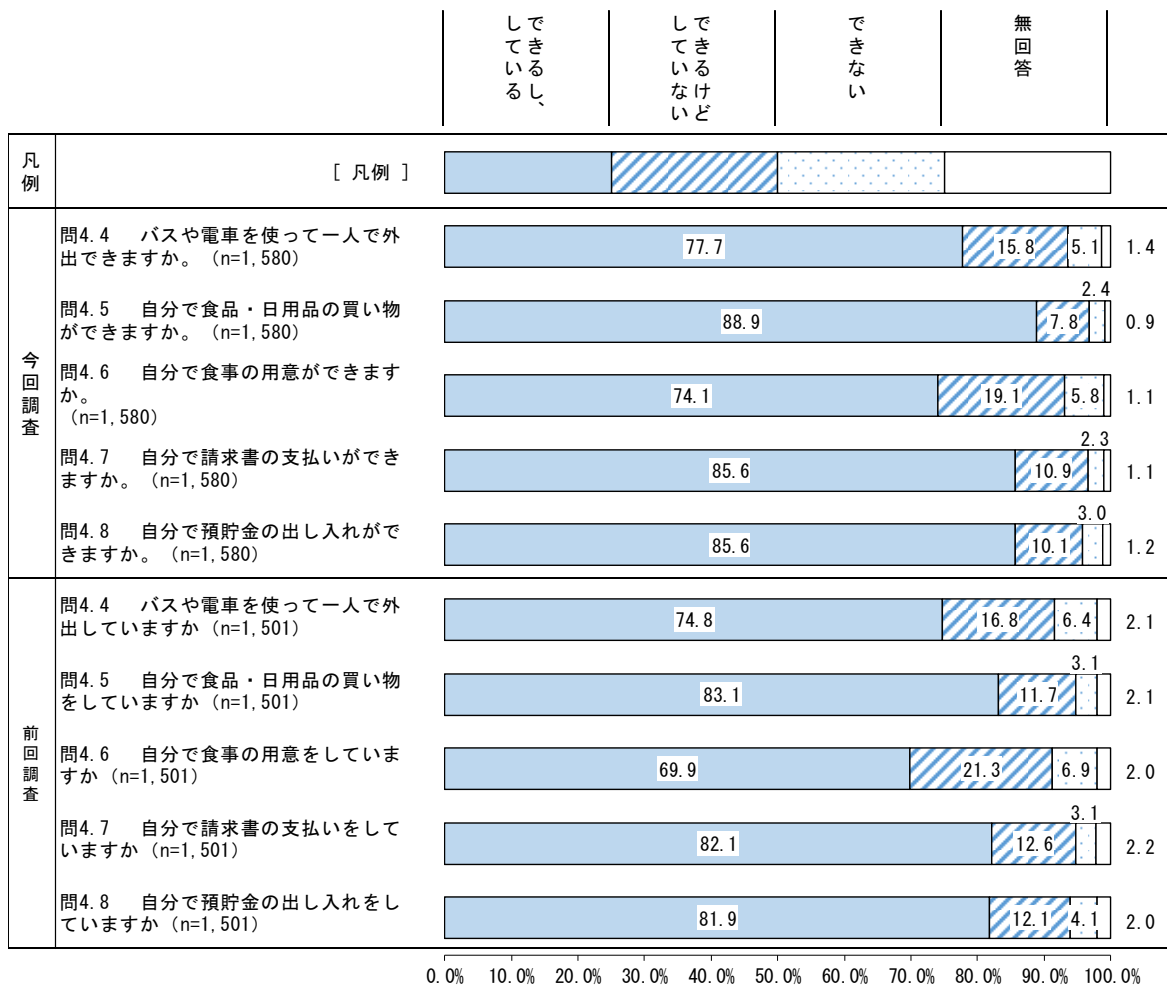
(2) 日常生活について

- 問4.4 バスや電車を使って一人で外出できますか。(○は1つ)
- 問4.5 自分で食品・日用品の買い物ができますか。(○は1つ)
- 問4.6 自分で食事の用意ができますか。(○は1つ)
- 問4.7 自分で請求書の支払いができますか。(○は1つ)
- 問4.8 自分で預貯金の出し入れができますか。(○は1つ)

【全体】

○ 「できるし、している」は、「バスや電車を使って一人で外出できますか」「自分で食事の用意ができますか」では8割を下回っています。

【日常生活の状況】

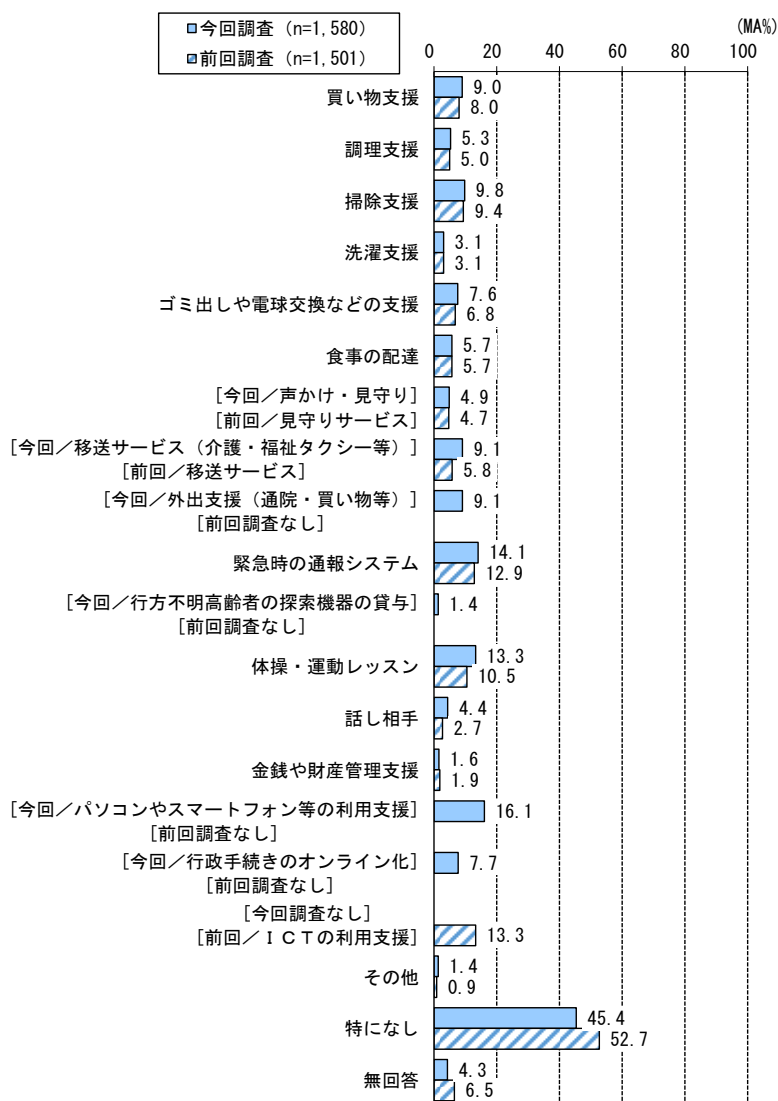


- 問4.9 日常生活を送る上で、どのようなサービスや支援を利用したいですか。(いくつでも○)

【全体】

- 利用したい生活支援サービスについて、「特になし」が45.4%で最も高く、次いで「パソコンやスマートフォン等の利用支援」が16.1%、「緊急時の通報システム」が14.1%となっています。
- 前回調査と比べ、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が高く、「特になし」が低くなっています。
- 今回調査の「パソコンやスマートフォン等の利用支援」や、前回調査の「I C Tの利用支援」が高く、I C T関連の支援について求められています。

【利用したい生活支援サービス】



【性・年齢】

- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「ゴミ出しや電球交換などの支援」「食事の配達」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「話し相手」などで高くなっています。
- 男性 前期高齢者では「行政手続きのオンライン化」が 12.7%と他の区分に比べて高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「体操レッスン」が 16.2%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援 1・2 では一般高齢者に比べて「特になし」が低く、他のすべての項目で高くなっています。

【家族構成】

- 1人暮らしでは「話し相手」「パソコンやスマートフォン等の利用支援」「買い物支援」「掃除支援」「ゴミ出しや電球交換などの支援」「声掛け・見守り」などで他の区分に比べて高くなっています。

単位：％

		母数	利用したい生活支援サービス										緊急時の通報システム
			買い物支援	調理支援	掃除支援	洗濯支援	ゴミ出しや電球交換などの支援	食事の配達	「今回／見守りサービス」	「今回／声かけ・見守り」	「前回／移送サービス」	「今回／移送サービス（介護・福祉タクシー等）」	
性・年齢	男性 前期高齢者（n=322）	322	7.8	9.0	10.9	3.7	4.7	8.1	2.5	7.5	5.6	9.6	
	後期高齢者（n=431）	431	10.9	6.5	10.0	5.6	8.8	8.6	4.9	9.5	9.7	15.5	
	女性 前期高齢者（n=327）	327	7.0	3.7	8.3	1.2	4.6	1.8	3.4	4.9	7.3	14.4	
	後期高齢者（n=500）	500	9.4	2.8	10.0	1.8	10.4	4.2	7.6	12.4	12.0	15.6	
当該認定状況	一般高齢者（n=1,468）	1,468	8.4	4.9	8.7	2.7	6.5	5.3	4.3	8.0	7.9	13.8	
	要支援１・２（n=112）	112	16.1	9.8	△ 25.0	8.9	△ 21.4	10.7	13.4	△ 22.3	△ 25.0	18.8	
家族構成	１人暮らし（n=249）	249	11.6	5.6	16.1	2.4	16.1	8.4	14.1	8.8	12.4	△ 25.3	
	夫婦２人暮らし（配偶者65歳以上）（n=645）	645	9.8	4.0	7.6	3.1	7.1	5.7	3.6	9.3	9.9	14.1	
	夫婦２人暮らし（配偶者64歳以下）（n=71）	71	9.9	7.0	12.7	4.2	2.8	4.2	-	7.0	8.5	8.5	
	息子・娘との２世帯（n=326）	326	7.4	7.4	10.7	3.7	5.8	3.7	3.4	9.2	8.6	9.8	
	その他（n=267）	267	6.7	4.9	7.5	3.0	4.1	6.4	3.0	8.6	5.2	10.9	

単位：％

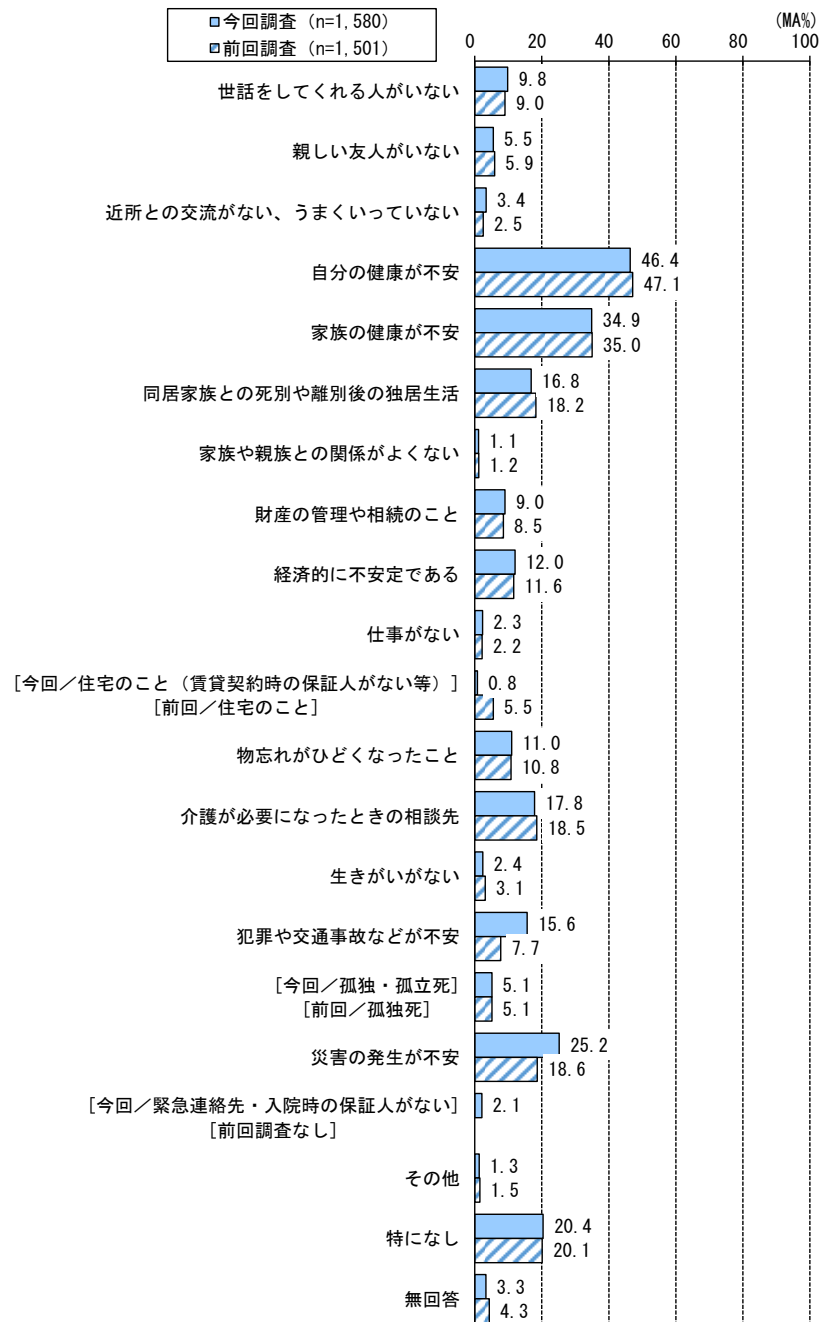
		母数	利用したい生活支援サービス									
			「前回調査なし」	「今回／探索機器の貸与」	体操・運動レッスン	話し相手	金銭や財産管理支援	「前回調査なし」	「今回／パソコンやスマートフォン等の利用支援」	「前回調査なし」	「今回／行政手続きのオンライン化」	その他
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	2.5	13.4	1.9	1.6	16.8	12.7	0.6	52.5	1.9	
	後期高齢者 (n=431)	431	1.6	9.3	5.6	2.1	17.9	8.6	0.9	43.9	5.3	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	0.3	16.2	2.4	2.1	16.8	6.7	1.8	49.5	2.4	
	後期高齢者 (n=500)	500	1.2	14.8	6.2	0.8	13.6	4.2	2.0	39.6	6.2	
当該認定状況	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	1.4	12.5	3.7	1.4	15.9	7.5	1.3	47.5	4.3	
	要支援1・2 (n=112)	112	1.8	23.2	13.4	3.6	18.8	9.8	2.7	▼18.8	4.5	
家族構成	1人暮らし (n=249)	249	1.2	13.3	10.4	0.8	19.3	6.8	2.0	▼34.5	2.4	
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=645)	645	1.6	14.6	3.4	2.5	16.6	7.3	0.9	45.0	3.6	
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=71)	71	1.4	21.1	1.4	1.4	16.9	15.5	2.8	45.1	7.0	
	息子・娘との2世帯 (n=326)	326	1.2	11.3	3.7	0.9	11.3	6.7	1.5	49.1	7.1	
	その他 (n=267)	267	1.5	11.2	3.0	0.7	18.0	8.6	1.5	51.3	3.4	

- 問4.10 日常生活を送る上で、将来、不安や心配されていることはありますか。(いくつでも○)

【全体】

- 日常生活における将来の不安・心配事について、「自分の健康が不安」が 46.4%で最も高く、次いで「家族の健康が不安」が 34.9%、「災害の発生が不安」が 25.2%となっています。
- 前回調査に比べて、「犯罪や事故などが不安」「災害の発生が不安」で特に高くなっています。

【日常生活における将来の不安・心配事】



【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「同居家族との死別や離別後の独居生活」が高くなっています。
- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「物忘れがひどくなったこと」「介護が必要になったときの相談先」が高くなっています。
- 男性 前期高齢者では「経済的に不安定である」が 17.4%で他の区分に比べて高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「犯罪や交通事故などが不安」が 20.2%、「災害の発生が不安」が 30.3%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では要支援 1・2 に比べて、「同居家族との死別や離別後の独居生活」「経済的に不安定である」などが高くなっています。

【家族構成】

- 1人暮らしでは「世話をしてくれる人がいない」「介護が必要になったときの相談先」など他の区分に比べて高くなっています。
- 夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上）では、「同居家族との死別や離別後の独居生活」が 27.3%と他の区分に比べて高くなっています。
- 夫婦2人暮らし（配偶者 64歳以下）では、「自分の健康が不安」が 50.7%、「家族の健康が不安」が 46.5%、「経済的に不安定である」が 25.4%と他の区分に比べて高くなっています。

単位：％

		母数	日常生活における将来の不安・心配事										
			世話をしてくれる人がいない	親しい友人がいない	近所との交流がない、うまくいっていない	自分の健康が不安	家族の健康が不安	同居家族との死別や離別後の独居生活	家族や親族との関係がよくない	財産の管理や相続のこと	経済的に不安定である	仕事がない	「前回／住宅のこと」「保証人がない等」「今／賃貸契約時のこと」
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	9.9	6.8	3.1	45.7	37.9	20.2	0.3	11.2	17.4	4.0	0.9
	後期高齢者 (n=431)	431	10.0	8.8	3.0	47.6	36.9	19.0	1.9	10.0	11.6	2.3	0.7
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	8.9	4.0	4.0	46.5	33.0	13.5	1.5	10.1	10.4	3.1	1.5
	後期高齢者 (n=500)	500	10.2	2.8	3.6	45.8	32.4	14.8	0.8	6.0	10.0	0.8	0.4
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	9.3	5.2	3.3	45.5	34.8	17.2	1.0	8.8	12.3	2.4	0.9
	要支援 1・2 (n=112)	112	16.1	9.8	5.4	△ 58.0	35.7	10.7	2.7	11.6	8.0	1.8	-
家族構成	1人暮らし (n=249)	249	△ 24.5	7.2	6.8	44.6	▼ 4.4	▼ 3.6	1.6	6.4	14.5	2.0	1.2
	夫婦 2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=645)	645	8.5	6.8	3.9	45.4	43.1	△ 27.3	1.2	10.9	10.7	3.3	0.8
	夫婦 2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=71)	71	5.6	4.2	-	50.7	△ 46.5	21.1	-	7.0	△ 25.4	1.4	-
	息子・娘との2世帯 (n=326)	326	3.1	3.1	1.5	46.6	34.0	9.2	0.6	6.4	8.9	0.3	1.2
	その他 (n=267)	267	9.0	4.1	2.6	48.7	40.8	12.4	1.5	9.7	13.5	3.0	0.4

単位：％

		母数	日常生活における将来の不安・心配事									
			物忘れが ひどく なった こと	介護が 必要に なった ときの 相談先	生きが いが ない	犯罪や 交通事 故など が不安	「今回 ／孤独 死・孤 立死」	災害の 発生が 不安	「今回 ／緊急 連絡先 が不在 」	その他	特にな し	無回 答
性・ 年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	9.6	18.9	2.2	14.6	5.6	19.6	4.0	0.6	22.7	1.6
	後期高齢者 (n=431)	431	14.4	20.6	3.0	13.7	6.0	23.9	1.9	1.2	17.9	4.4
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	6.4	15.6	1.2	20.2	3.4	30.3	1.5	0.9	18.3	1.2
	後期高齢者 (n=500)	500	12.0	16.0	2.8	15.0	5.2	26.6	1.4	2.0	22.4	4.8
該認 況定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	10.1	17.8	2.0	15.4	5.0	24.8	2.0	1.1	21.3	3.1
	要支援 1・2 (n=112)	112	△ 22.3	17.9	8.0	18.8	6.3	30.4	2.7	3.6	▼ 8.0	5.4
家 族 構 成	1人暮らし (n=249)	249	11.6	23.7	4.0	20.9	△ 15.7	26.9	7.6	0.8	22.5	3.6
	夫婦 2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=645)	645	9.1	18.6	1.9	15.8	5.0	27.3	1.2	1.4	20.0	3.1
	夫婦 2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=71)	71	12.7	22.5	1.4	14.1	2.8	26.8	2.8	1.4	14.1	4.2
	息子・娘との2世帯 (n=326)	326	13.8	13.2	2.8	13.8	1.2	22.4	0.6	1.2	21.2	4.3
	その他 (n=267)	267	10.1	15.0	2.2	13.9	1.5	22.8	0.7	1.1	19.5	1.9

7. 地域での活動について

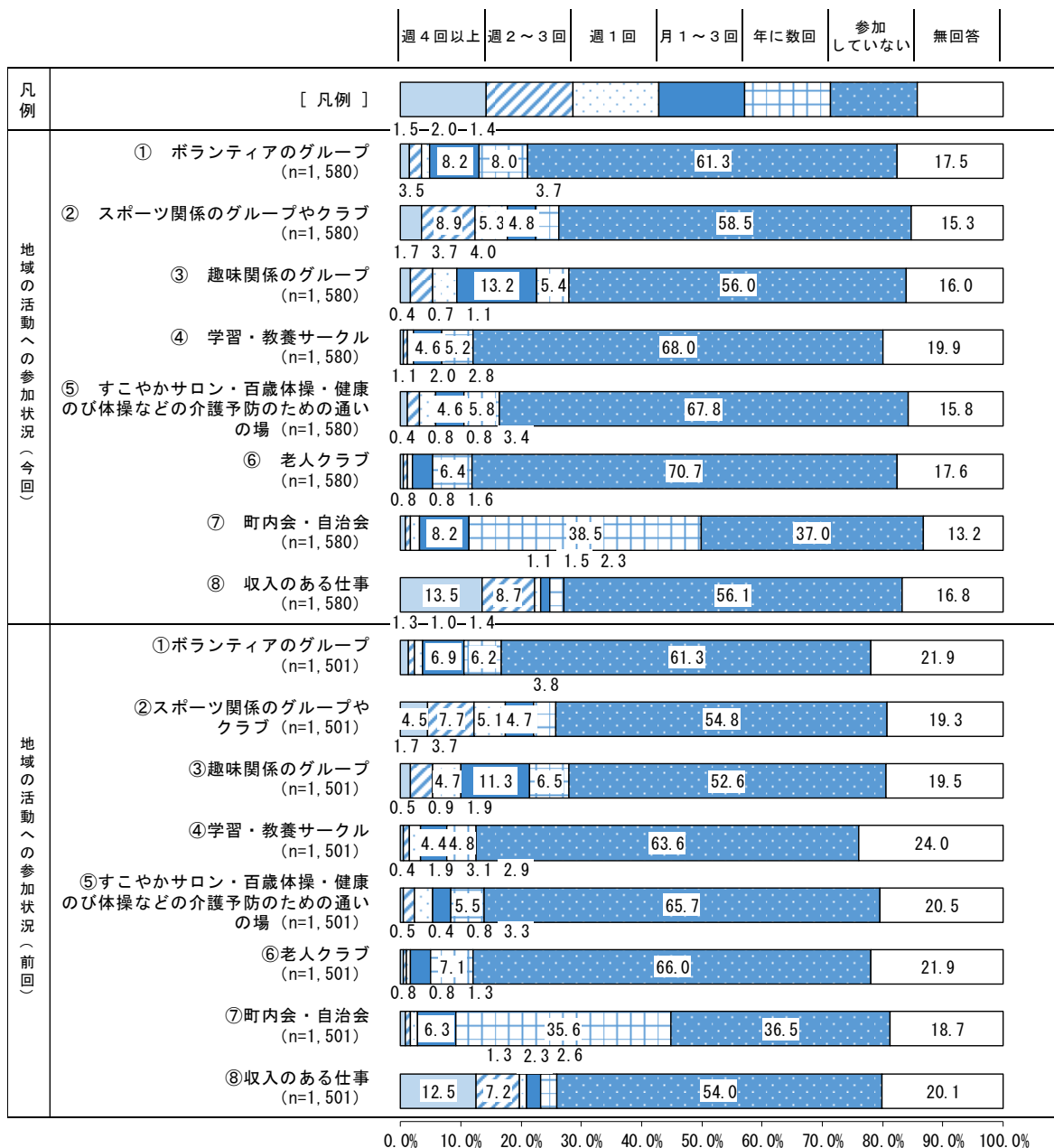
(1) 趣味・生きがいについて

- 問5.1 以下のような会・グループ等にどれぐらいの頻度で参加していますか。①～⑧のそれぞれに回答してください。(それぞれ○は1つ)

【全体】

- 「週4回以上」「週2～3回」「週1回」を合わせた“週1回以上参加している人”は〔⑧収入のある仕事〕で23.3%〔②スポーツ関係のグループやクラブ〕で17.7%と高くなっています。
- その他の項目では1割未満と低く、〔③趣味関係のグループ〕で9.4%、〔⑤すこやかサロン・百歳体操・健康のび体操などの介護予防のための通いの場〕で5.9%、〔①ボランティアのグループ〕で4.9%、〔⑦町内会・自治会〕で3.2%、〔④学習・教養サークル〕で2.2%、〔⑥老人クラブ〕で2.0%となっています。

【会・グループへの参加状況】

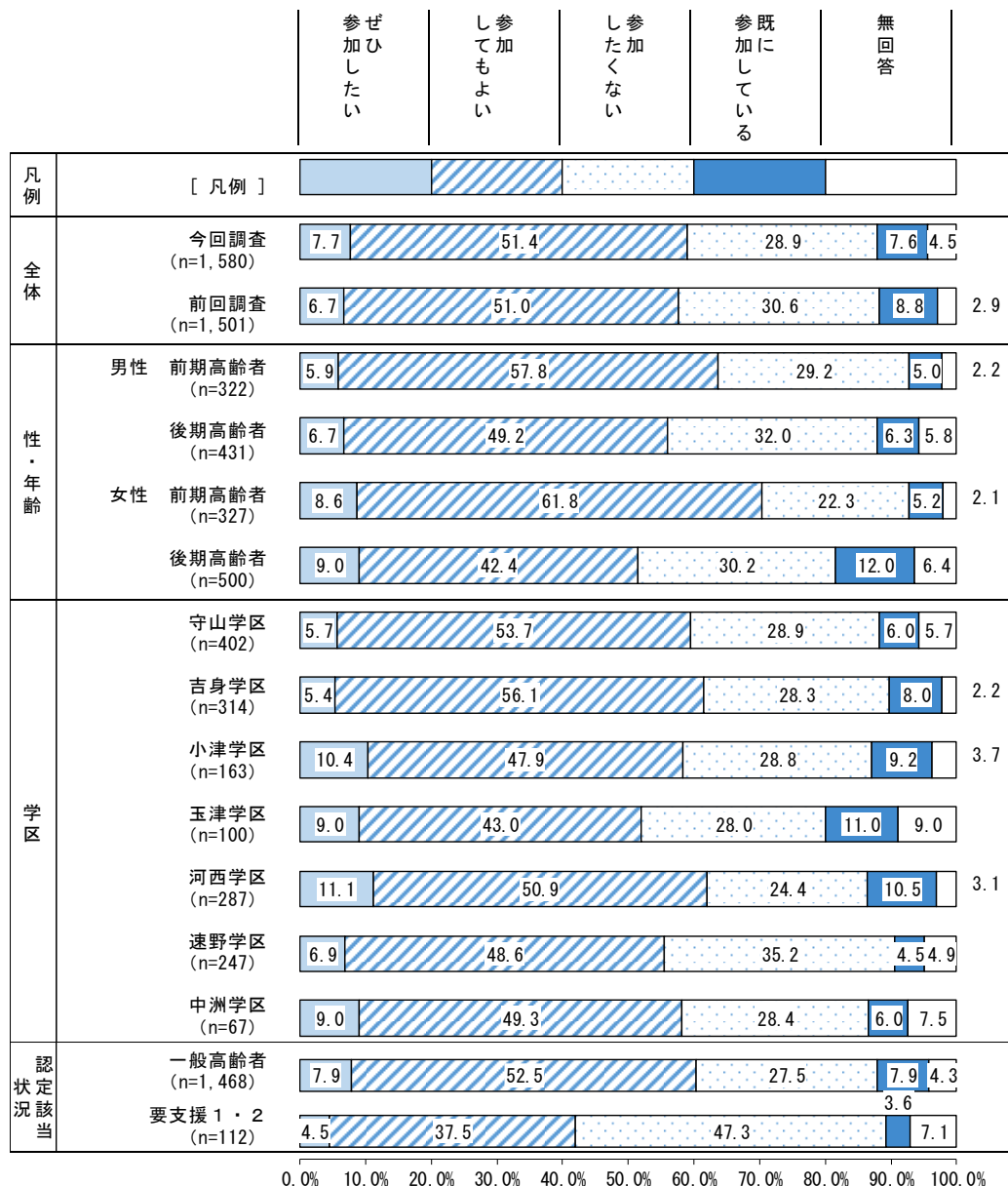


(2) 地域活動への参加意向

- 問5.2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

【全体】	
○	地域づくり活動への参加意向（参加者）について、「参加してもよい」が 51.4%で最も高く、次いで「参加したくない」が 28.9%、「ぜひ参加したい」が 7.7%となっています。
○	「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた“新規参加意向がある”は 59.1%となっています。
【性・年齢】	
○	男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて“新規参加意向がある”が高く、特に女性 前期高齢者では 70.4%となっています。
【学区】	
○	吉身学区と河西学区で“新規参加意向がある”が6割を超えています。
【認定該当状況】	
○	一般高齢者では“新規参加意向がある”が 60.4%と要支援1・2に比べて高くなっています。

【地域づくり活動への参加意向（参加者）】



- 問5.3 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（○は1つ）

【全体】

- 地域づくり活動への参加意向（運営側）について、「参加したくない」が54.7%で最も高く、次いで「参加してもよい」が33.4%、「既に参加している」が5.1%となっています。
- 「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた“新規参加意向がある”は35.7%となっています。
- 前回調査に比べると、「参加したくない」が高くなっています。

【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて“新規参加意向がある”が高く、特に男性前期高齢者では42.2%となっています。

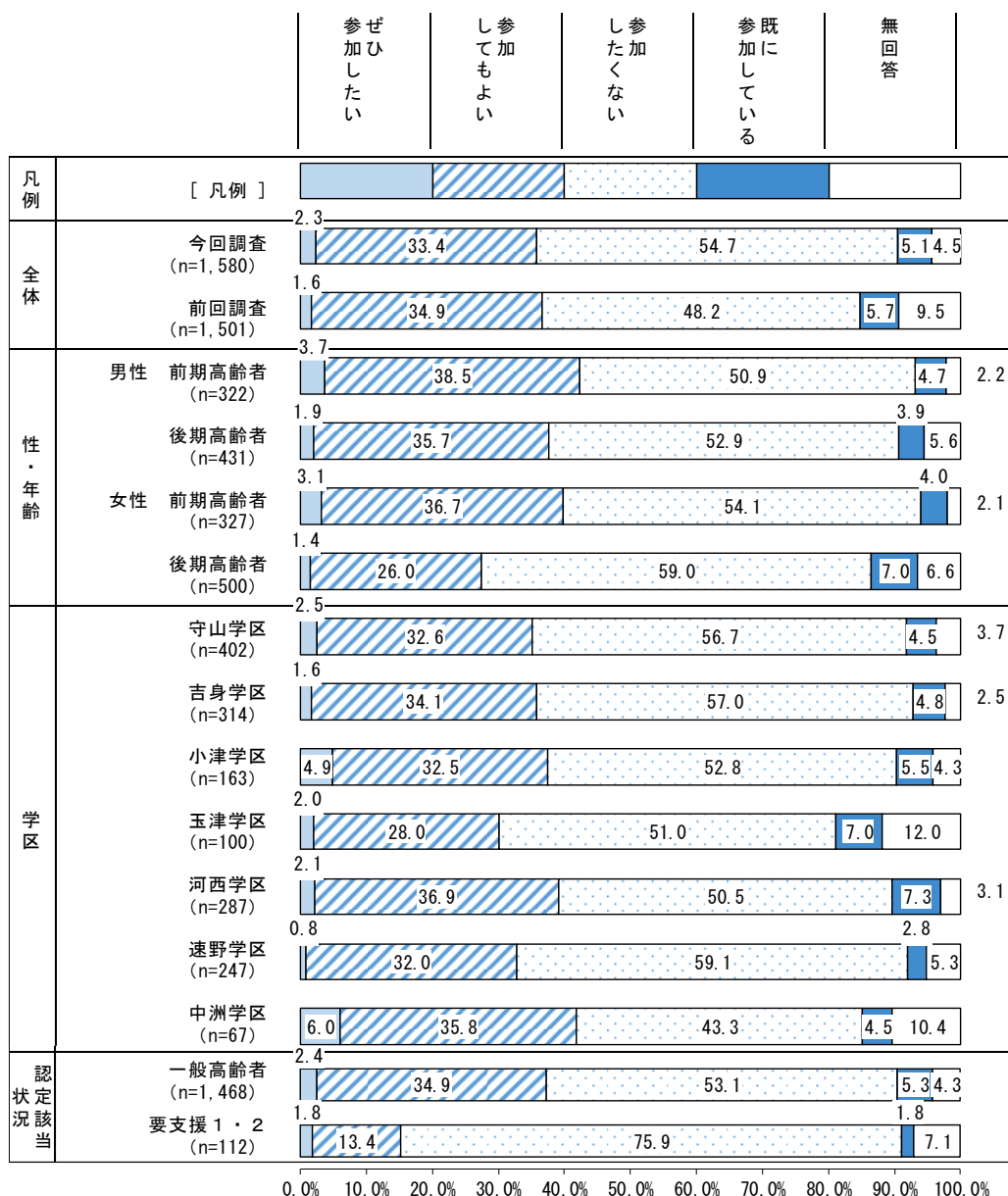
【学区】

- 中洲学区で“新規参加意向がある”が4割を超え、最も高くなっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では“新規参加意向がある”が37.3%と要支援1・2に比べて高くなっています。

【地域づくり活動への参加意向（運営側）】



●問5.3-1 参加したくない理由は何ですか。(いくつでも○)

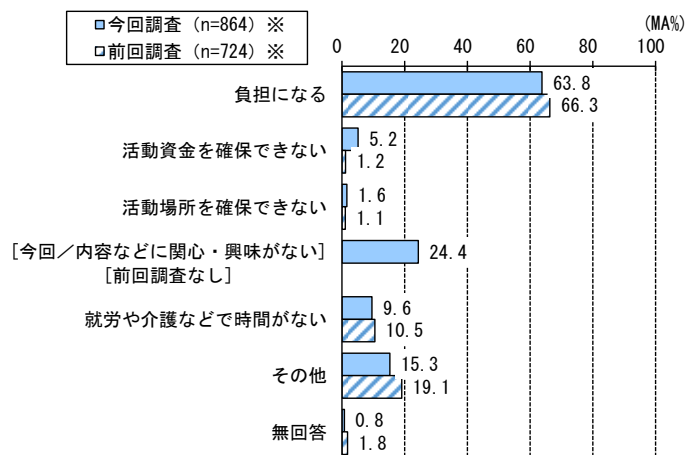
【全体】

- 地域活動に参加したくない理由について、「負担になる」が63.8%で最も高く、次いで「内容などに関心・興味がない」が24.4%、「その他」が15.3%となっています。

【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「負担になる」が高く、男性では女性に比べて「内容などに関心・興味がない」が高くなっています。
- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「就労や介護などで時間がない」が高くなっています。

【地域活動に参加したくない理由】



単位：%

			地域活動に参加したくない理由						
			負担になる	活動資金を確保できない	活動場所を確保できない	「前回調査なし」 「今回/内容などに関心・興味がない」	就労や介護などで時間がない	その他	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=164)	62.2	8.5	-	32.9	14.6	7.9	-
		後期高齢者 (n=228)	56.1	5.3	2.2	31.1	4.4	19.7	1.8
	女性	前期高齢者 (n=177)	68.9	5.1	1.7	16.4	15.8	13.6	-
		後期高齢者 (n=295)	67.5	3.4	2.0	19.3	7.1	16.9	1.0
学区	守山学区	(n=228)	64.9	5.3	0.9	22.4	8.8	15.8	1.3
	吉身学区	(n=179)	61.5	6.7	1.1	29.1	13.4	11.7	-
	小津学区	(n=86)	65.1	4.7	2.3	22.1	9.3	15.1	1.2
	玉津学区	(n=51)	68.6	3.9	2.0	31.4	5.9	19.6	-
	河西学区	(n=145)	64.1	4.1	2.1	24.1	9.0	15.9	0.7
	速野学区	(n=146)	63.7	5.5	2.7	21.9	8.2	13.7	1.4
	中洲学区	(n=29)	55.2	3.4	-	20.7	10.3	31.0	-
当該認定状況	一般高齢者	(n=779)	63.5	5.4	1.7	24.4	9.9	15.0	0.6
	要支援1・2	(n=85)	65.9	3.5	1.2	24.7	7.1	17.6	2.4

●問5.4 ボランティア活動をしたいですか。(○は1つ)

【全体】

- ボランティア活動の実施意向について、「参加したくない」が 50.1%で最も高く、次いで「参加してもよい」が 25.6%、「既に参加している」が 12.0%となっています。
- 「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせた“新規参加意向がある”は 25.6%となっています。

【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて“新規参加意向がある”が高くなっています。

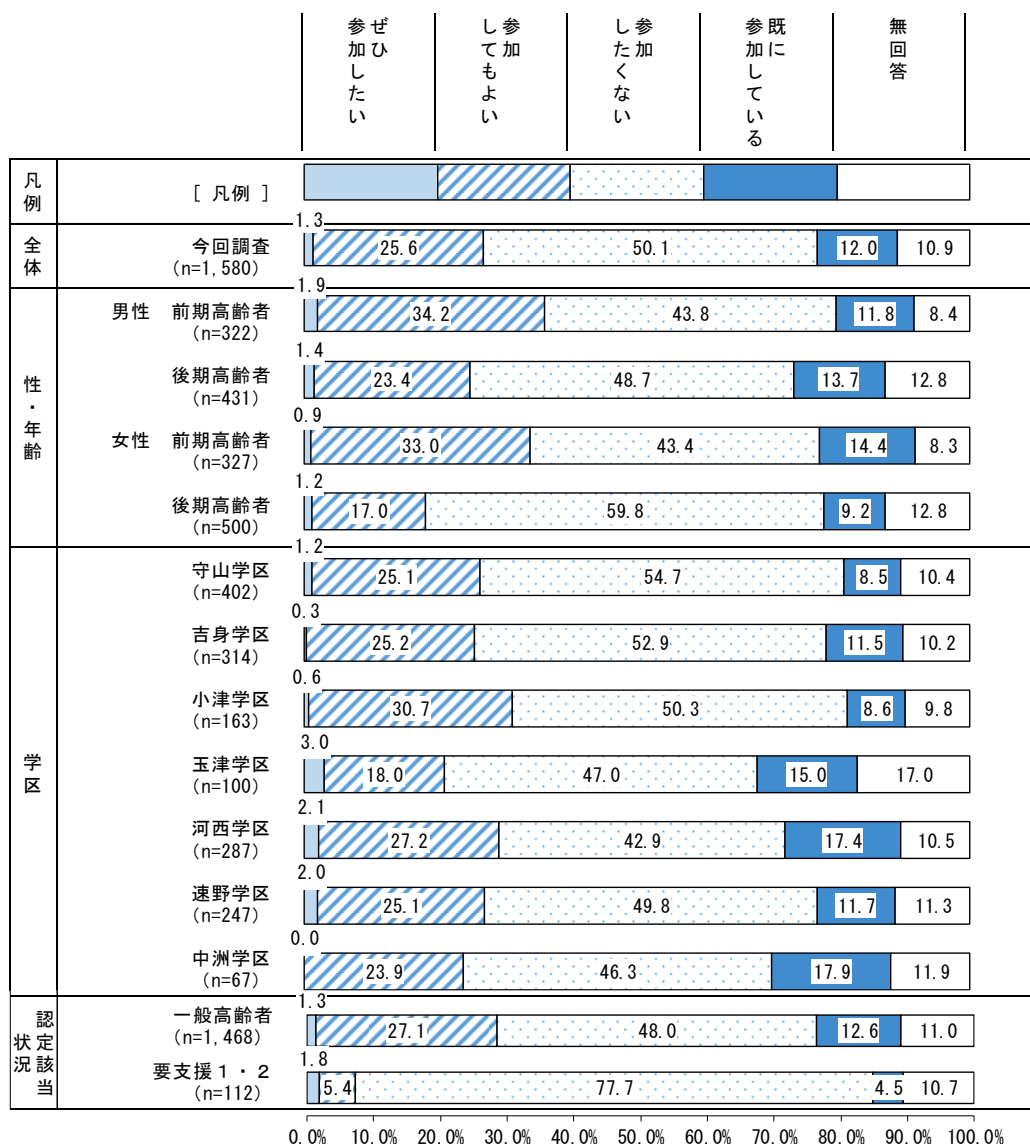
【学区】

- 小津学区で“新規参加意向がある”が3割を超え最も高く、玉津・河西・中洲学区で「既に参加している」が、他の学区より高くなっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では“新規参加意向がある”が 28.4%と要支援1・2に比べて高くなっています。

【ボランティア活動の実施意向】

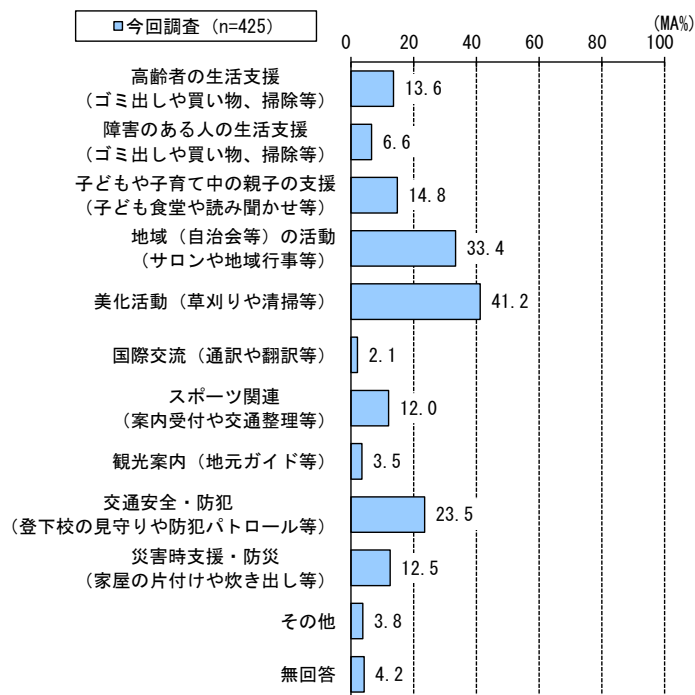


●問5. 4-1 どのような分野のボランティアをしたいですか。(いくつでも○)

【全体】

○ 希望するボランティア分野について、「美化活動（草刈りや清掃等）」が 41.2%で最も高く、次いで「地域（自治会等）の活動（サロンや地域行事等）」が 33.4%、「交通安全・防犯（登下校の見守りや防犯パトロール等）」が 23.5%となっています。

【希望するボランティア分野】



【性・年齢】

- 男性 前期高齢者では「スポーツ関連（案内受付や交通整理等）」「交通安全・防犯（登下校の見守りや防犯パトロール等）」などが他の区分に比べて高くなっています。
- 男性 後期高齢者では「美化活動（草刈りや清掃等）」が他の区分に比べて高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「高齢者の生活支援（ゴミ出しや買い物、掃除等）」「子どもや子育て中の親子の支援（子ども食堂や読み聞かせ等）」が他の区分に比べて高くなっています。

【学区】

- 小津学区では、「地域の活動（サロンや地域行事等）」が高く、玉津、速野学区では「美化活動（草刈りや清掃等）」が、中洲学区では「交通安全・防犯（登下校の見守りや防犯パトロール等）」がそれぞれ、全体と比較し高くなっています。

単位：％

		母数	希望するボランティア分野					
			掃除（高齢者の生活支援、ゴミ出しや買い物等）	掃除（障害のある人の生活支援、ゴミ出しや買い物等）	食生活（子どもや子育て中の親子の支援、読み聞かせ等）	地域活動（サロンや行事等）	地域活動（自治会等）	（美化活動や清掃等）
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=116)	116	9.5	6.9	11.2	32.8	46.6	3.4
	後期高齢者 (n=107)	107	13.1	8.4	▼ 2.8	38.3	▲ 55.1	0.9
	女性 前期高齢者 (n=111)	111	18.9	4.5	▲ 27.0	27.0	▼ 27.0	1.8
	後期高齢者 (n=91)	91	13.2	6.6	18.7	36.3	35.2	2.2
学区	守山学区 (n=106)	106	15.1	7.5	19.8	30.2	34.0	1.9
	吉身学区 (n=80)	80	16.3	5.0	16.3	27.5	43.8	3.8
	小津学区 (n=51)	51	9.8	7.8	13.7	▲ 51.0	41.2	2.0
	玉津学区 (n=21)	21	19.0	9.5	9.5	42.9	▲ 52.4	4.8
	河西学区 (n=84)	84	11.9	8.3	14.3	39.3	34.5	2.4
	速野学区 (n=67)	67	11.9	4.5	9.0	23.9	▲ 53.7	-
	中洲学区 (n=16)	16	12.5	-	12.5	25.0	43.8	-
状況認定	一般高齢者 (n=417)	417	13.4	6.7	14.6	33.3	41.5	1.9
	要支援 1・2 (n=8)	8	▲ 25.0	-	▲ 25.0	37.5	▼ 25.0	▲ 12.5

単位：％

		母数	希望するボランティア分野					
			交通案内（案内受付や交通整理等）	観光案内（地元ガイド等）	防犯（交通安全・防犯パトロール等）	炊き出し（災害時の支援）	その他	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=116)	116	▲ 22.4	7.8	32.8	16.4	2.6	1.7
	後期高齢者 (n=107)	107	12.1	4.7	24.3	15.0	3.7	6.5
	女性 前期高齢者 (n=111)	111	4.5	0.9	23.4	3.6	6.3	1.8
	後期高齢者 (n=91)	91	7.7	-	▼ 11.0	15.4	2.2	7.7
学区	守山学区 (n=106)	106	13.2	5.7	21.7	3.8	4.7	4.7
	吉身学区 (n=80)	80	13.8	1.3	21.3	20.0	6.3	1.3
	小津学区 (n=51)	51	7.8	2.0	27.5	13.7	2.0	2.0
	玉津学区 (n=21)	21	-	-	▼ 9.5	19.0	4.8	9.5
	河西学区 (n=84)	84	14.3	3.6	26.2	9.5	2.4	4.8
	速野学区 (n=67)	67	14.9	3.0	23.9	16.4	-	6.0
	中洲学区 (n=16)	16	-	12.5	▲ 37.5	18.8	12.5	6.3
状況認定	一般高齢者 (n=417)	417	12.0	3.1	23.5	12.7	3.8	3.8
	要支援 1・2 (n=8)	8	12.5	▲ 25.0	25.0	-	-	25.0

●問5.4-2 参加したくない理由は何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- ボランティアに参加したくない理由について、「負担になる」が63.9%で最も高く、次いで「内容などに関心、興味がない」が21.1%、「その他」が15.8%となっています。

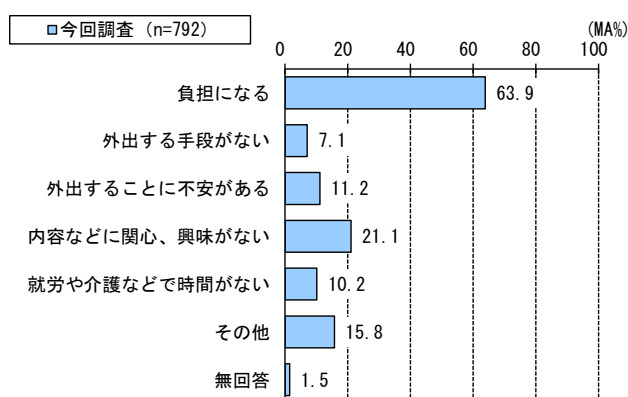
【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「内容などに関心、興味がない」が高く、特に男性 前期高齢者では34.8%となっています。
- 女性 後期高齢者では「外出する手段がない」「外出することに不安がある」が他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「外出する手段がない」「外出することに不安がある」が高くなっています。

【ボランティアに参加したくない理由】



単位：%

			ボランティアに参加したくない理由						
			母数	負担になる	外出する手段がない	外出することに不安がある	内容などに関心、興味がない	就労や介護などで時間がない	その他
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=141)	141	62.4	1.4	1.4	△ 34.8	13.5	9.2
		後期高齢者 (n=210)	210	59.0	7.6	11.4	22.9	6.2	20.5
	女性	前期高齢者 (n=142)	142	71.1	4.2	9.9	14.1	14.1	14.8
		後期高齢者 (n=299)	299	64.5	10.7	16.4	16.7	9.7	16.1
学区	守山学区 (n=220)		220	63.2	8.2	12.3	22.3	11.8	16.4
	吉身学区 (n=166)		166	61.4	6.0	10.8	19.3	12.7	16.3
	小津学区 (n=82)		82	70.7	9.8	8.5	18.3	6.1	17.1
	玉津学区 (n=47)		47	68.1	4.3	8.5	25.5	8.5	12.8
	河西学区 (n=123)		123	65.0	9.8	14.6	20.3	9.8	14.6
	速野学区 (n=123)		123	62.6	4.1	8.9	22.8	8.1	15.4
	中洲学区 (n=31)		31	58.1	3.2	12.9	19.4	9.7	16.1
状況認定	一般高齢者 (n=705)		705	64.3	5.7	9.8	21.4	10.2	14.8
	要支援1・2 (n=87)		87	60.9	△ 18.4	△ 23.0	18.4	10.3	24.1

8. 助けあいについて

(1) 周囲との相互の関係

●問6.1 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。(いくつでも○)

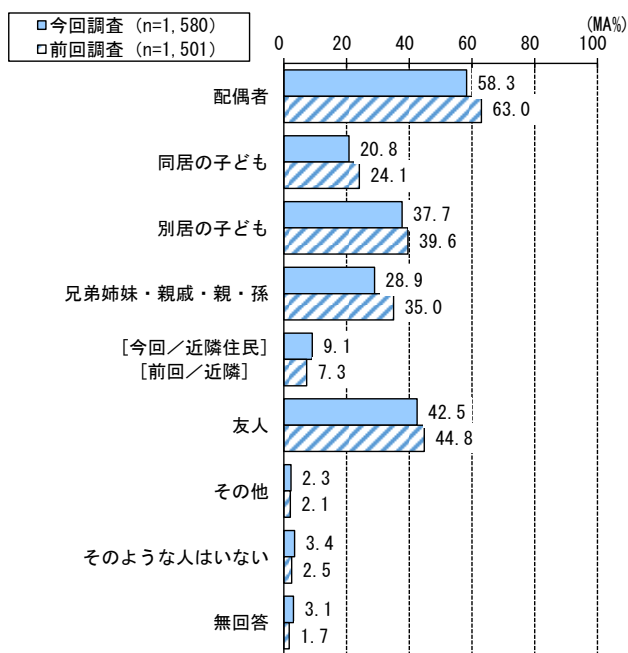
【全体】

- 心配事・愚痴を聞いてくれる人について、「配偶者」が58.3%で最も高く、次いで「友人」が42.5%、「別居の子ども」が37.7%となっています。

【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「配偶者」が高く、「近隣住民」「友人」が低くなっています。
- 女性 後期高齢者では特に「配偶者」が低くなっています。

【心配事・愚痴を聞いてくれる人】



単位：％

			母数	心配事・愚痴を聞いてくれる人の有無								
				配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟・姉妹・孫・親戚・	「前回／今回／近隣住民」	友人	その他	人はいない	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=322)	322	△ 79.2	12.4	▼ 19.6	▼ 17.1	4.3	▼ 31.7	4.0	5.0	2.2
		後期高齢者 (n=431)	431	△ 70.1	17.4	32.7	19.5	4.2	▼ 25.3	1.9	5.6	4.9
	女性	前期高齢者 (n=327)	327	53.5	25.7	44.3	35.2	10.7	△ 62.4	2.8	2.1	1.8
		後期高齢者 (n=500)	500	▼ 37.8	26.0	△ 49.2	△ 40.4	15.2	51.2	1.2	1.2	3.0
学区	守山学区 (n=402)	402	57.5	19.7	40.3	29.6	8.0	43.5	2.7	2.7	3.5	
	吉身学区 (n=314)	314	55.7	18.8	38.5	26.8	7.0	47.1	1.3	4.8	1.6	
	小津学区 (n=163)	163	62.6	25.8	36.8	27.6	14.7	45.4	1.2	2.5	3.7	
	玉津学区 (n=100)	100	59.0	18.0	29.0	31.0	10.0	45.0	5.0	2.0	6.0	
	河西学区 (n=287)	287	57.8	24.0	39.4	31.4	10.5	43.2	2.1	2.1	2.8	
	速野学区 (n=247)	247	58.7	17.0	36.4	26.3	7.7	35.6	2.8	4.5	3.2	
	中洲学区 (n=67)	67	64.2	29.9	29.9	32.8	9.0	▼ 25.4	1.5	6.0	3.0	
当該状況	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	60.6	20.2	37.5	29.0	8.8	43.7	2.2	3.1	3.2	
	要支援1・2 (n=112)	112	▼ 28.6	28.6	39.3	26.8	12.5	▼ 26.8	3.6	6.3	1.8	

●問6.2 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。(いくつでも○)

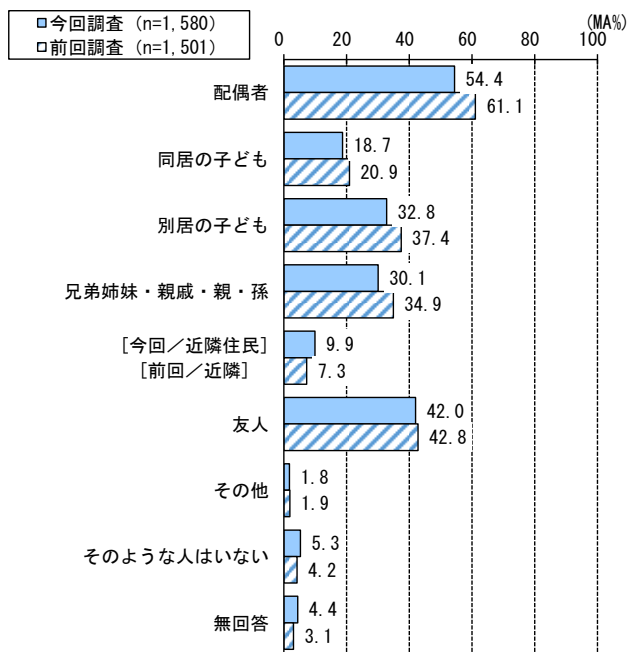
【全体】

- 心配事・愚痴を聞いてあげる人について、「配偶者」が54.4%で最も高く、次いで「友人」が42.0%、「別居の子ども」が32.8%となっています。

【性・年齢】

- 問 6.1 心配事や愚痴を聞いてくれる人の傾向と同様、女性 後期高齢者では「配偶者」が低くなっています。また、男性は女性に比べ、「近隣」「友人」の割合が低くなっています。

【心配事・愚痴を聞いてあげる人】



単位: %												
		母数	心配事・愚痴を聞いてあげる人									
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親戚・孫	「前回／近隣住民」	友人	その他	人はいない	そのような	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	△ 76.4	12.7	▼ 20.8	20.2	6.5	▼ 30.4	3.1	6.8	2.2	
	後期高齢者 (n=431)	431	△ 69.1	16.9	29.7	24.1	5.3	▼ 24.8	1.6	8.1	6.0	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	△ 50.2	25.4	40.1	37.6	9.8	△ 60.9	2.1	2.1	2.4	
	後期高齢者 (n=500)	500	▼ 30.4	19.6	38.6	36.8	16.2	51.8	0.8	3.8	5.6	
学区	守山学区 (n=402)	402	△ 54.5	16.9	34.8	30.6	8.5	41.8	2.7	5.2	4.2	
	吉身学区 (n=314)	314	△ 52.5	18.8	36.3	26.4	5.7	46.2	0.6	8.0	2.2	
	小津学区 (n=163)	163	△ 59.5	21.5	33.1	29.4	16.6	47.9	1.2	3.1	3.1	
	玉津学区 (n=100)	100	△ 52.0	17.0	25.0	25.0	11.0	44.0	2.0	3.0	11.0	
	河西学区 (n=287)	287	△ 52.6	20.6	34.1	33.4	12.5	41.8	1.7	3.5	4.5	
	速野学区 (n=247)	247	△ 55.9	16.6	30.8	29.6	8.1	34.8	2.4	6.9	5.3	
	中洲学区 (n=67)	67	△ 56.7	23.9	▼ 17.9	△ 41.8	16.4	32.8	-	3.0	4.5	
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	△ 56.8	18.4	33.3	30.6	9.9	43.6	1.8	4.6	4.4	
	要支援1・2 (n=112)	112	▼ 23.2	22.3	26.8	24.1	10.7	▼ 20.5	0.9	14.3	4.4	

- 問6.3 あなたが病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人。(いくつでも○)

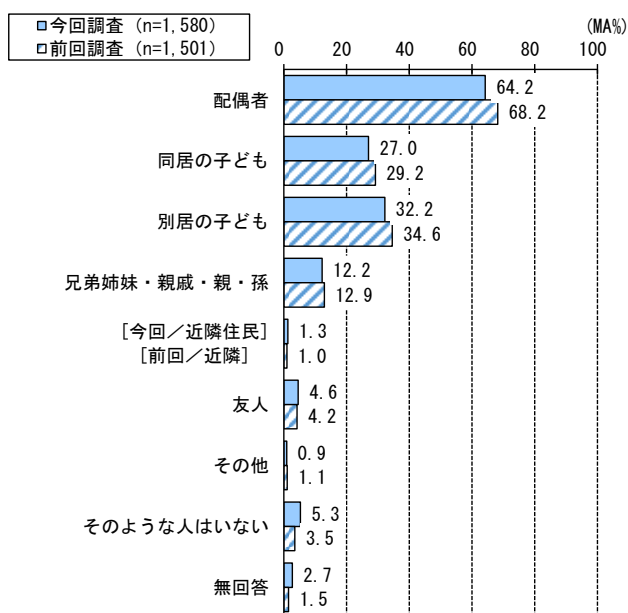
【全体】

- あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人について、「配偶者」が64.2%で最も高く、次いで「別居の子ども」が32.2%、「同居の子ども」が27.0%となっています。

【性・年齢】

- 女性 後期高齢者では「配偶者」の割合が低くなっています。
○ 女性は男性に比べ「別居の子ども」など多くの項目で高くなっています。

【あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人】



			あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人									
			母数	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟姉妹・親戚・孫	〔前回／近隣住民〕	友人	その他	人そのいような	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=322)	322	△ 79.8	▼ 15.8	▼ 20.2	7.1	0.9	2.5	1.2	8.1	1.6
		後期高齢者 (n=431)	431	△ 79.8	20.4	27.8	11.1	0.2	1.6	0.7	4.2	3.2
	女性	前期高齢者 (n=327)	327	61.5	35.2	32.1	12.8	1.2	4.9	0.3	4.3	1.5
		後期高齢者 (n=500)	500	▼ 42.4	34.4	△ 43.8	15.8	2.6	8.4	1.2	5.0	3.6
学区	守山学区 (n=402)		402	62.9	24.1	33.8	10.0	0.7	4.2	1.2	3.7	2.7
	吉身学区 (n=314)		314	62.4	28.3	33.4	13.1	1.9	5.4	1.6	5.1	1.0
	小津学区 (n=163)		163	67.5	27.0	30.7	10.4	3.1	8.0	1.2	4.9	3.1
	玉津学区 (n=100)		100	64.0	27.0	35.0	14.0	1.0	7.0	1.0	6.0	5.0
	河西学区 (n=287)		287	64.8	29.3	34.1	11.5	1.7	4.5	—	7.3	2.4
	速野学区 (n=247)		247	64.8	24.3	28.7	14.6	—	2.4	0.4	6.5	3.6
	中洲学区 (n=67)		67	67.2	△ 37.3	▼ 20.9	16.4	1.5	—	—	1.5	3.0
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)		1,468	66.5	26.4	32.4	11.6	1.3	4.6	0.7	4.8	2.6
	要支援1・2 (n=112)		112	▼ 33.9	34.8	30.4	18.8	1.8	4.5	2.7	11.6	3.6

●問6.4 反対に、看病や世話をしてあげる人。(いくつでも○)

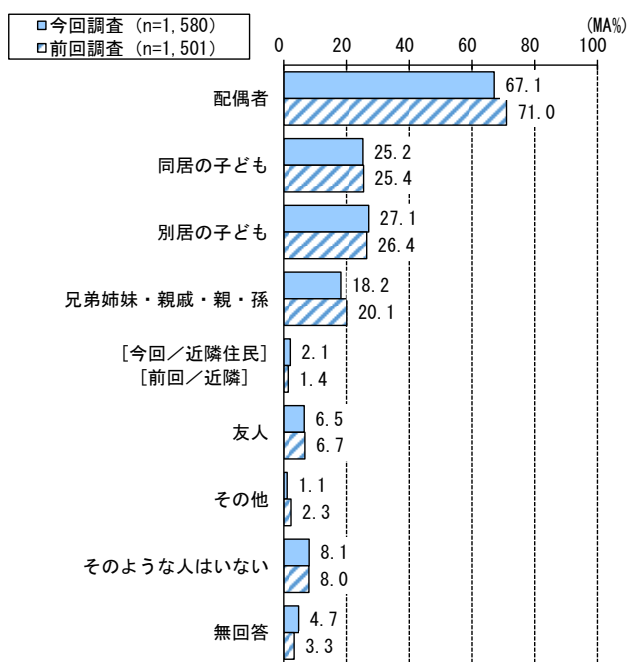
【全体】

- 看病や世話をしてあげる人について、「配偶者」が67.1%で最も高く、次いで「別居の子ども」が27.1%、「同居の子ども」が25.2%となっています。

【性・年齢】

- 看病や世話をしてくれる人の傾向と同様に、女性 後期高齢者では「配偶者」が49.8%と他の区分に比べて低くなっています。

【看病や世話をしてあげる人】



単位：％												
		母数	看病や世話をしている人									無回答
			配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親・兄弟姉妹・親戚・孫	「前回／近隣住民」	友人	その他	人はいない	そのようない	
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	△ 77.3	19.6	18.0	14.3	0.9	3.1	1.2	10.9	1.9	
	後期高齢者 (n=431)	431	△ 77.3	20.0	20.6	12.8	0.7	2.1	1.2	6.0	7.0	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	70.0	33.0	△ 37.9	27.8	1.2	8.9	0.3	4.3	2.1	
	後期高齢者 (n=500)	500	▼ 49.8	28.2	31.4	19.0	4.6	11.0	1.6	10.6	6.4	
学区	守山学区 (n=402)	402	65.9	23.4	28.9	15.9	2.0	7.7	0.2	8.2	5.0	
	吉身学区 (n=314)	314	64.0	24.5	26.8	19.4	1.6	7.6	2.2	9.6	3.2	
	小津学区 (n=163)	163	72.4	29.4	30.1	20.9	2.5	6.7	0.6	8.0	3.7	
	玉津学区 (n=100)	100	67.0	26.0	23.0	18.0	3.0	9.0	1.0	10.0	8.0	
	河西学区 (n=287)	287	68.6	28.2	28.2	16.7	3.8	5.6	2.1	5.6	4.9	
	速野学区 (n=247)	247	67.2	19.4	24.7	17.0	0.8	4.5	0.8	8.9	5.7	
	中洲学区 (n=67)	67	68.7	△ 35.8	20.9	△ 29.9	-	1.5	-	6.0	4.5	
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	69.6	25.5	28.1	18.9	2.1	6.7	0.8	6.6	4.2	
	要支援1・2 (n=112)	112	▼ 34.8	20.5	▼ 13.4	▼ 8.0	1.8	3.6	5.4	△ 27.7	12.5	

◆助けあいの合計点

●助けあいの合計点

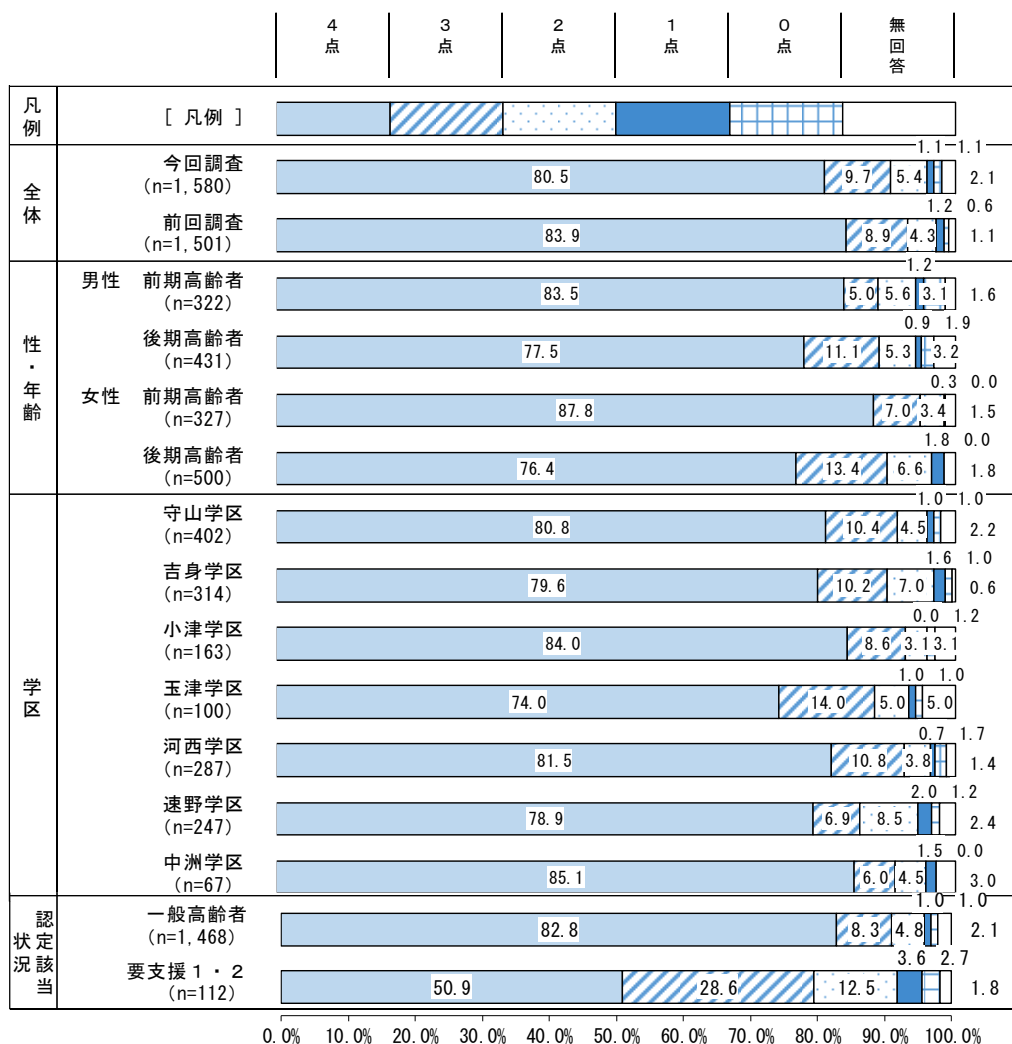
以下の設問に「配偶者」「同居の子ども」「別居の子ども」「兄弟姉妹・親戚・親・孫」「近隣」「友人」「その他」のいずれかと回答した場合を1点として、4点満点で評価。

設問	配点
問 6.1 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人	1 点
問 6.2 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人	1 点
問 6.3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	1 点
問 6.4 反対に、看病や世話をししてあげる人	1 点

【全体】

○ 助けあいの合計点について、「4点」が80.5%で最も高く、次いで「3点」が9.7%、「2点」が5.4%となっています。

【助けあいの合計点】

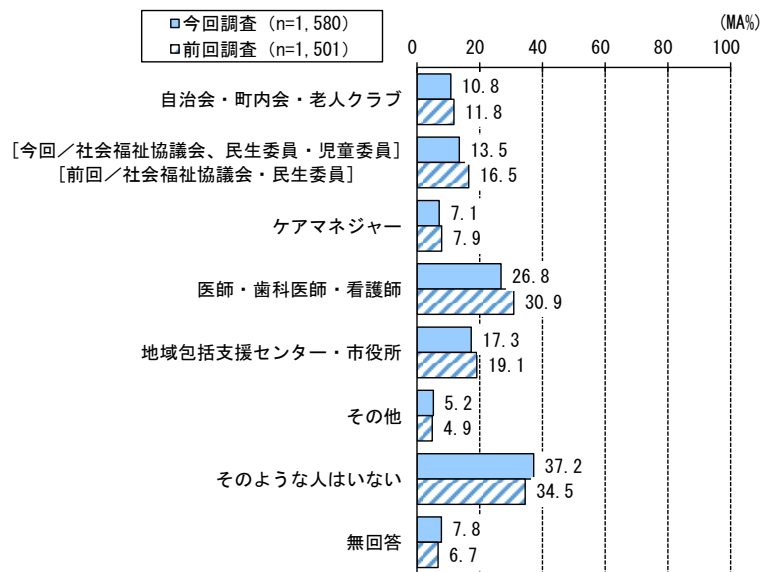


(2) 家族や友人・知人以外の相談相手

●問6.5 家族や友人・知人以外で、何かあった時に相談する相手。(いくつでも○)

【全体】
○ 家族・知人以外での緊急時相談相手について、「そのような人はいない」が37.2%で最も高く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が26.8%、「地域包括支援センター・市役所」が17.3%となっています。
【性・年齢】
○ 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「そのような人はいない」の割合が高くなっています。また、「自治会・町内会・老人クラブ」の割合が高くなっています。
○ 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「社会福祉協議会、民生委員・児童委員」「ケアマネジャー」が高くなっています。

【家族・知人以外での緊急時相談相手】



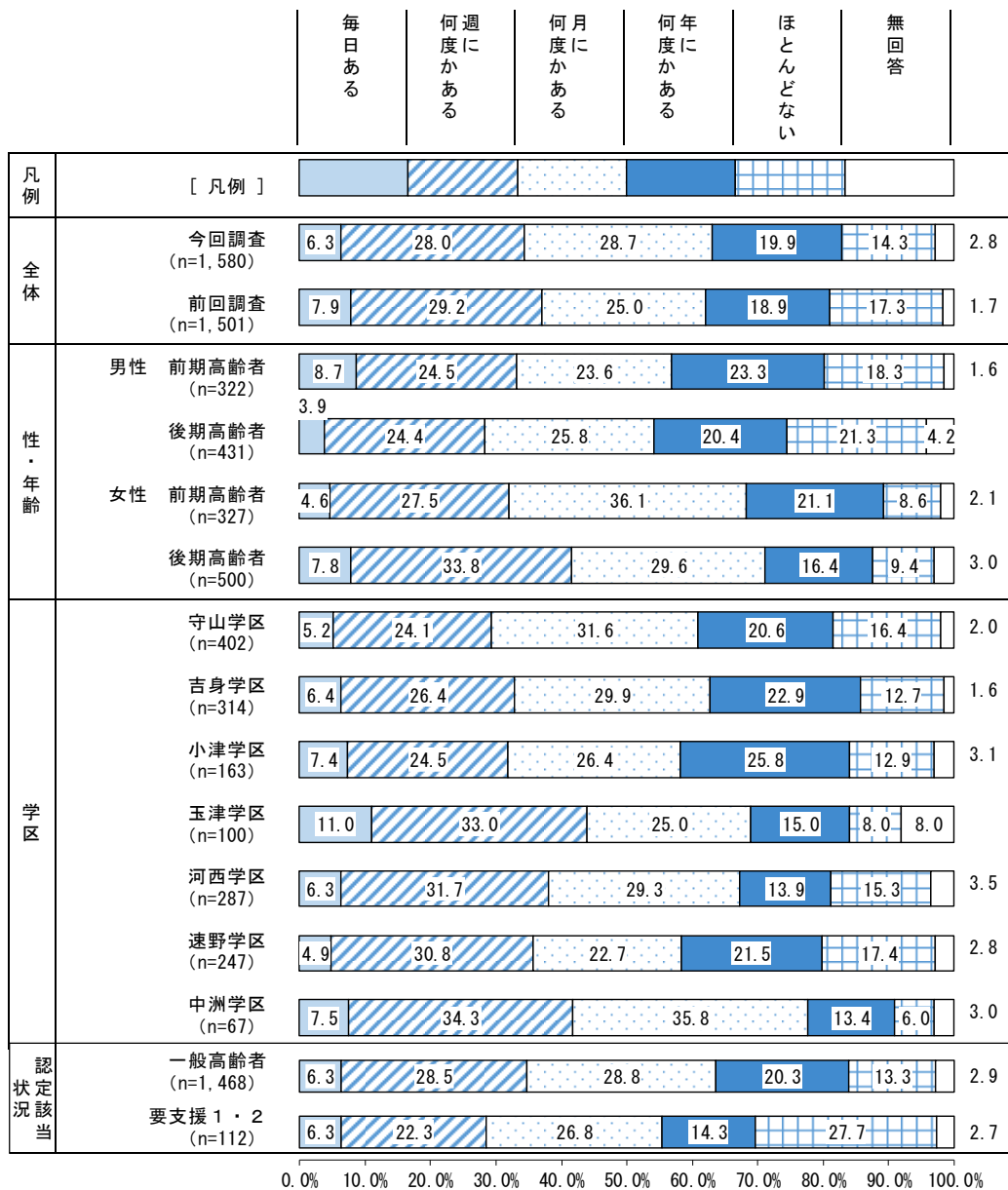
単位：％											
		母数	家族・知人以外での緊急時相談相手								
			老人自治会・町内会・クラブ	民生委員・福祉協議会、児童委員	ケアマネジャー	看護師・医師・歯科医師	地域包括支援センター・市役所	その他	そのような人はいない	無回答	
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	13.0	9.3	4.3	19.9	13.7	5.9	△ 50.6	3.4	
	後期高齢者 (n=431)	431	14.4	17.4	7.0	30.4	19.5	3.5	33.4	7.2	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	6.1	8.3	5.8	27.8	18.3	7.0	39.1	6.4	
	後期高齢者 (n=500)	500	9.2	16.4	9.8	27.6	17.2	5.0	30.4	12.0	
学区	守山学区 (n=402)	402	6.5	9.0	8.7	25.1	16.4	5.7	42.0	7.5	
	吉身学区 (n=314)	314	8.9	15.3	8.6	30.6	20.7	4.1	37.9	4.8	
	小津学区 (n=163)	163	16.6	15.3	4.3	28.8	17.8	6.1	34.4	4.9	
	玉津学区 (n=100)	100	15.0	15.0	8.0	31.0	15.0	4.0	28.0	16.0	
	河西学区 (n=287)	287	12.5	19.5	7.3	26.5	17.4	6.6	33.1	8.0	
	速野学区 (n=247)	247	13.0	10.1	4.0	22.7	15.8	3.6	40.5	9.3	
	中洲学区 (n=67)	67	9.0	13.4	6.0	25.4	14.9	6.0	29.9	11.9	
当該状況	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	11.0	13.6	4.8	27.1	16.5	5.2	38.5	7.6	
	要支援1・2 (n=112)	112	7.1	13.4	△ 36.6	23.2	△ 28.6	5.4	▼ 19.6	9.8	

(3) 友人・知人との関係性

●問6.6 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

【全体】	
○	友人・知人と会う頻度について、「月に何度かある」が28.7%で最も高く、次いで「週に何度かある」が28.0%、「年に何度かある」が19.9%となっています。
○	「毎日ある」と「週に何度かある」を合わせた“週に数回以上ある”は34.3%となっています。
【性・年齢】	
○	女性 後期高齢者では“週に数回以上ある”が41.6%と他の区分に比べて高くなっています。
【認定該当状況】	
○	“週に数回以上ある”は、一般高齢者で34.8%、要支援1・2では28.6%となっています。

【友人・知人と会う頻度】



●問6.7 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(○は1つ)

【全体】

○ 1か月間に会った友人・知人の人数について、「10人以上」が26.6%で最も高く、次いで「1～2人」が23.7%、「3～5人」が23.0%となっています。

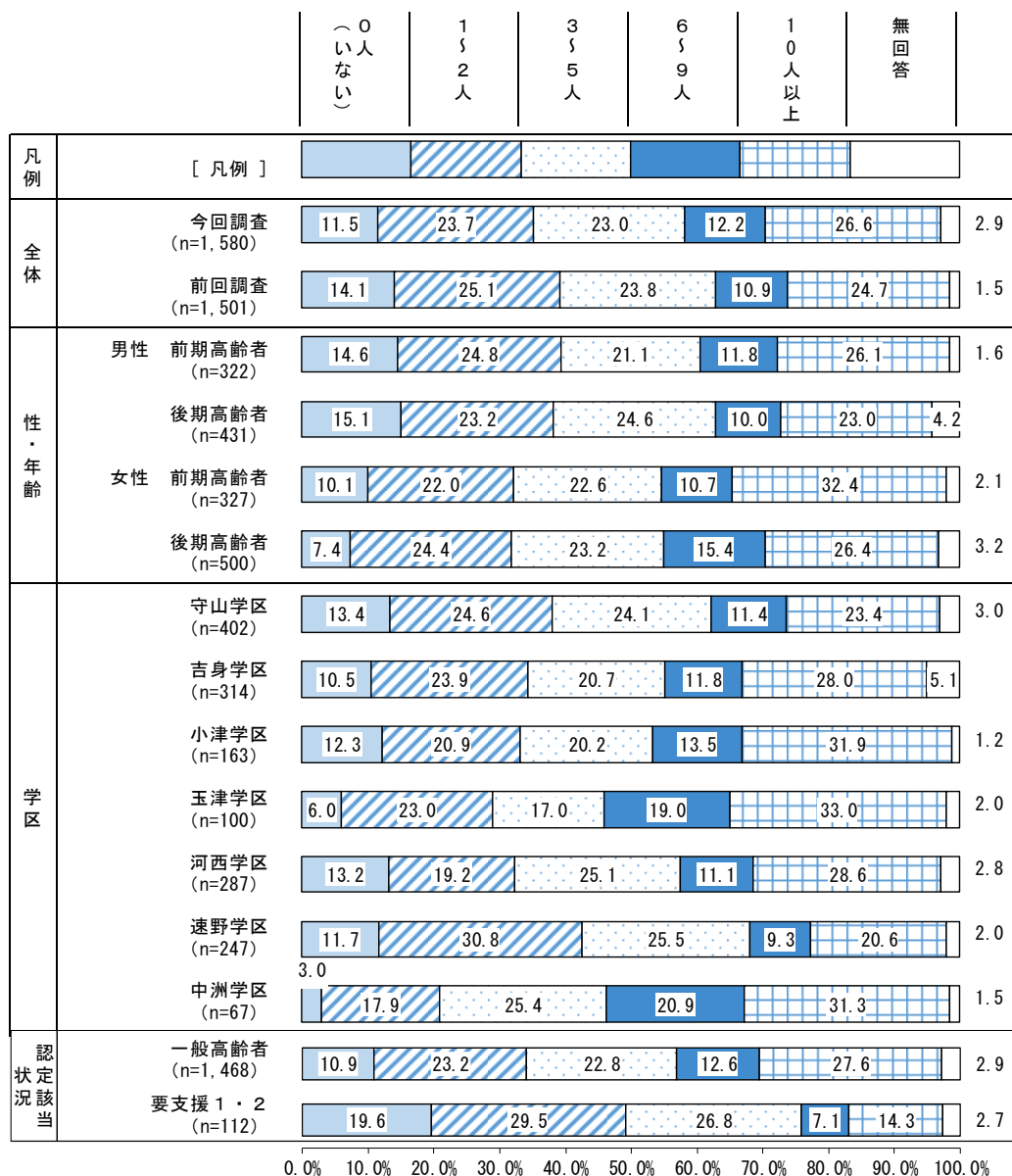
【性・年齢】

○ 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「0人(いない)」「1～2人」が高く、会う友人・知人の人数が低くなっています。

【認定該当状況】

○ 一般高齢者では要支援1・2に比べて「6～9人」「10人以上」が高くなっています。

【1か月間に会った友人・知人の人数】



- 問6.8 あなたが実際に行っている近所づきあいはどうのようなものですか。(いくつでも○)

【全体】

- 実施している近所づきあいの内容について、「あいさつ程度」が59.8%で最も高く、次いで「世間話を交わす程度」が53.7%、「相談したり助け合う」が19.1%となっています。

【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「あいさつ程度」が高くなっています。
○ 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「世間話を交わす程度」「相談したり助け合う」が高くなっています。

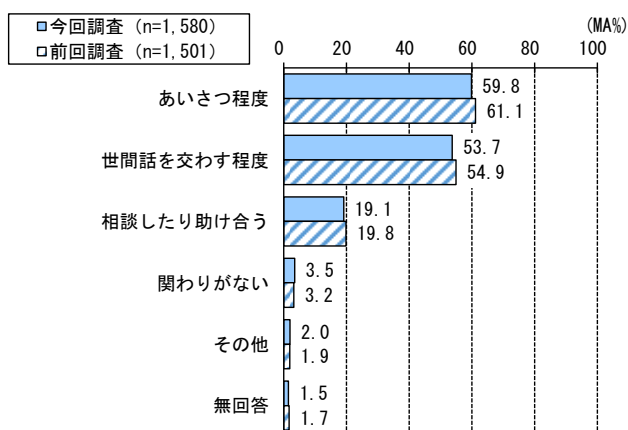
【学区】

- 玉津学区では「相談したり助け合う」が31.0%で他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「関わりがない」が11.6%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【実施している近所づきあいの内容】



単位：％

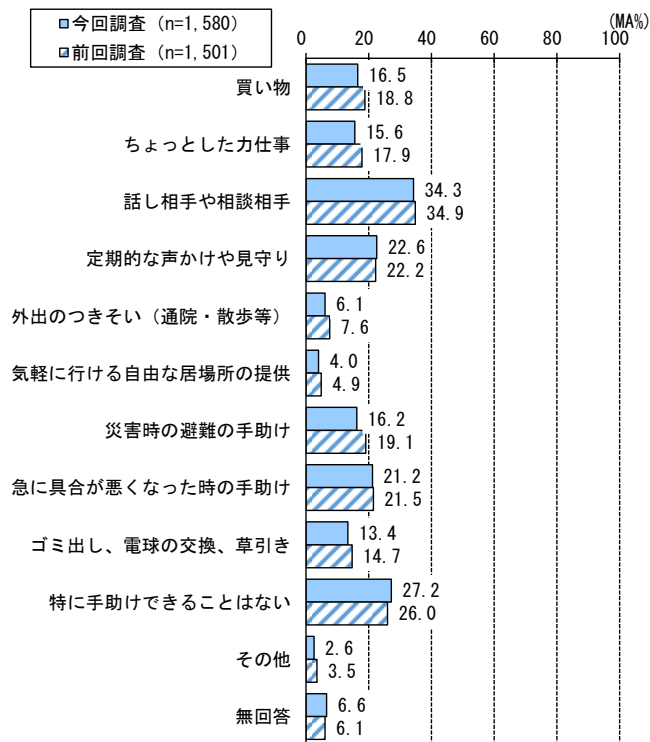
			実施している近所づきあいの内容						
			母数	あいさつ程度	世間話を交わす程度	相談したり助け合う	関わりがない	その他	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=322)	322	66.1	▼ 43.5	9.9	3.4	2.5	0.9
		後期高齢者 (n=431)	431	64.3	46.6	14.4	4.6	2.1	2.1
	女性	前期高齢者 (n=327)	327	60.2	60.6	20.8	2.8	2.1	0.6
		後期高齢者 (n=500)	500	51.6	62.0	27.8	3.2	1.4	2.0
学区	守山学区 (n=402)		402	61.2	50.2	16.9	5.0	1.5	1.7
	吉身学区 (n=314)		314	67.8	47.8	16.2	3.8	1.9	2.2
	小津学区 (n=163)		163	58.3	△ 67.5	24.5	3.1	1.8	0.6
	玉津学区 (n=100)		100	54.0	56.0	△ 31.0	2.0	4.0	1.0
	河西学区 (n=287)		287	56.1	55.4	18.5	2.1	1.4	2.1
	速野学区 (n=247)		247	59.1	47.8	18.6	4.5	3.2	0.8
	中洲学区 (n=67)		67	▼ 44.8	△ 80.6	17.9	-	-	-
当該認定状況	一般高齢者 (n=1,468)		1,468	60.5	54.0	19.4	2.9	1.9	1.5
	要支援1・2 (n=112)		112	50.9	50.9	14.3	11.6	2.7	1.8

- 問6.9 あなたご自身がご近所で手助けや協力ができることがありますか。(いくつでも○)

【全体】

- 近所に対して協力できることについて、「話し相手や相談相手」が34.3%で最も高く、次いで「特に手助けできることはない」が27.2%、「定期的な声かけや見守り」が22.6%となっています。
- 前回調査に比べると、「特に手助けできることはない」が高く、各項目の回答割合は低くなっており、近所での手助けや協力が難しくなっている傾向にあります。

【近所に対して協力できること】



【性・年齢】

- 女性は前期高齢者・後期高齢者ともに「話し相手や相談相手」が最も高くなっています。
- 男性は前期高齢者が「ちょっとした力仕事」、後期高齢者では「特に手助けできることはない」が最も高くなっています。
- 男性 前期高齢者では、「災害時の避難の手助け」も 28.0%と高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「定期的な声かけや見守り」が 31.8%、「買い物」が 26.9%と高くなっています。

【学区】

- 玉津学区と中洲学区で「話し相手や相談相手」が4割超と、他の学区と比べ高くなっています。

単位：％

		母数	近所に対して協力できること					
			買い物	ちょっとした力仕事	話し相手や相談相手	声定期的な見守り	外出のつきそい（通院・散歩等）	自然に行ける居場所の提供
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	11.2	△ 31.7	▼ 23.3	20.5	3.4	2.2
	後期高齢者 (n=431)	431	11.8	24.8	26.7	19.3	5.8	3.0
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	△ 26.9	▼ 5.5	42.2	31.8	8.3	4.6
	後期高齢者 (n=500)	500	17.2	▼ 3.8	42.8	20.8	6.8	5.6
学区	守山学区 (n=402)	402	15.7	13.7	28.9	20.4	4.5	1.7
	吉身学区 (n=314)	314	17.2	12.4	31.8	18.8	7.0	4.1
	小津学区 (n=163)	163	14.1	19.6	38.0	25.8	6.1	5.5
	玉津学区 (n=100)	100	15.0	18.0	△ 47.0	27.0	7.0	9.0
	河西学区 (n=287)	287	21.6	17.8	36.6	27.9	7.7	3.1
	速野学区 (n=247)	247	15.8	16.2	32.8	21.5	6.5	4.5
	中洲学区 (n=67)	67	7.5	16.4	△ 46.3	20.9	3.0	7.5
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	17.4	16.4	34.6	23.7	6.5	4.0
	要支援1・2 (n=112)	112	▼ 5.4	▼ 4.5	30.4	▼ 8.0	0.9	4.5

単位：％

		母数	近所に対して協力できること					
			避難時の手助け	手悪くなつた時の助け	急に具ったが	電球の交換、草引き	ゴミ出し、	特には手助けできない
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	△ 28.0	24.8	18.9	26.7	1.6	3.4
	後期高齢者 (n=431)	431	22.0	24.4	19.7	29.7	2.8	8.1
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	11.0	17.4	8.6	24.2	2.8	3.7
	後期高齢者 (n=500)	500	7.0	18.6	7.6	27.4	3.0	9.4
学区	守山学区 (n=402)	402	13.9	17.9	12.2	30.1	4.2	8.2
	吉身学区 (n=314)	314	17.5	20.4	12.7	29.6	2.5	8.0
	小津学区 (n=163)	163	19.0	25.8	14.1	25.2	1.2	3.7
	玉津学区 (n=100)	100	17.0	28.0	13.0	20.0	-	8.0
	河西学区 (n=287)	287	16.0	24.0	15.0	26.1	1.7	6.3
	速野学区 (n=247)	247	15.4	19.4	15.0	27.1	2.4	5.3
	中洲学区 (n=67)	67	19.4	17.9	10.4	19.4	4.5	3.0
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	17.0	22.1	14.1	25.7	2.3	6.5
	要支援1・2 (n=112)	112	▼ 5.4	▼ 8.9	4.5	△ 47.3	6.3	8.9

9. 健康について

(1) 健康状態

① 主観的な健康感

●問7.1 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

【全体】

- 主観的健康感について、「まあよい」が70.5%で最も高く、次いで「あまりよくない」が16.5%、「とてもよい」が8.9%となっています。
- 「とてもよい」「まあよい」を合わせた“よい”は79.4%、「あまりよくない」「よくない」を合わせた“よくない”は18.4%となっています。

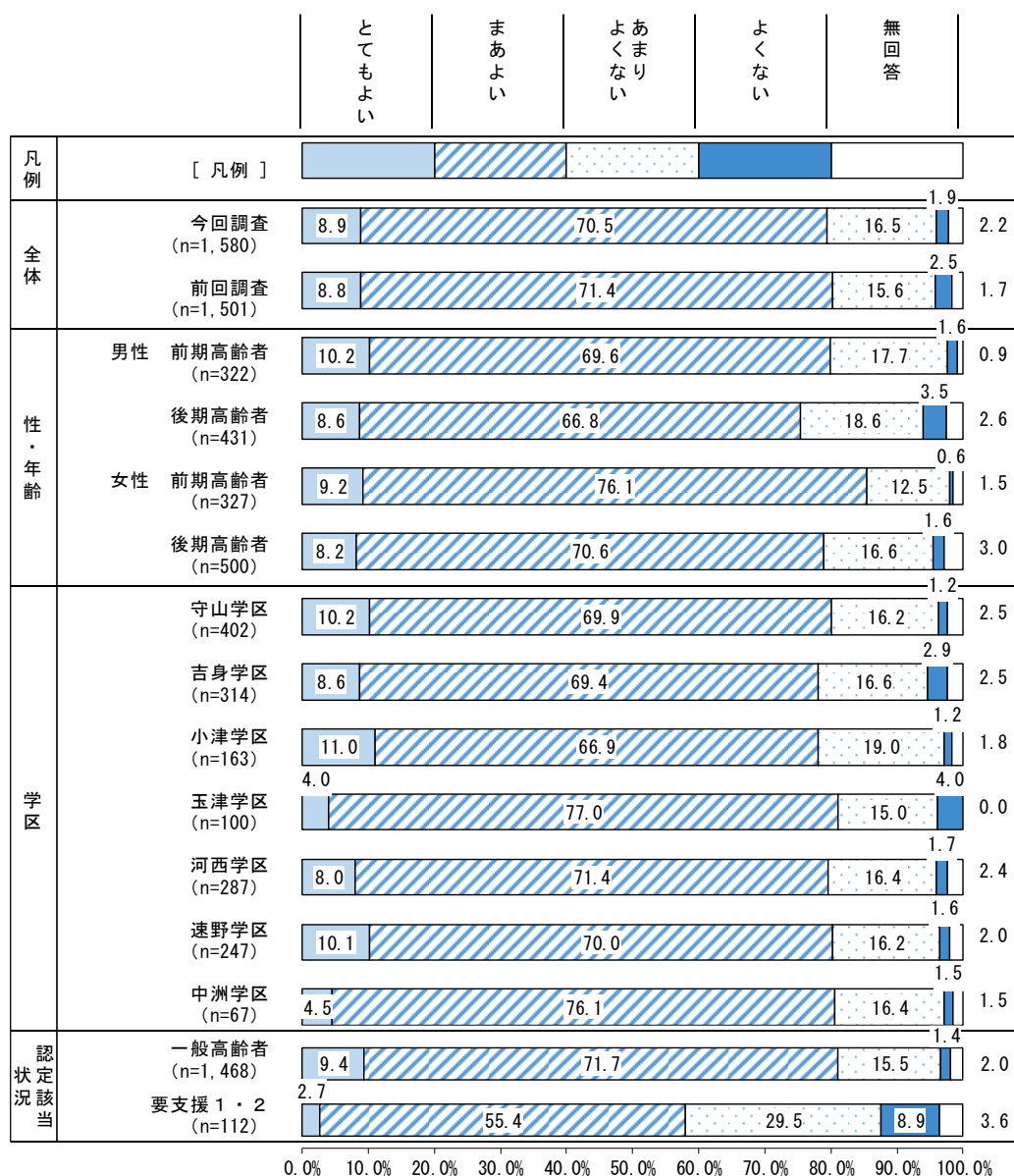
【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて“よい”が高く、特に女性 前期高齢者では85.3%となっています。
- 男性 後期高齢者では“よくない”が22.1%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- “よい”は要支援1・2が58.1%と一般高齢者に比べて低くなっています。

【現在の健康状態】



② こころの健康

●問7.2 あなたは、現在どの程度幸せですか。

【全体】

- 主観的幸福感について、「幸せ（7～9点）」が 51.5%で最も高く、次いで「ふつう（4～6点）」が 30.3%、「とても幸せ（10点）」が 12.7%となっています。

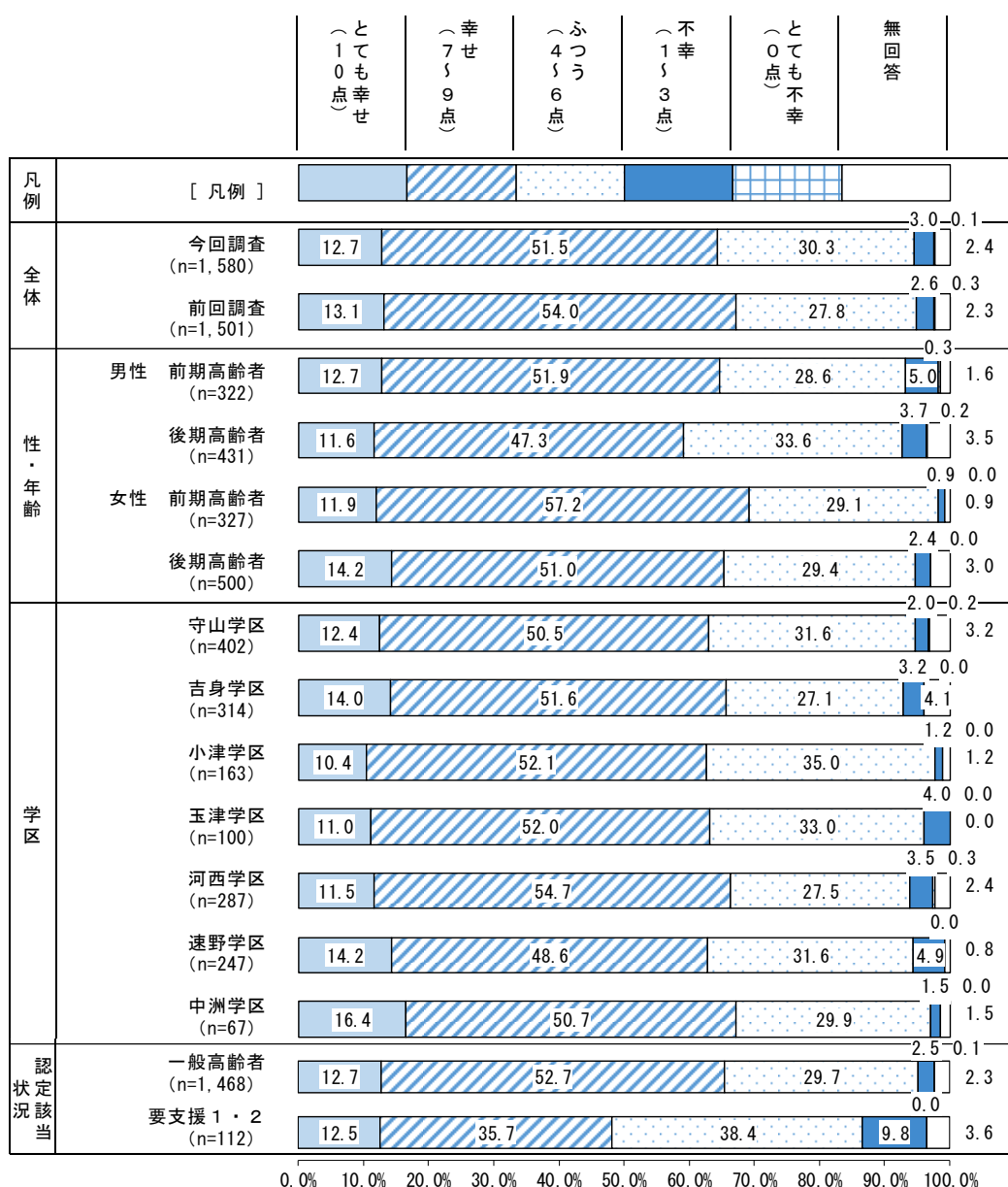
【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「幸せ（7～9点）」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者と比べて「とても幸せ（10点）」は同程度ですが、「幸せ（7～9点）」は 35.7%と低くなっています。

【幸福感の程度】

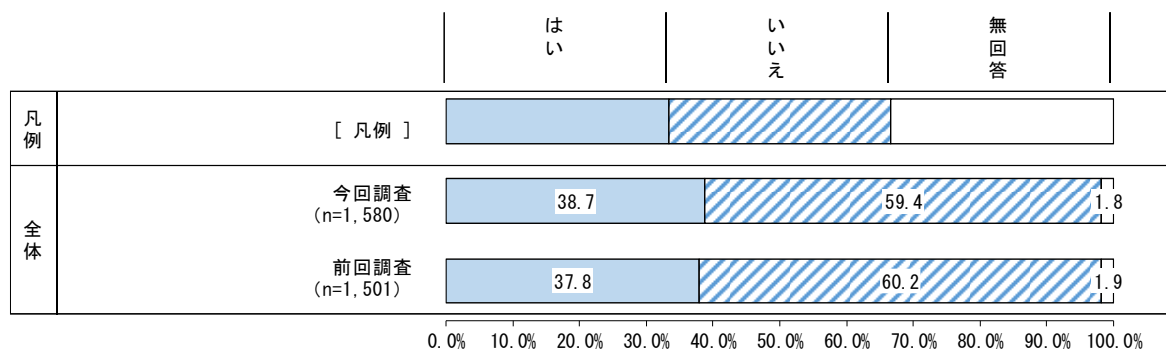


- 問7.3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(○は1つ)

【全体】

○ 気分の落ち込み・憂鬱感の有無について、「はい」が38.7%、「いいえ」が59.4%となっています。

【気分の落ち込み・憂鬱感の有無】

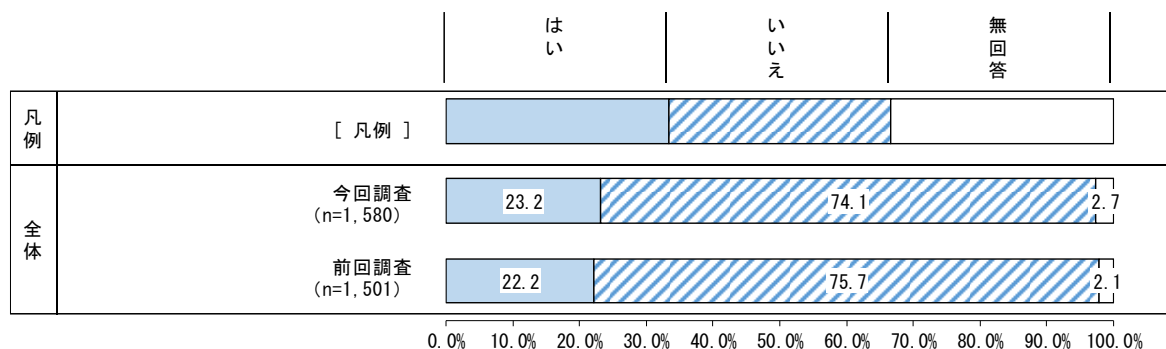


- 問7.4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○は1つ)

【全体】

○ 物事への関心・楽しさの喪失感について、「はい」が23.2%、「いいえ」が74.1%となっています。

【物事への関心・楽しさの喪失感】



◆うつリスクの判定

●うつリスク

以下の設問に対して2問中いずれか1つでも該当する場合は、『うつ』のリスク該当者と判定している。

設問	選択肢
問 7.3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
問 7.4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

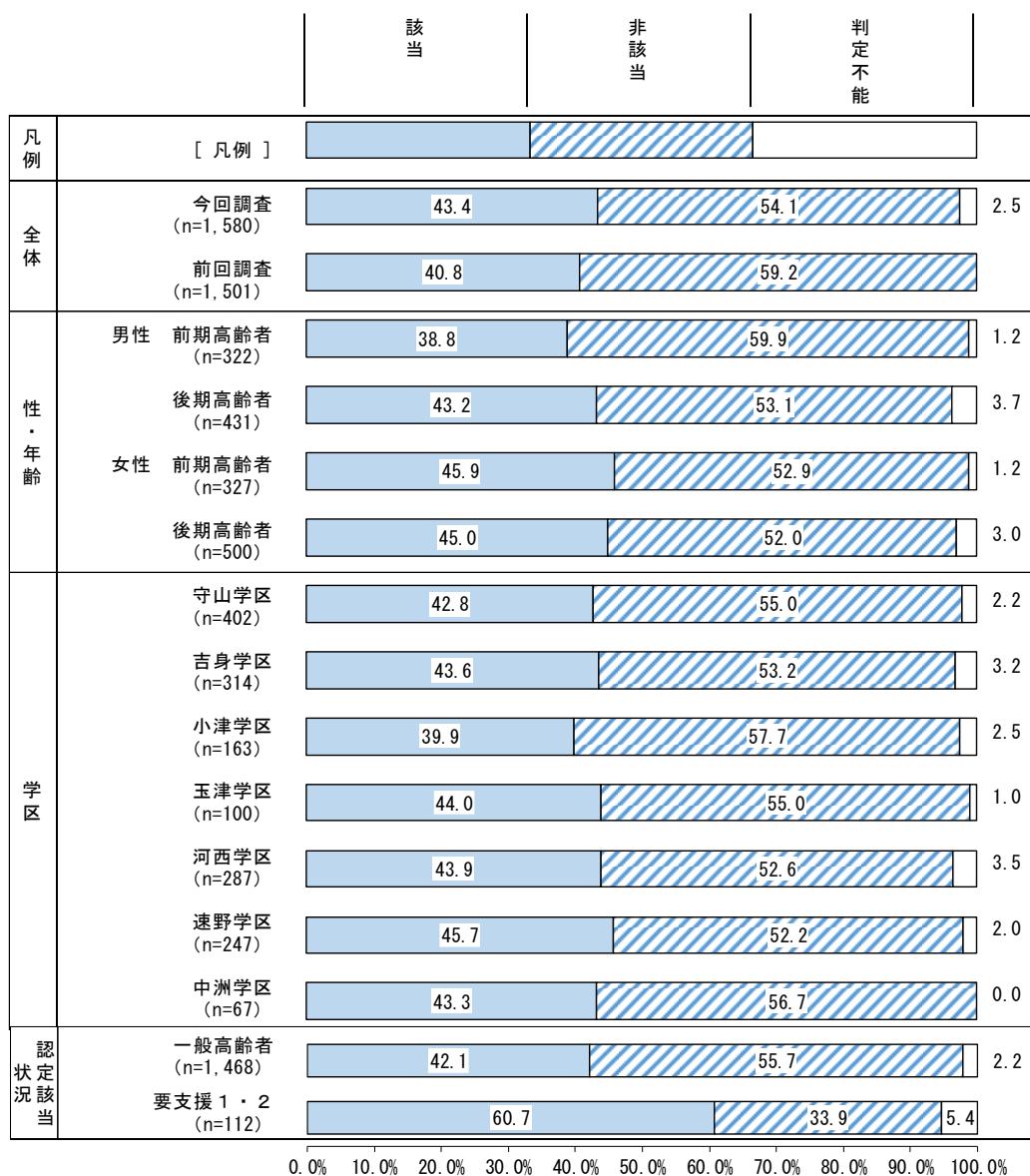
【全体】

○ うつリスクについて、「該当」が43.4%となっています。

【認定該当状況】

○ 要支援1・2では、「該当」が60.7%と高くなっています。

【うつリスク】



(2) 喫煙

●問7.5 タバコは吸っていますか。(○は1つ)

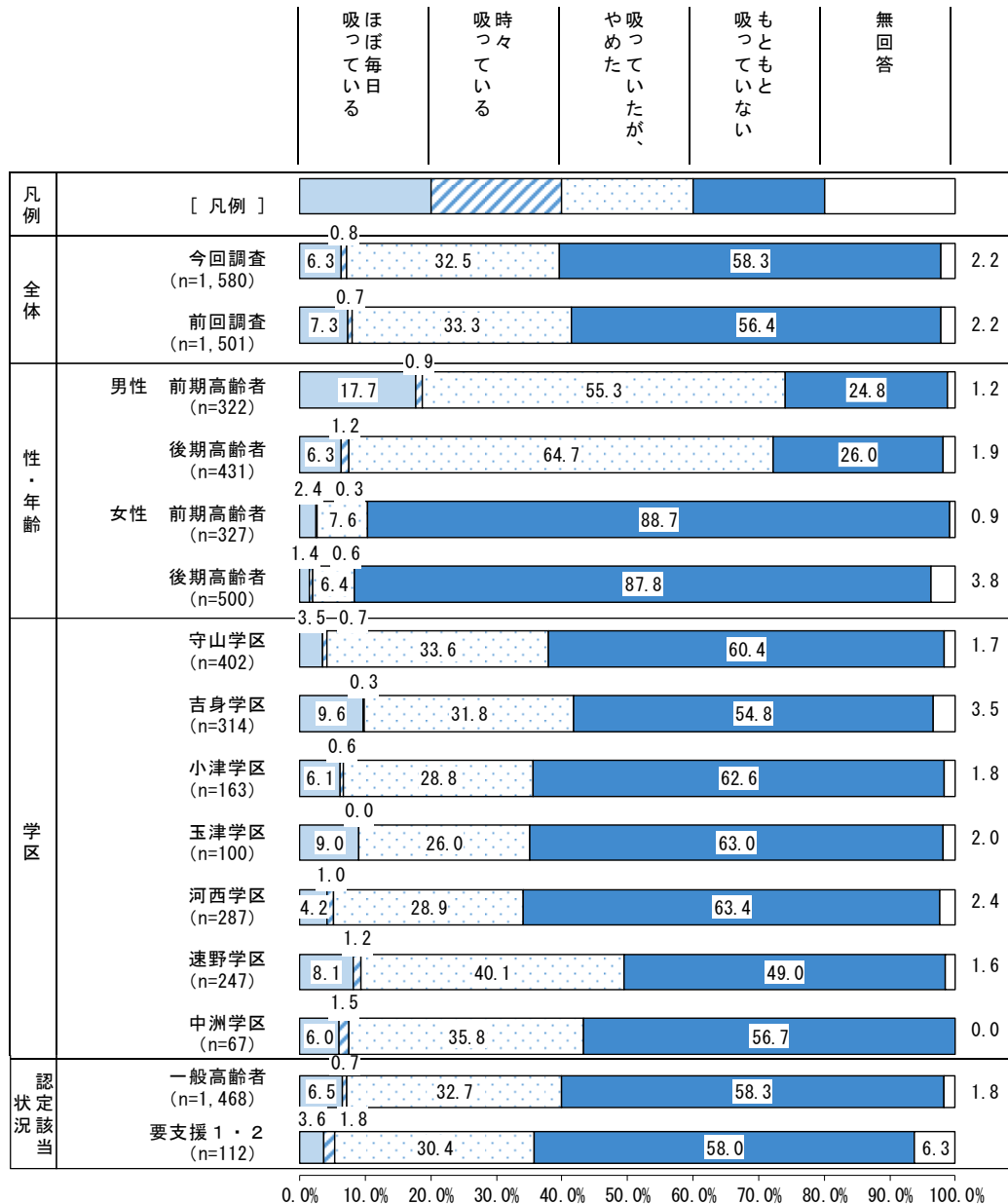
【全体】

○ 喫煙習慣について、「もともと吸っていない」が 58.3%で最も高く、次いで「吸っていたが、やめた」が 32.5%、「ほぼ毎日吸っている」が 6.3%となっています。

【性・年齢】

○ 男性は女性に比べ「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた“喫煙者”の割合が高くなっています。

【喫煙習慣】



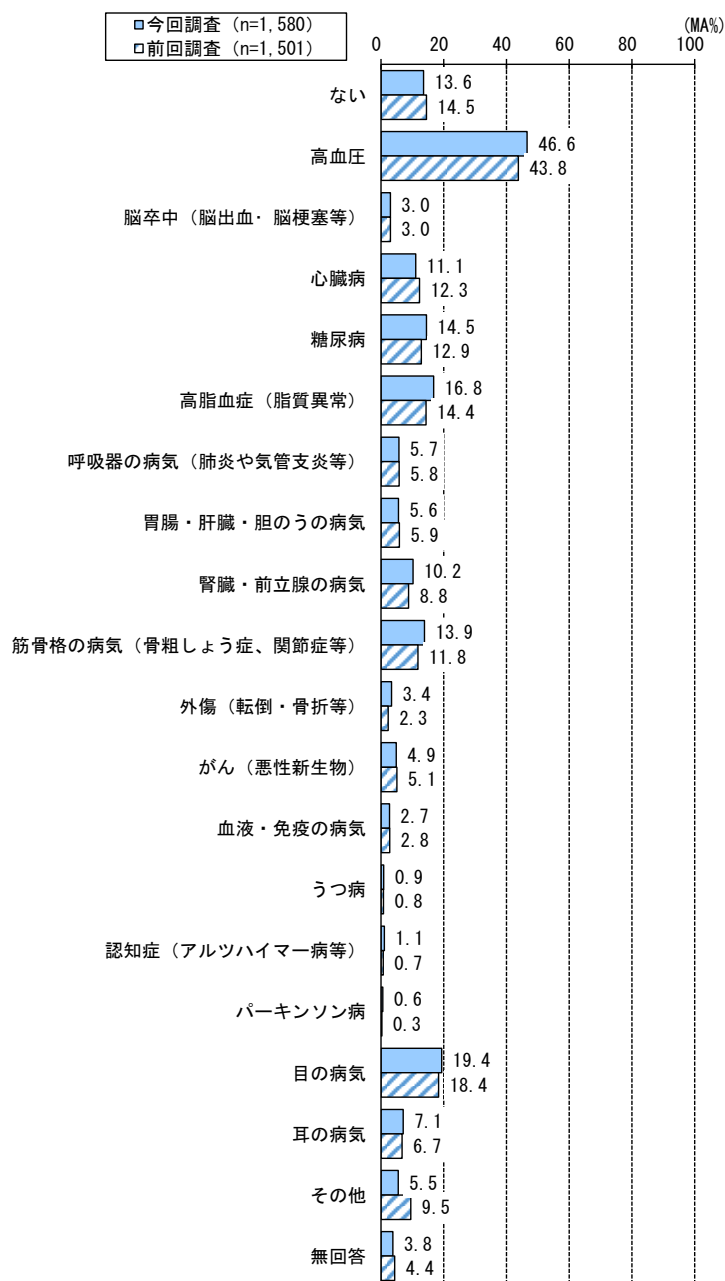
(3) 病気や健康づくり

●問7.6 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも○)

【全体】

○ 治療中・後遺症のある疾患について、「高血圧」が46.6%で最も高く、次いで「目の病気」が19.4%、「高脂血症（脂質異常）」が16.8%となっています。

【治療中・後遺症のある疾患】



【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「ない」が高くなっています。
- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「目の病気」などが高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「心臓病」などが高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「ない」が5.4%と一般高齢者の14.2%に比べて低くなっています。

単位：％

		母数	治療中・後遺症のある疾患									
			ない	高血圧	(脳卒中・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	(高脂血症・脂質異常)	(呼吸器の病気・肺炎や気管支炎等)	胆のうの病気・肝臓・	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気・(関節症等)
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	19.9	43.8	3.1	10.2	17.1	14.0	5.6	7.5	13.7	5.6
	後期高齢者 (n=431)	431	10.2	53.8	5.3	18.1	20.2	9.0	7.2	6.3	△ 23.2	7.2
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	17.4	▼ 36.1	0.9	4.6	8.6	24.2	3.4	4.0	1.2	20.5
	後期高齢者 (n=500)	500	10.0	49.0	2.2	10.0	11.8	20.4	6.0	4.8	2.6	20.8
学区	守山学区 (n=402)	402	14.7	45.0	3.7	12.2	11.2	18.7	5.7	6.0	10.9	11.2
	吉身学区 (n=314)	314	14.6	47.8	3.5	13.7	13.1	15.3	6.1	6.1	11.1	17.5
	小津学区 (n=163)	163	9.8	48.5	2.5	11.0	14.7	24.5	3.7	4.3	8.0	17.2
	玉津学区 (n=100)	100	9.0	54.0	1.0	13.0	20.0	15.0	5.0	7.0	10.0	14.0
	河西学区 (n=287)	287	13.6	43.6	2.1	8.4	17.8	16.4	5.2	5.6	10.1	13.9
	速野学区 (n=247)	247	16.6	43.7	3.6	8.1	13.8	13.4	6.9	4.0	8.5	10.9
	中洲学区 (n=67)	67	7.5	△ 58.2	1.5	13.4	20.9	10.4	7.5	7.5	13.4	16.4
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	14.2	46.4	2.5	10.7	14.3	16.9	5.4	5.6	10.0	13.4
	要支援1・2 (n=112)	112	5.4	49.1	9.8	17.0	17.0	15.2	9.8	5.4	12.5	21.4

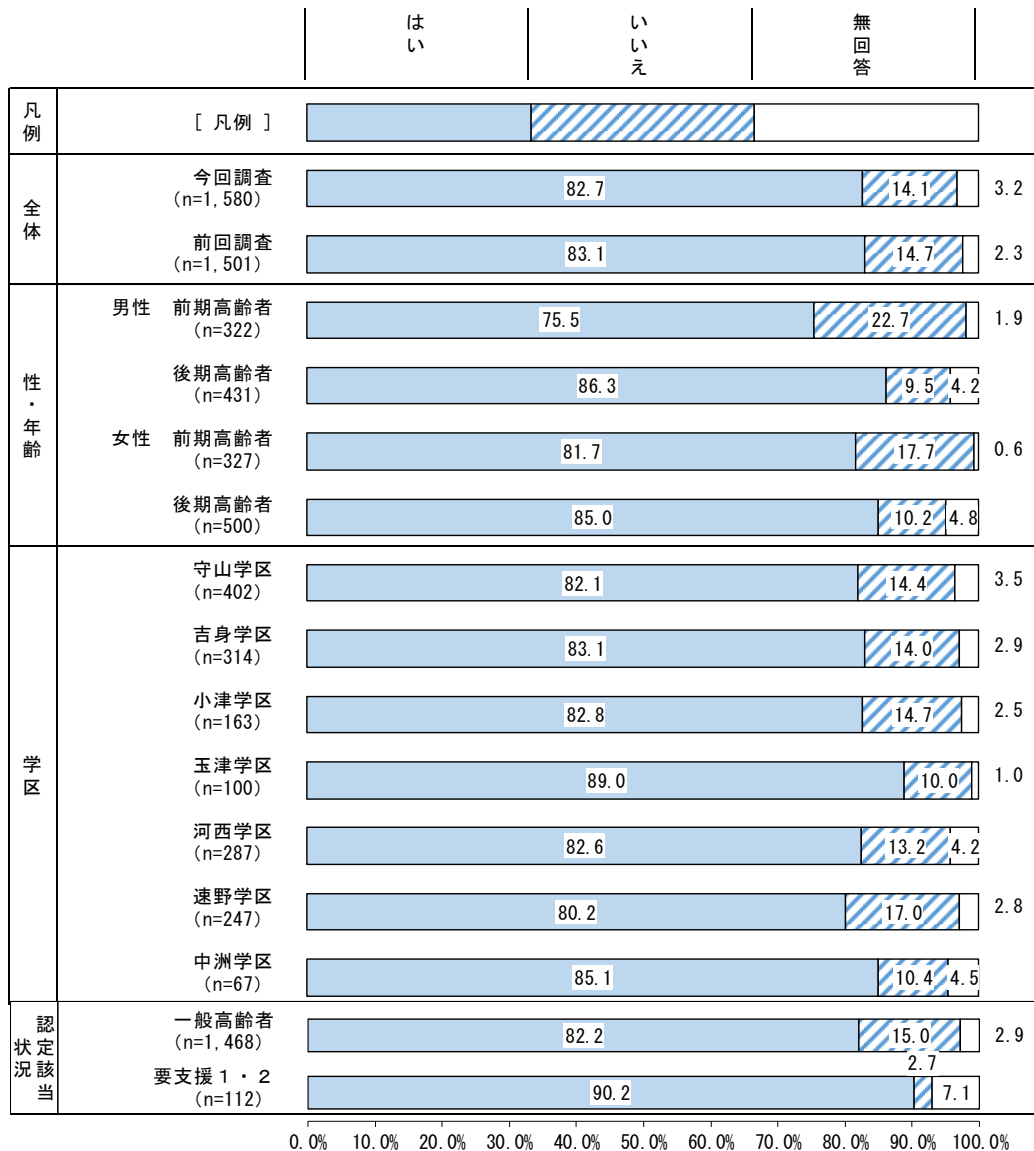
単位：％

		母数	治療中・後遺症のある疾患									
			外傷(転倒・骨折等)	がん(悪性新生物)	血液・免疫の病気	うつ病	(認知症・アルツハイマー病等)	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	2.5	4.7	2.5	0.9	0.3	0.9	14.3	5.9	5.6	2.2
	後期高齢者 (n=431)	431	2.8	6.3	2.8	1.2	1.6	0.9	21.8	9.5	5.6	3.2
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	3.4	5.5	2.8	0.6	-	-	18.0	4.9	6.7	3.1
	後期高齢者 (n=500)	500	4.6	3.6	2.8	1.0	1.8	0.6	21.4	7.2	4.6	5.8
学区	守山学区 (n=402)	402	3.7	6.2	1.7	2.0	1.2	0.5	21.6	5.7	4.7	3.7
	吉身学区 (n=314)	314	2.9	5.4	3.5	0.6	1.0	1.0	14.3	7.6	6.1	3.2
	小津学区 (n=163)	163	3.7	3.1	4.9	-	1.2	1.2	25.2	9.8	6.7	3.1
	玉津学区 (n=100)	100	6.0	3.0	2.0	1.0	1.0	-	18.0	7.0	4.0	2.0
	河西学区 (n=287)	287	2.4	4.2	3.8	0.7	0.3	1.0	20.9	6.6	5.6	5.6
	速野学区 (n=247)	247	2.8	5.3	0.8	0.8	1.2	-	17.8	7.7	5.3	4.0
	中洲学区 (n=67)	67	6.0	4.5	3.0	-	3.0	-	16.4	6.0	7.5	3.0
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	2.9	4.9	2.7	1.0	0.8	0.4	18.9	7.0	5.2	3.7
	要支援1・2 (n=112)	112	10.7	5.4	3.6	0.9	4.5	3.6	25.9	8.0	8.9	4.5

問7.7 定期的に通院していますか。(○は1つ)

【全体】
○ 定期的な通院状況について、「はい」が82.7%、「いいえ」が14.1%となっています。
【性・年齢】
○ 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「はい」が高くなっています。
【学区】
○ 玉津学区では「はい」が89.0%と他の区分に比べて高くなっています。
【認定該当状況】
○ 「はい」は要支援1・2では90.2%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【定期的な通院状況】



●問7.8 ① かかりつけ医 (○は1つ)

【全体】

○ かかりつけ医の有無について、「ある」が88.9%、「ない」が8.7%となっています。

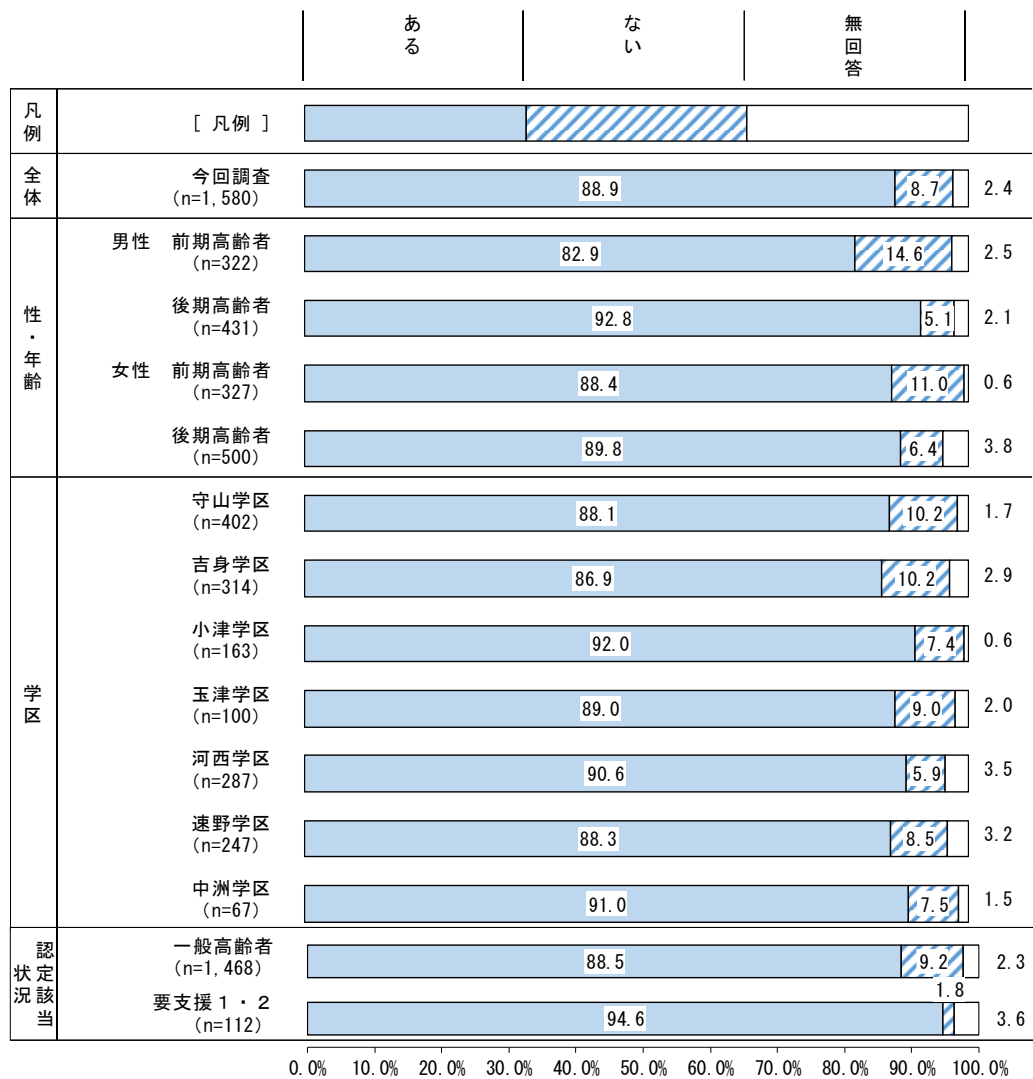
【性・年齢】

○ 男性 後期高齢者では「ある」が92.8%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

○ 要支援1・2では「ある」が94.6%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【かかりつけ医の有無】



●問7.8 ② かかりつけ歯科医（○は1つ）

【全体】

○ かかりつけ歯科医の有無について、「ある」が81.8%、「ない」が12.0%となっています。

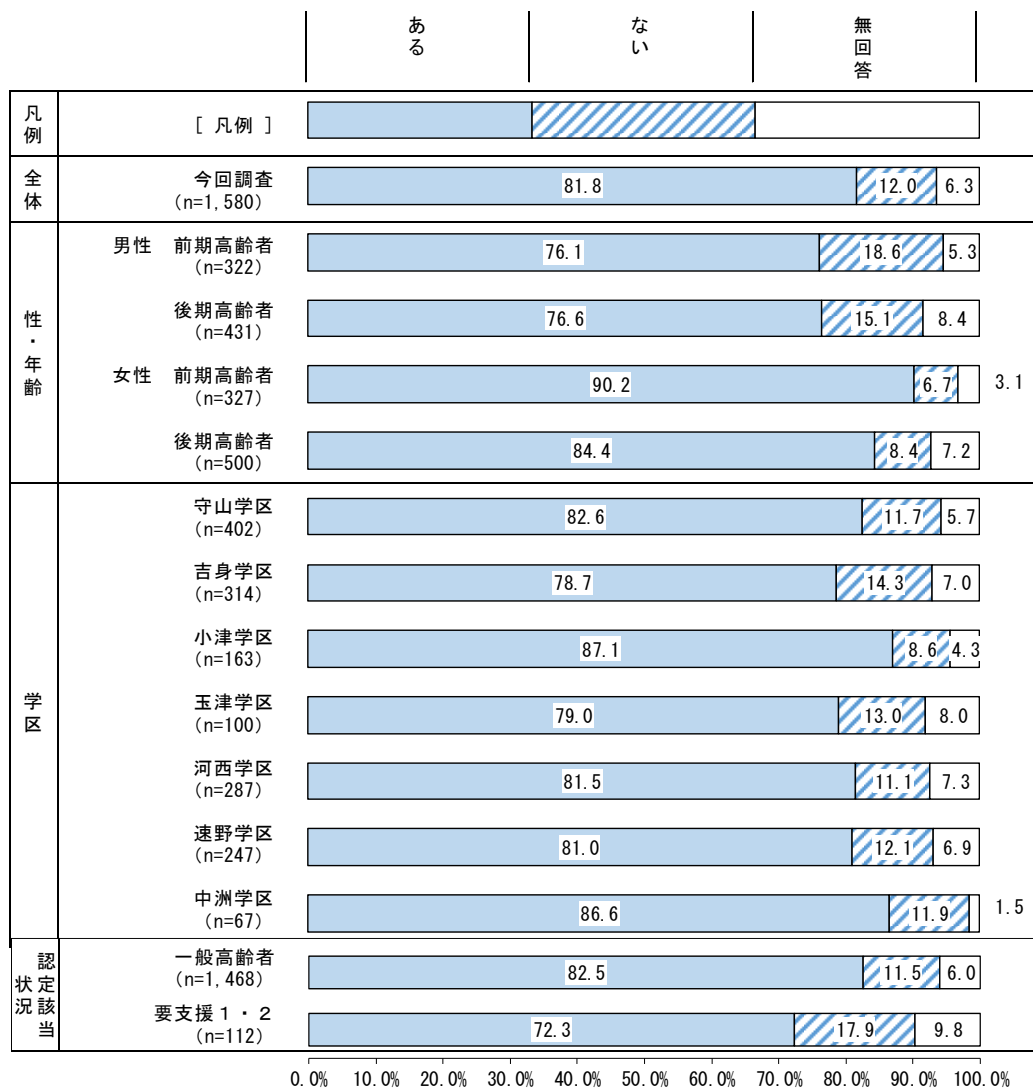
【性・年齢】

○ 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「ある」が高く、特に女性 前期高齢者では90.2%となっています。

【認定該当状況】

○ 一般高齢者では「ある」が82.5%と要支援1・2に比べて高くなっています。

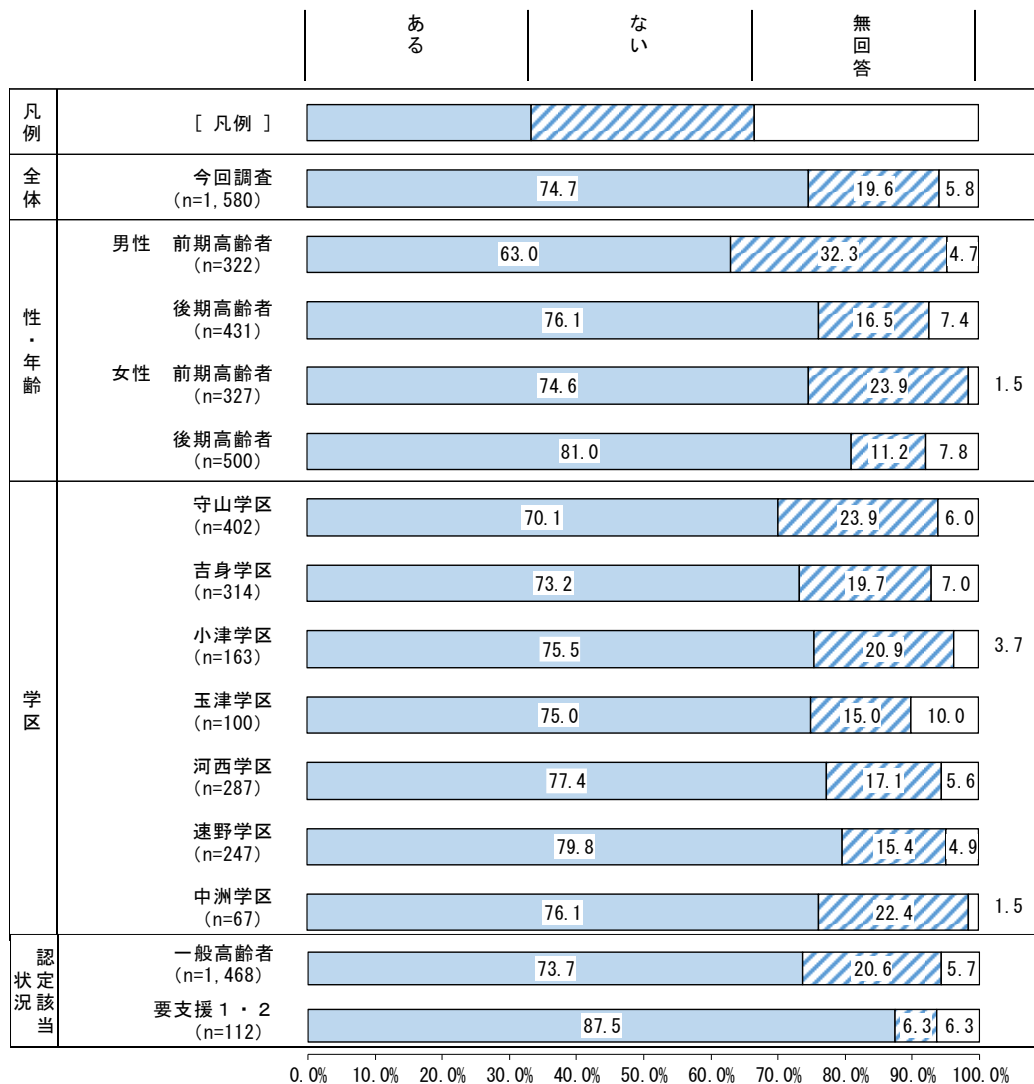
【かかりつけ歯科医の有無】



●問7.8 ③ かかりつけ薬局 (○は1つ)

【全体】	
○	かかりつけ薬局の有無について、「ある」が74.7%、「ない」が19.6%となっています。
【性・年齢】	
○	男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「ある」が高く、特に女性 後期高齢者では81.0%となっています。
【認定該当状況】	
○	「ある」は一般高齢者が73.7%、要支援1・2では87.5%と差が大きくなっています。

【かかりつけ薬局の有無】

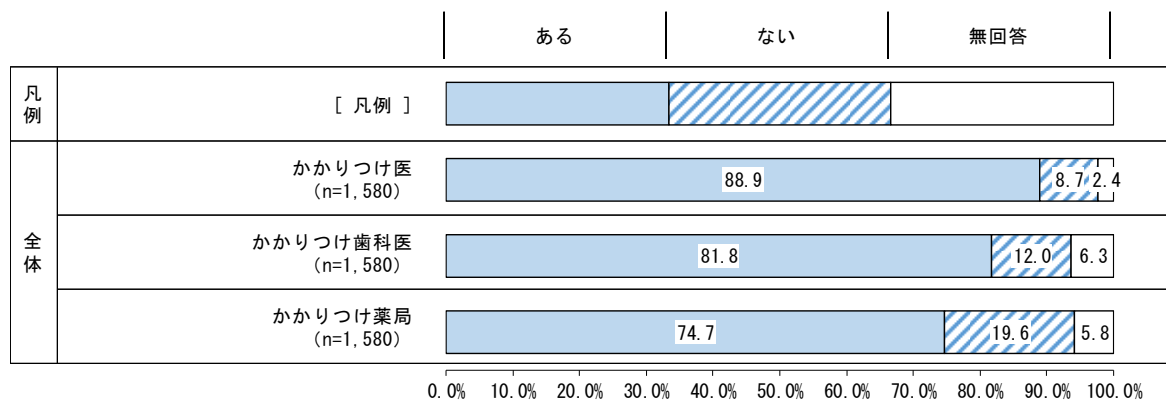


●問7.8 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無（再掲）

【全体】

○ かかりつけ医が「ある」の割合は 88.9%と最も高く、次いでかかりつけ歯科医が 81.8%、かかりつけ薬局が 74.7%となっています。

【かかりつけの有無】



- 問7.9 介護状態にならないように、介護予防や健康づくりに取り組んでいますか。(○は1つ)

【全体】

- 介護予防・健康づくりの取り組み状況について、「取り組んでいる」が73.6%、「取り組んでいない」が23.2%となっています。
- 前回調査に比べると、「取り組んでいない」が高く、「取り組んでいる」が低くなっています。介護予防や健康づくりへの意識は減少していますが、7割以上が介護予防の取組を行っています。

【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「取り組んでいる」が高く、特に女性 前期高齢者では80.4%となっています。

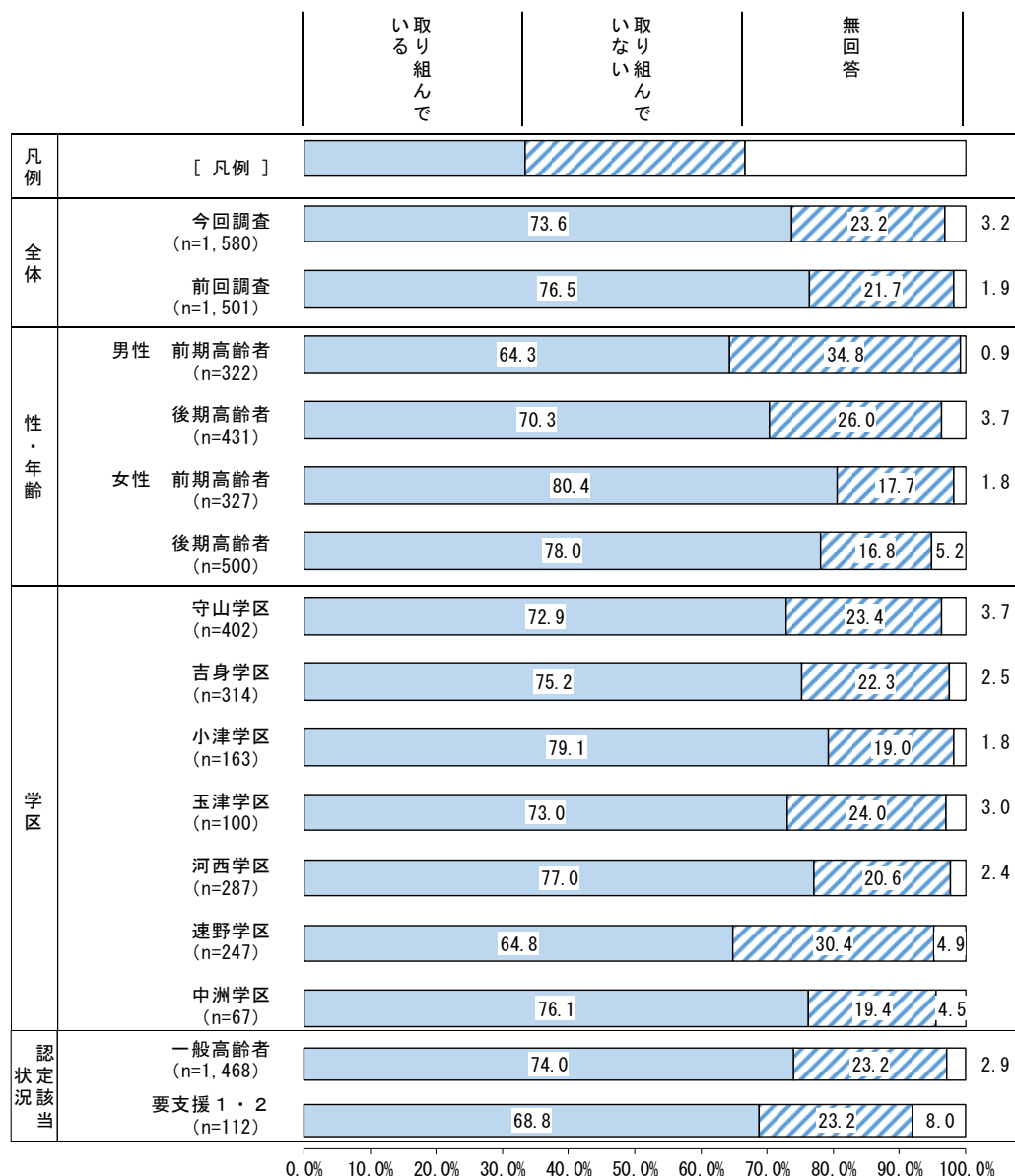
【学区】

- 「取り組んでいる」は小津学区で最も高く79.1%、速野学区で最も低く64.8%となっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では要支援1・2に比べて「取り組んでいる」が高く、74.0%となっています。

【介護予防・健康づくりの取り組み状況】

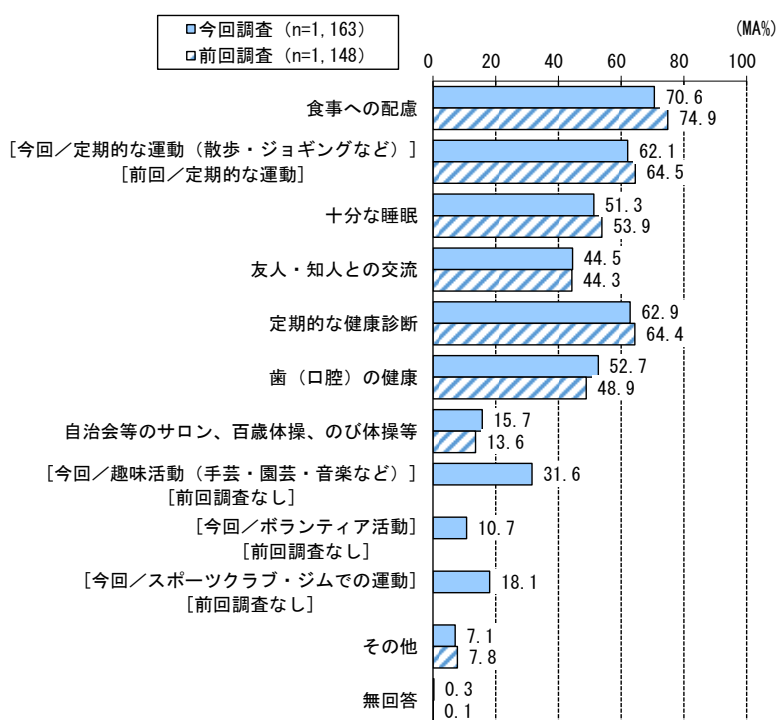


●問7.9-1 どのようなことに取り組んでいますか。(いくつでも○)

【全体】

- 取り組んでいる介護予防の内容について、「食事への配慮」が 70.6%で最も高く、次いで「定期的な健康診断」が 62.9%、「定期的な運動（散歩・ジョギングなど）」が 62.1%となっています。
- 5割以上の方が、「歯（口腔）の健康」について、介護予防の取組を行われています。
- 前回調査に比べると、「歯（口腔）の健康」が高くなり、「食事への配慮」が低くなっています。
- 全体的に、割合が高い項目（「食事への配慮」「定期的な運動」等）について減少傾向にあるものの、大きな変化はありません。

【取り組んでいる介護予防の内容】



【性・年齢】

- 男性 前期高齢者では「定期的な運動（散歩・ジョギングなど）」が最も高く、他の区分では「食事への配慮」が最も高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「食事への配慮」「友人・知人との交流」「歯（口腔）の健康」「自治会等のサロン、百歳体操、のび体操等」「趣味活動（手芸・園芸・音楽など）」が高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「定期的な運動（散歩・ジョギングなど）」「定期的な健康診断」が高くなっています。
- 男女ともに後期高齢者では前期高齢者に比べて「十分な睡眠」「自治会等のサロン、百歳体操、のび体操等」が高くなっています。
- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「スポーツクラブ・ジムでの運動」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援１・２では一般高齢者に比べて、「十分な睡眠」が高くなっています。

単位：％

		母数	取り組んでいる介護予防の内容					
			食事への配慮	「前回／定期的な運動」 「散歩・ジョギングなど」	十分な睡眠	友人・知人との交流	定期的な健康診断	歯（口腔）の健康
性・年齢	男性 前期高齢者（n=207）	207	▼ 58.9	68.1	49.3	▼ 30.9	63.8	▼ 42.0
	後期高齢者（n=303）	303	69.3	68.6	55.8	▼ 33.7	66.7	45.2
	女性 前期高齢者（n=263）	263	72.2	59.7	47.9	54.4	57.8	△ 63.1
	後期高齢者（n=390）	390	76.7	55.4	51.3	53.3	62.8	57.2
学区	守山学区（n=293）	293	69.3	60.4	51.9	43.0	63.8	55.3
	吉身学区（n=236）	236	73.3	64.4	54.7	46.6	65.3	51.7
	小津学区（n=129）	129	76.7	62.0	52.7	51.9	66.7	53.5
	玉津学区（n=73）	73	61.6	▼ 46.6	45.2	43.8	58.9	49.3
	河西学区（n=221）	221	73.3	63.3	49.8	45.2	63.3	54.3
	速野学区（n=160）	160	66.3	70.6	50.6	39.4	57.5	50.0
	中洲学区（n=51）	51	64.7	▼ 51.0	47.1	37.3	56.9	47.1
	一般高齢者（n=1,086）	1,086	70.9	62.6	51.1	45.2	63.2	53.3
状況当定	要支援１・２（n=77）	77	66.2	54.5	54.5	▼ 33.8	58.4	44.2

単位：％

		母数	取り組んでいる介護予防の内容					
			百歳体操、自治会等のサロン、のび体操等	「前回調査なし」 （手芸・園芸・音楽など）」	「今回／趣味活動」	「前回／ボランティア活動」	「今回／スポーツクラブ・ジムでの運動」	その他
性・年齢	男性 前期高齢者（n=207）	207	▼ 4.3	22.2	9.2	23.2	7.2	-
	後期高齢者（n=303）	303	10.6	30.7	11.2	11.9	9.2	0.7
	女性 前期高齢者（n=263）	263	12.5	34.6	12.5	23.6	4.9	0.4
	後期高齢者（n=390）	390	△ 27.9	35.4	9.7	16.7	6.7	0.3
学区	守山学区（n=293）	293	9.2	28.0	9.6	22.5	5.5	0.7
	吉身学区（n=236）	236	13.1	31.4	8.5	19.1	9.3	-
	小津学区（n=129）	129	24.8	34.9	9.3	15.5	8.5	-
	玉津学区（n=73）	73	△ 26.0	27.4	12.3	▼ 5.5	4.1	-
	河西学区（n=221）	221	20.8	36.7	14.9	20.8	6.3	0.5
	速野学区（n=160）	160	12.5	29.4	10.0	15.0	6.9	0.6
	中洲学区（n=51）	51	15.7	37.3	11.8	11.8	9.8	-
	一般高齢者（n=1,086）	1,086	16.0	32.0	11.0	19.0	6.6	0.3
当該認定状況	要支援１・２（n=77）	77	11.7	26.0	5.2	▼ 6.5	13.0	1.3

●問7.9-2 介護予防や健康づくりに取り組まれていない理由は何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- 介護予防に取り組まない理由について、「具体的な取り組み方がわからない」が38.8%で最も高く、次いで「きっかけがない」が37.4%、「忙しくて時間がない」が19.9%となっています。
- 前回調査と比べ、「具体的な取り組み方がわからない」「きっかけがない」が高く、「介護予防に関心がない」が低くなっています。
- 「介護予防に関心がない」は低くなっているため、介護予防の意識は上昇傾向にあるものの、様々な理由で介護予防に取り組めない事情があると思われます。

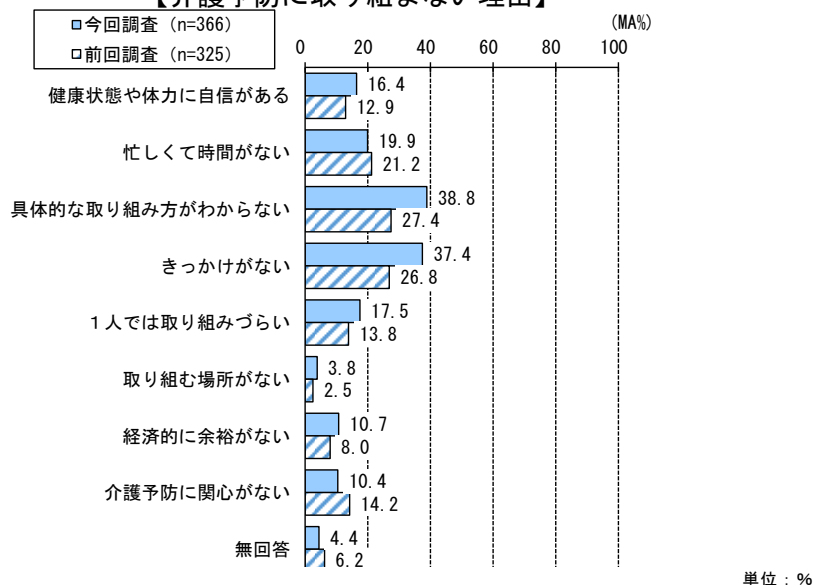
【性・年齢】

- 男性では「具体的な取り組み方がわからない」が最も高く、女性では「きっかけがない」が最も高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「健康状態や体力に自信がある」「介護予防に関心がない」が高くなっています。
- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「忙しくて時間がない」「きっかけがない」が高くなっています。
- 男性 後期高齢者では「1人では取り組みづらい」が19.6%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「具体的な取り組み方がわからない」「1人では取り組みづらい」「取り組む場所がない」「介護予防に関心がない」が高くなっています。

【介護予防に取り組まない理由】



			介護予防に取り組まない理由									
			母数	健康に自信がある	忙しくて時間がない	具体的な取り組み方がわからない	きっかけがない	1人では取り組みづらい	取り組む場所がない	経済的に余裕がない	介護予防に関心がない	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=112)	112	19.6	25.9	40.2	37.5	15.2	2.7	10.7	11.6	2.7
		後期高齢者 (n=112)	112	21.4	13.4	37.5	29.5	19.6	1.8	8.9	16.1	5.4
	女性	前期高齢者 (n=58)	58	▼ 5.2	27.6	41.4	△ 48.3	17.2	6.9	10.3	3.4	5.2
		後期高齢者 (n=84)	84	13.1	15.5	36.9	40.5	17.9	6.0	13.1	6.0	4.8
学区	守山学区 (n=94)		94	14.9	19.1	35.1	33.0	22.3	6.4	11.7	13.8	7.4
	吉身学区 (n=70)		70	15.7	22.9	42.9	45.7	12.9	1.4	10.0	11.4	2.9
	小津学区 (n=31)		31	9.7	▼ 9.7	35.5	▼ 22.6	16.1	3.2	6.5	19.4	9.7
	玉津学区 (n=24)		24	25.0	20.8	33.3	41.7	16.7	-	△ 20.8	4.2	4.2
	河西学区 (n=59)		59	22.0	16.9	42.4	42.4	20.3	-	8.5	5.1	3.4
	速野学区 (n=75)		75	16.0	20.0	40.0	34.7	14.7	8.0	10.7	8.0	1.3
	中洲学区 (n=13)		13	7.7	△ 46.2	38.5	46.2	15.4	-	7.7	7.7	-
当該認定状況	一般高齢者 (n=340)		340	16.5	21.2	38.2	37.9	17.1	3.5	10.9	10.3	4.4
	要支援1・2 (n=26)		26	15.4	▼ 3.8	46.2	30.8	23.1	7.7	7.7	11.5	3.8

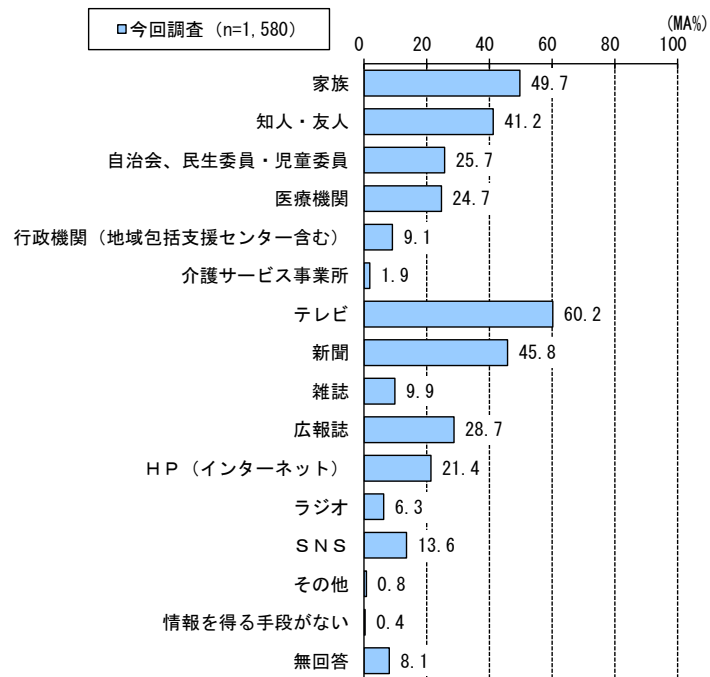
注) 回答形式は、今回がいくつでも選択、前回は2つまで選択となっています。

●問7.10 健康や生活、地域に関する情報をどこから得ていますか。(いくつでも○)

【全体】

○ 健康・生活情報の入手先について、「テレビ」が 60.2%で最も高く、次いで「家族」が 49.7%、「新聞」が 45.8%となっています。

【健康・生活情報の入手先】



【性・年齢】

- 男性 前期高齢者では「家族」が最も高く、他の区分では「テレビ」が最も高くなっています。
- 男性 前期高齢者では「HP（インターネット）」が37.3%と他の区分に比べて高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「友人・知人」「雑誌」「広報誌」が高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「行政機関（地域包括支援センター含む）」「SNS」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「行政機関（地域包括支援センター含む）」「介護サービス事業所」が高くなっています。

単位：％

		母数	健康・生活情報の入手先								
			家族	知人・友人	民生委員会、児童委員	医療機関	セ（地域包括支援センター含む）	行政機関	介護サービス所	テレビ	新聞
性・年齢	男性 前期高齢者（n=322）	322	51.2	▼ 29.8	26.4	17.1	11.5	1.2	▼ 49.4	▼ 33.2	
	後期高齢者（n=431）	431	57.3	▼ 29.7	25.3	32.3	10.7	1.9	61.0	53.1	
	女性 前期高齢者（n=327）	327	46.2	51.1	19.6	24.8	6.1	0.6	64.8	41.0	
	後期高齢者（n=500）	500	44.4	△ 52.0	29.6	23.2	8.2	3.2	63.4	50.6	
学区	守山学区（n=402）	402	49.5	36.3	20.4	23.1	6.2	2.0	60.0	44.0	
	吉身学区（n=314）	314	46.8	41.4	23.6	28.0	14.3	2.5	61.1	42.4	
	小津学区（n=163）	163	47.9	44.2	30.7	25.8	9.2	1.2	65.0	50.3	
	玉津学区（n=100）	100	51.0	△ 52.0	△ 40.0	20.0	12.0	5.0	64.0	48.0	
	河西学区（n=287）	287	52.6	46.3	28.2	25.4	8.7	2.1	62.7	55.4	
	速野学区（n=247）	247	49.8	35.2	23.5	23.1	6.1	0.4	53.4	37.7	
	中洲学区（n=67）	67	53.7	46.3	31.3	26.9	10.4	-	53.7	46.3	
当該認定状況	一般高齢者（n=1,468）	1,468	49.9	42.1	25.7	25.1	8.9	0.8	60.4	45.8	
	要支援 1・2（n=112）	112	46.4	▼ 29.5	25.0	20.5	11.6	△ 16.1	57.1	44.6	

単位：％

		母数	健康・生活情報の入手先							
			雑誌	広報誌	（インターネット）	ラジオ	SNS	その他	情報を得る手段がない	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者（n=322）	322	6.8	23.3	△ 37.3	4.0	19.6	0.3	0.6	8.1
	後期高齢者（n=431）	431	7.7	28.8	21.1	6.3	10.9	1.2	0.5	7.4
	女性 前期高齢者（n=327）	327	14.7	30.0	25.7	4.9	19.3	1.2	0.6	8.6
	後期高齢者（n=500）	500	10.6	31.4	▼ 8.6	8.8	8.4	0.4	0.2	8.4
学区	守山学区（n=402）	402	10.7	32.1	24.6	4.2	14.7	0.2	0.7	8.0
	吉身学区（n=314）	314	8.9	33.1	26.4	4.1	13.7	1.0	—	6.4
	小津学区（n=163）	163	11.0	31.9	17.8	6.7	12.9	1.8	1.2	11.0
	玉津学区（n=100）	100	9.0	19.0	12.0	10.0	11.0	1.0	—	8.0
	河西学区（n=287）	287	10.1	27.2	19.2	11.1	13.2	0.3	—	8.0
	速野学区（n=247）	247	7.7	22.3	19.8	5.7	13.0	0.8	0.8	9.7
	中洲学区（n=67）	67	14.9	25.4	16.4	4.5	16.4	1.5	—	4.5
	一般高齢者（n=1,468）	1,468	10.3	29.0	22.5	6.4	14.4	0.7	0.4	8.4
当該認定状況	要支援1・2（n=112）	112	4.5	25.9	▼ 7.1	5.4	▼ 3.6	0.9	0.9	4.5

10. 認知症について

(1) 認知症の症状の有無

- 問8.1 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

【全体】

- 本人・家族における認知症症状の有無について、「はい」が10.5%、「いいえ」が85.9%となっています。
- 前回調査と比べ、「はい」は高く、「いいえ」は低くなっていますが、大きな変化はありません。

【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「はい」がやや高くなっています。

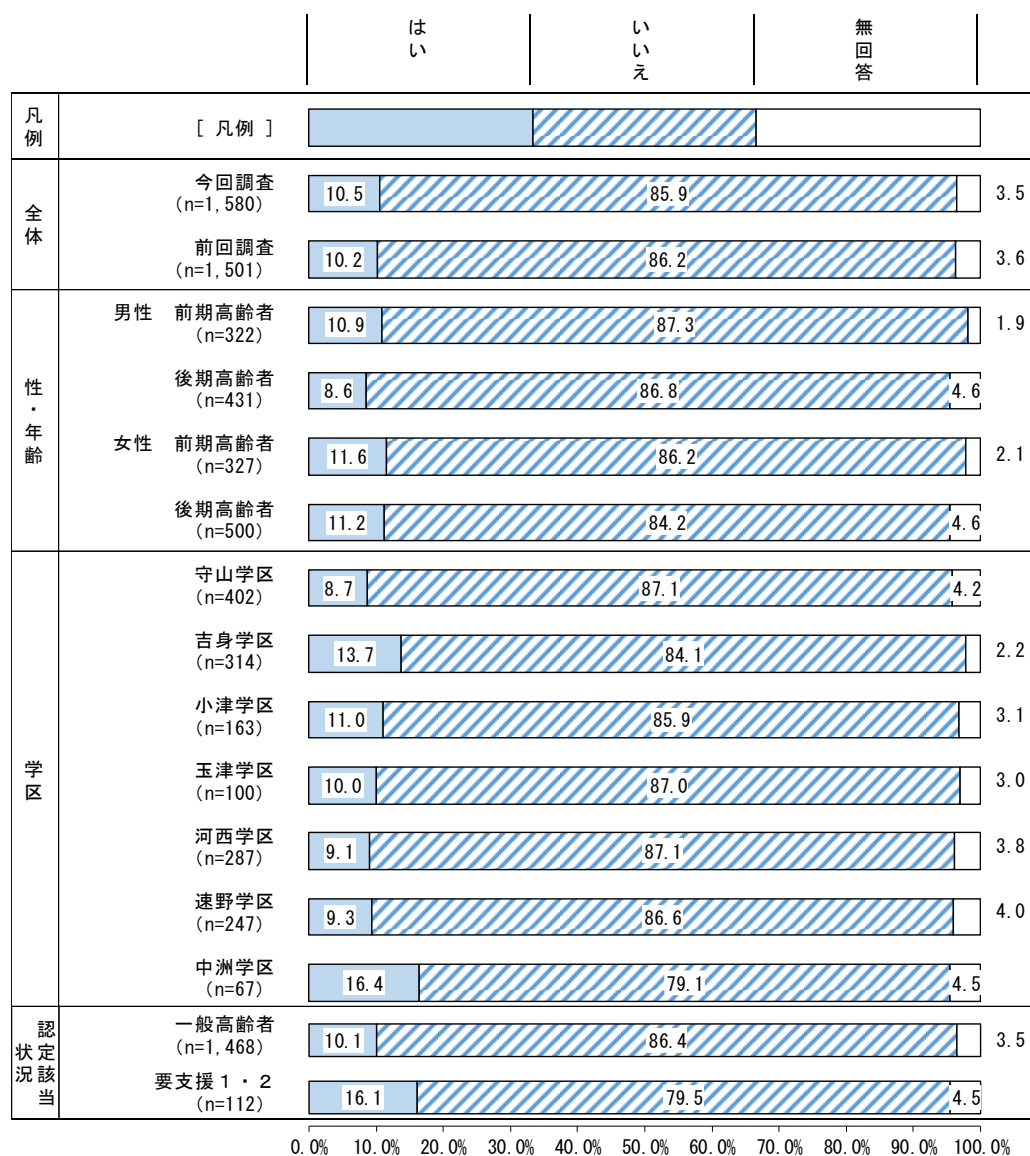
【学区】

- 中洲学区では「はい」が他の区分にくらべてやや高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「はい」が16.1%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【本人・家族における認知症症状の有無】



(2) 認知症に関する理解

●問8.2 認知症について、どのように理解していますか。(いくつでも○)

【全体】

- 認知症に対する理解度について、「単なる物忘れとは異なる」が71.2%で最も高く、次いで「服薬や対応により進行を遅らせることができる」が65.4%、「早期発見・早期受診が必要」が64.3%となっています。
- 前回調査に比べて、ほとんどの項目で回答割合が高くなっており、認知症に関する理解が深まっている傾向がみられます。

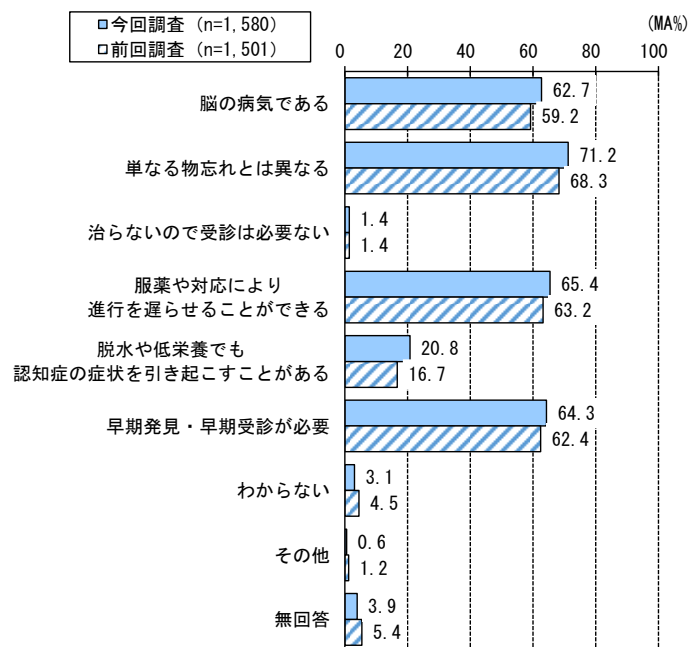
【性・年齢】

- 男性 後期高齢者では「わからない」が他の区分にくらべてわずかに高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「わからない」がやや高く、理解している内容の回答割合は低くなっています。

【認知症に対する理解度】



単位：%

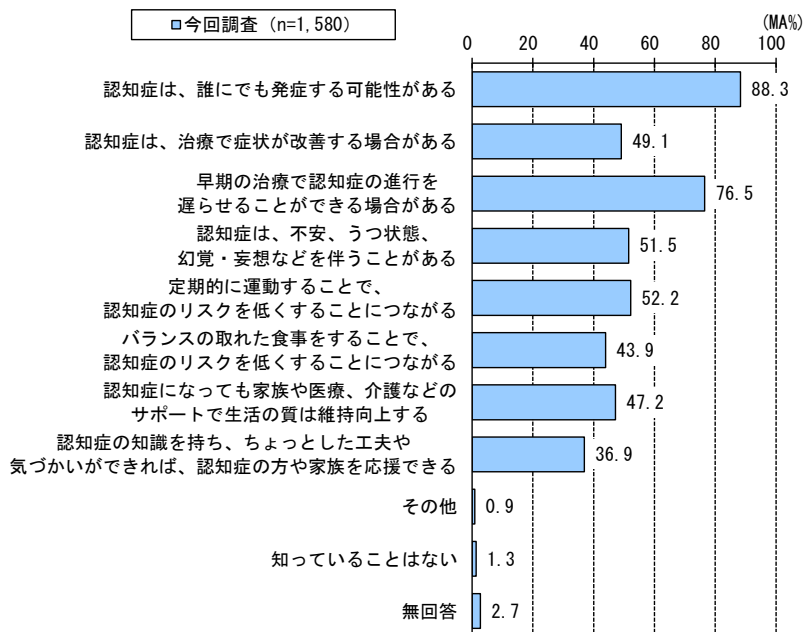
			認知症に対する理解度									単位：%
		母数	脳の 病気 である	単 なる 物 忘 れ と は 異 な る	治 ら な い の で 受 診 は 必 要 な い	服 薬 や 対 応 に よ り 進 行 を 遅 ら せ る こ と が で き る	脱 水 や 低 栄 養 で も 引 き 起 こ す こ と が あ る	早 期 受 診 が 必 要	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答	
性・ 年 齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	65.8	69.3	0.9	62.7	16.5	61.2	3.1	0.3	2.2	
	後期高齢者 (n=431)	431	60.8	67.7	1.9	▼ 54.3	13.9	58.2	4.2	0.7	4.4	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	69.1	79.8	0.9	△ 78.6	26.9	70.0	1.5	0.9	1.8	
	後期高齢者 (n=500)	500	58.0	69.8	1.6	68.2	25.6	67.8	3.2	0.4	5.8	
学 区	守山学区 (n=402)	402	58.7	72.4	1.0	62.2	18.9	62.9	4.0	0.2	4.7	
	吉身学区 (n=314)	314	66.9	72.0	2.2	68.2	22.6	64.0	3.2	0.6	2.9	
	小津学区 (n=163)	163	65.6	73.6	1.8	68.1	22.7	63.8	1.8	0.6	0.6	
	玉津学区 (n=100)	100	57.0	69.0	1.0	57.0	20.0	65.0	1.0	1.0	8.0	
	河西学区 (n=287)	287	64.5	70.7	0.7	69.3	23.0	69.0	3.8	0.3	3.5	
	速野学区 (n=247)	247	60.3	67.2	2.0	64.4	19.0	61.1	2.8	1.2	4.5	
	中洲学区 (n=67)	67	68.7	74.6	-	65.7	17.9	65.7	1.5	-	4.5	
該 認 定 状 況	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	63.5	71.5	1.4	66.3	21.1	64.9	3.0	0.5	3.8	
	要支援 1・2 (n=112)	112	▼ 51.8	67.9	0.9	▼ 53.6	17.0	57.1	4.5	1.8	4.5	

●問8.3 認知症について、あなたが知っていることは何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- 認知症について知っている知識について、「認知症は、誰にでも発症する可能性がある」が88.3%で最も高く、次いで「早期の治療で認知症の進行を遅らせることができる場合がある」が76.5%、「定期的に運動することで、認知症のリスクを低くすることにつながる」が52.2%となっています。

【認知症について知っている知識】



【性・年齢】

- 多くの項目において、後期高齢者では前期高齢者に比べて回答割合が低くなっています。
- 男性 後期高齢者では「知っていることはない」が他の区分にくらべてわずかに高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「その他」を除くすべての項目で回答割合が低いですが、「定期的に運動することで、認知症のリスクを低くすることにつながる」が40.2%と特に低くなっています。

			単位：%							
			母数	認知症について知っている知識						
				認知症は、可能性はある	認知症は、改善する可能性がある	早期の診断と治療で認知症の進行を遅らせることができる	うつ状態は、不安・妄想などがある	認知症のリスクを低くすることにつながる	定期的な運動をすること、認知症のリスクを低くすることにつながる	バランスのとれた食事の摂取をすることにつながる
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=322)	322	90.7	48.4	72.0	46.3	54.3	43.5	
		後期高齢者 (n=431)	431	85.8	45.2	72.9	42.7	50.3	41.3	
	女性	前期高齢者 (n=327)	327	93.0	54.7	83.8	△ 62.1	52.3	47.1	
		後期高齢者 (n=500)	500	85.8	49.2	77.8	55.4	52.2	44.4	
学区		守山学区 (n=402)	402	87.8	48.8	72.6	51.7	50.2	43.3	
		吉身学区 (n=314)	314	90.1	53.8	78.7	54.5	54.1	47.8	
		小津学区 (n=163)	163	90.2	46.6	83.4	56.4	57.7	47.9	
		玉津学区 (n=100)	100	85.0	43.0	75.0	44.0	49.0	37.0	
		河西学区 (n=287)	287	84.7	46.7	79.8	51.9	53.0	44.9	
		速野学区 (n=247)	247	89.5	51.4	72.9	48.6	49.4	41.3	
		中洲学区 (n=67)	67	94.0	46.3	74.6	43.3	52.2	35.8	
		一般高齢者 (n=1,468)	1,468	88.8	49.5	77.0	51.7	53.1	44.1	
状況	要支援 1・2 (n=112)	112	81.3	44.6	70.5	48.2	▼ 40.2	41.1		

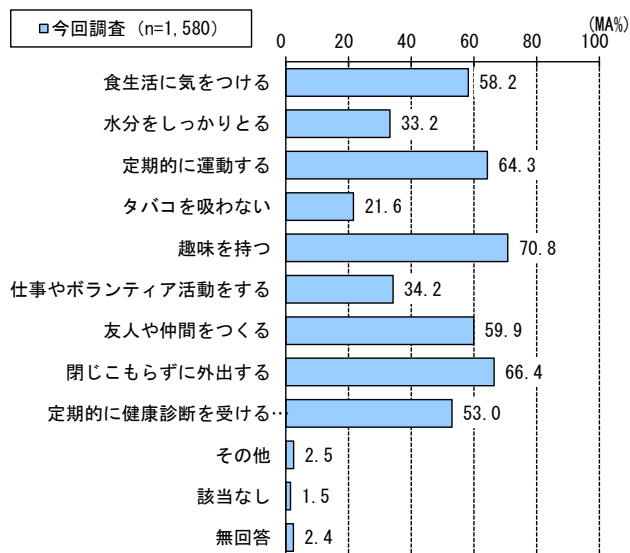
			単位：％					
			母数	認知症について知っている知識				
				生活の質は維持向上する	認知症の知識を持つことができれば、認知症の方や家族を支援できる	その他	知っていることはない	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者（n=322）	322	40.1	32.0	0.9	1.6	1.6
		後期高齢者（n=431）	431	38.3	30.6	0.9	2.8	3.9
	女性	前期高齢者（n=327）	327	56.9	43.1	1.2	-	0.9
		後期高齢者（n=500）	500	53.0	41.4	0.6	0.6	3.4
学区		守山学区（n=402）	402	46.8	36.1	0.5	1.0	3.5
		吉身学区（n=314）	314	48.1	36.9	1.3	1.3	1.6
		小津学区（n=163）	163	47.9	40.5	-	1.8	0.6
		玉津学区（n=100）	100	40.0	28.0	1.0	2.0	3.0
		河西学区（n=287）	287	51.9	40.8	1.0	1.4	4.2
		速野学区（n=247）	247	44.9	36.4	1.2	1.2	2.4
		中洲学区（n=67）	67	41.8	31.3	1.5	-	1.5
当該状況	一般高齢者（n=1,468）	1,468	47.5	37.3	0.9	1.4	2.5	
	要支援1・2（n=112）	112	42.0	31.3	0.9	-	4.5	

- 問8.4 あなたが、認知症を予防するために効果があると思うものは何ですか。(いくつでも○)

【全体】

- 認知症予防に効果的だと思う活動について、「趣味を持つ」が70.8%で最も高く、次いで「閉じこもらずに外出する」が66.4%、「定期的に運動する」が64.3%となっています。

【認知症予防に効果的だと思う活動】



【性・年齢】

- 男性 前期高齢者では「定期的に運動する」が 68.6%と他の区分に比べて高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「食生活に気をつける」「水分をしっかりとる」「趣味を持つ」「友人や仲間をつくる」「閉じこもらずに外出する」が高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「友人や仲間をつくる」「閉じこもらずに外出する」が他の区分にくらべて特に高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「食生活に気をつける」「水分をしっかりとる」「その他」が高く、他の項目では低くなっています。

			認知症予防に効果的だと思う活動						単位：％
性・年齢	母数	母数	食生活に気をつける	水分をしっかりとる	定期的に運動する	タバコを吸わない	趣味を持つ	仕事やボランティア活動をする	
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	56.5	25.8	68.6	24.5	68.6	43.2	
	後期高齢者 (n=431)	431	52.9	27.4	62.6	19.5	66.1	30.9	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	63.3	37.6	66.4	22.3	73.1	38.8	
	後期高齢者 (n=500)	500	60.6	40.2	61.6	21.2	74.6	28.4	
学区	守山学区 (n=402)	402	60.7	33.6	63.4	23.4	69.2	31.8	
	吉身学区 (n=314)	314	61.1	35.0	65.9	19.7	74.8	31.2	
	小津学区 (n=163)	163	58.3	36.8	70.6	24.5	71.2	36.2	
	玉津学区 (n=100)	100	51.0	30.0	57.0	15.0	70.0	36.0	
	河西学区 (n=287)	287	56.4	33.4	62.4	21.6	70.7	38.0	
	速野学区 (n=247)	247	55.1	30.0	65.6	23.1	68.4	34.0	
	中洲学区 (n=67)	67	59.7	29.9	61.2	17.9	70.1	40.3	
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	58.0	32.7	65.2	21.9	71.7	35.3	
	要支援1・2 (n=112)	112	61.6	40.2	▼ 52.7	18.8	▼ 58.0	▼ 20.5	

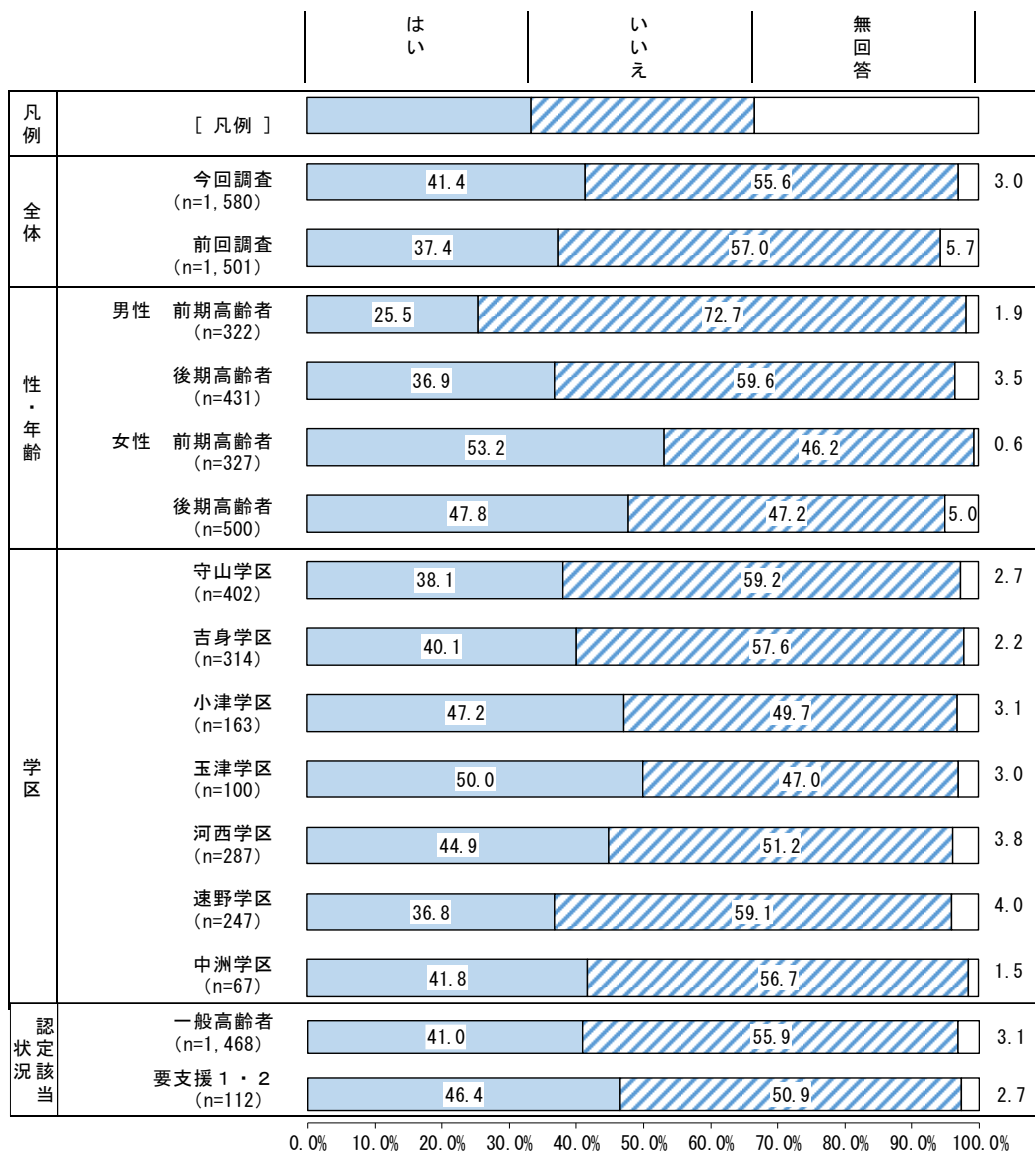
			認知症予防に効果的だと思う活動						単位：％
性・年齢	母数	母数	友人や仲間をつくる	外閉じこもらずに 受ける忘れ予防健診を	受ける定期的健康診断を	その他	該当なし	無回答	
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	55.6	64.3	48.4	2.2	1.9	1.6	
	後期高齢者 (n=431)	431	▼ 49.0	▼ 55.7	55.0	2.6	2.6	3.7	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	68.2	74.6	52.9	2.4	0.9	1.2	
	後期高齢者 (n=500)	500	66.6	71.6	54.2	2.8	0.6	2.6	
学区	守山学区 (n=402)	402	57.7	67.7	51.5	2.2	1.0	3.5	
	吉身学区 (n=314)	314	61.1	65.9	53.5	3.2	1.9	1.0	
	小津学区 (n=163)	163	65.0	66.3	55.2	3.7	2.5	0.6	
	玉津学区 (n=100)	100	65.0	69.0	49.0	1.0	3.0	2.0	
	河西学区 (n=287)	287	61.3	65.9	56.8	3.1	1.0	3.1	
	速野学区 (n=247)	247	53.4	62.8	50.2	2.0	0.8	2.8	
	中洲学区 (n=67)	67	64.2	73.1	53.7	-	1.5	3.0	
状況認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	60.8	67.0	53.1	2.5	1.4	2.3	
	要支援1・2 (n=112)	112	▼ 48.2	58.0	50.9	2.7	1.8	3.6	

(3) 認知症に関する相談や施策

●問8.5 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(〇は1つ)

【全体】	
○	認知症相談窓口の認知度について、「はい」が 41.4%、「いいえ」が 55.6%となっています。
○	前回調査に比べると、認知症相談窓口の認知度は上昇しています。
【性・年齢】	
○	前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「はい」が高く、特に女性 前期高齢者では 53.2%となっています。
【認定該当状況】	
○	「いいえ」は一般高齢者が 55.9%と要支援 1・2 に比べて高くなっています。

【認知症相談窓口の認知度】



●問8.5-1 知っている相談窓口はどのようなものですか。(いくつでも○)

【全体】

- 知っている相談窓口の種類について、「医療機関（物忘れ外来含む）」が 74.0%で最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 68.2%、「市役所」が 34.6%となっています。

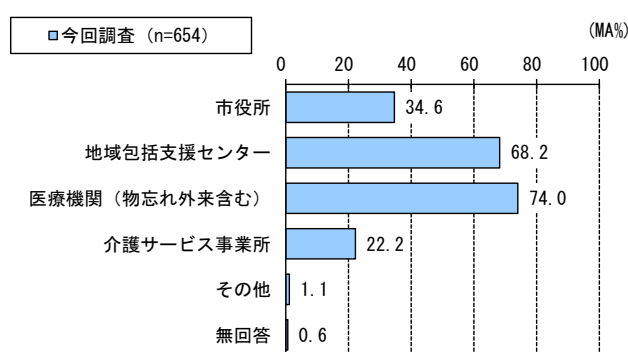
【性・年齢】

- 男性 前期高齢者では「市役所」が 47.6%、「介護サービス事業所」が 28.0%と他の区分に比べて高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「地域包括支援センター」が 76.4%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「介護サービス事業所」が 40.4%と一般高齢者に比べて特に高くなっています。

【知っている相談窓口の種類】



単位：%

		母数	知っている相談窓口の種類					
			市役所	地域包括支援センター	医療機関 (物忘れ外来含む)	介護サービス事業所	その他	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=82)	82	△ 47.6	67.1	68.3	28.0	-	-
	後期高齢者 (n=159)	159	33.3	63.5	70.4	18.2	1.9	1.3
	女性 前期高齢者 (n=174)	174	33.9	76.4	72.4	23.0	0.6	-
	後期高齢者 (n=239)	239	31.4	65.7	79.5	22.2	1.3	0.8
学区	守山学区 (n=153)	153	30.1	64.7	72.5	24.8	0.7	0.7
	吉身学区 (n=126)	126	43.7	70.6	80.2	17.5	0.8	-
	小津学区 (n=77)	77	32.5	75.3	68.8	20.8	1.3	-
	玉津学区 (n=50)	50	28.0	60.0	▼ 62.0	30.0	-	2.0
	河西学区 (n=129)	129	32.6	71.3	80.6	23.3	1.6	-
	速野学区 (n=91)	91	39.6	65.9	65.9	20.9	2.2	2.2
	中洲学区 (n=28)	28	28.6	64.3	△ 85.7	17.9	-	-
当該認定状況	一般高齢者 (n=602)	602	34.9	68.3	74.1	20.6	1.0	0.7
	要支援1・2 (n=52)	52	30.8	67.3	73.1	△ 40.4	1.9	-

- 問8.6 あなたが、認知症かも？と悩んだ時は、どちらに相談されますか。(いくつでも○)

【全体】

- 認知症に関する相談先について、「家族・親戚に相談する」が 70.5%で最も高く、次いで「かかりつけ医に相談する」が 59.1%、「認知症の専門医に相談する」が 35.1%となっています。
- 前回調査に比べると、「友人に相談する」が高く、「行政機関（地域包括支援センター等）に相談する」が低くなっています。「家族・親戚」「友人」など身近な人への相談が上昇傾向にあります。

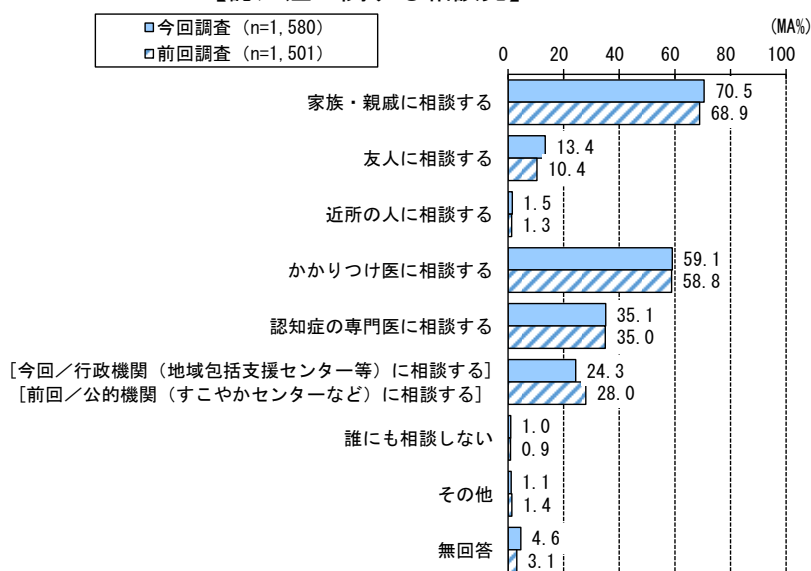
【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「家族・親戚に相談する」「友人に相談する」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では「家族・親戚に相談する」が最も高く、要支援1・2では「かかりつけ医に相談する」が最も高くなっています。

【認知症に関する相談先】



単位：%

単位：%

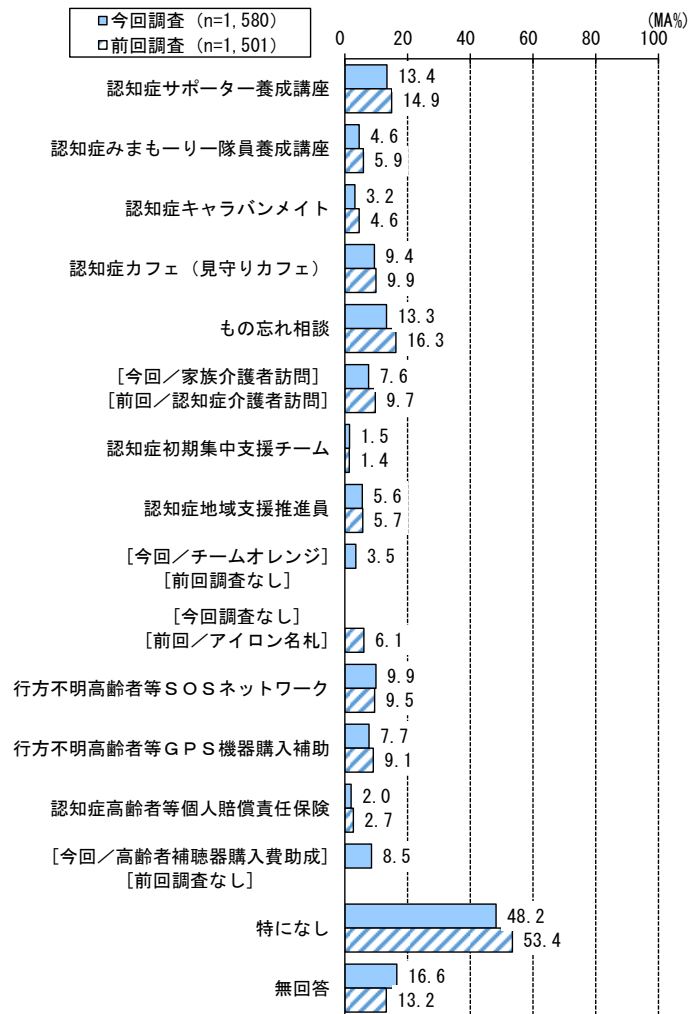
		母数	認知症に関する相談先								
			家族・親戚に相談する	友人に相談する	近所の人に相談する	かかりつけ医に相談する	認知症の専門医に相談する	（前回／公的機関（すやかセンターなど）に相談する）	「今回／行政機関（地域包括支援センター等）に相談する」	誰にも相談しない	その他
性・年齢	男性 前期高齢者（n=322）	322	68.3	10.9	0.6	54.3	29.5	21.7	1.9	1.6	5.0
	後期高齢者（n=431）	431	68.2	8.1	0.9	62.4	34.6	24.6	1.2	1.2	5.6
	女性 前期高齢者（n=327）	327	74.3	17.7	1.2	52.3	41.0	26.9	0.6	0.9	1.5
	後期高齢者（n=500）	500	71.4	16.6	2.8	63.6	35.4	24.0	0.6	1.0	5.6
学区	守山学区（n=402）	402	71.4	9.5	0.7	57.2	32.1	24.4	1.0	1.0	4.0
	吉身学区（n=314）	314	69.1	15.3	0.6	61.1	36.9	27.7	1.6	1.0	2.2
	小津学区（n=163）	163	69.3	11.7	3.7	59.5	36.8	27.6	1.2	1.8	4.9
	玉津学区（n=100）	100	69.0	16.0	3.0	60.0	38.0	22.0	3.0	1.0	5.0
	河西学区（n=287）	287	73.5	17.1	2.1	62.7	40.4	25.1	0.3	1.0	4.9
	速野学区（n=247）	247	66.8	14.2	1.2	54.3	29.1	19.4	-	1.6	8.5
	中洲学区（n=67）	67	77.6	9.0	1.5	59.7	35.8	17.9	1.5	-	3.0
当該状況当定	一般高齢者（n=1,468）	1,468	71.3	13.4	1.4	58.4	35.3	23.9	0.8	1.1	4.8
	要支援1・2（n=112）	112	60.7	12.5	2.7	67.0	33.0	29.5	3.6	1.8	1.8

- 問8.7 市が実施している認知症施策について、知っているものはありますか。(いくつでも○)

【全体】

- 市の認知症施策の認知度について、「特になし」が48.2%で最も高く、次いで「認知症サポーター養成講座」が13.4%、「もの忘れ相談」が13.3%となっています。
- 前回調査に比べて「特になし」がやや低くなっています。

【市の認知症施策の認知度】



【性・年齢】

- 「特になし」は女性 後期高齢者では 34.6%と他の区分に比べて低く、男性 前期高齢者では 66.1%と高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「認知症サポーター養成講座」「認知症カフェ（見守りカフェ）」「行方不明高齢者等SOSネットワーク」など多くの項目で高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「認知症みまもり一隊員養成講座」「認知症カフェ（見守りカフェ）」「物忘れ相談」「家族介護者訪問」「認知症地域支援推進員」「認知症高齢者等個人賠償責任保険」が高くなっています。

単位：%											
		母数	市の認知症施策の認知度								
			認知症サポーター養成講座	認知症みまもり隊員養成講座	認知症キャラバンメイト	認知症カフェ（見守りカフェ）	もの忘れ相談	「前回／家族介護者訪問」 「今回／認知症介護者訪問」	認知症初期集中支援チーム	認知症地域支援推進員	
性・年齢	男性	前期高齢者（n=322）	322	9.9	3.4	2.8	5.9	6.8	5.6	0.3	3.4
		後期高齢者（n=431）	431	8.1	3.7	1.6	4.4	7.4	7.2	1.2	6.0
	女性	前期高齢者（n=327）	327	21.7	5.8	5.2	15.3	19.6	9.2	2.8	5.8
		後期高齢者（n=500）	500	14.8	5.2	3.6	12.2	18.4	8.2	1.6	6.6
学区		守山学区（n=402）	402	10.7	4.2	2.2	7.5	11.2	5.5	1.0	3.7
		吉身学区（n=314）	314	12.7	2.9	1.9	10.5	12.7	7.6	1.9	7.3
		小津学区（n=163）	163	19.0	6.1	6.1	14.1	20.2	9.2	1.8	7.4
		玉津学区（n=100）	100	17.0	8.0	6.0	10.0	12.0	7.0	2.0	10.0
		河西学区（n=287）	287	18.1	5.2	4.9	9.8	17.8	8.7	1.0	4.2
		速野学区（n=247）	247	6.9	4.5	2.0	7.7	7.7	8.1	1.2	5.7
		中洲学区（n=67）	67	17.9	3.0	1.5	9.0	14.9	10.4	3.0	4.5
当該認定状況		一般高齢者（n=1,468）	1,468	13.9	4.5	3.3	9.4	13.2	7.4	1.5	5.4
		要支援1・2（n=112）	112	7.1	5.4	1.8	9.8	14.3	9.8	0.9	8.0

			市の認知症施策の認知度								単位：％
			母数	「今回／チームオレンジ」 「前回調査なし」	SOSネットワーク 行方不明高齢者等	GPS機器購入補助 行方不明高齢者等	個人賠償責任保険 認知症高齢者等	「今回／高齢者補聴器 購入費助成」 「前回調査なし」	特になし	無回答	
性・年齢	男性	前期高齢者（n=322）	322	3.4	7.1	5.9	1.2	4.3	△ 66.1	9.6	
		後期高齢者（n=431）	431	1.4	7.4	5.8	0.9	7.0	53.1	18.8	
	女性	前期高齢者（n=327）	327	5.8	15.3	8.3	4.0	9.5	45.0	9.8	
		後期高齢者（n=500）	500	3.8	10.2	10.2	2.0	11.8	▼ 34.6	23.6	
学区		守山学区（n=402）	402	2.0	7.7	6.5	1.2	5.2	53.7	16.7	
		吉身学区（n=314）	314	2.9	10.5	6.4	2.9	10.5	51.0	15.0	
		小津学区（n=163）	163	1.8	14.7	7.4	1.8	4.9	▼ 37.4	14.1	
		玉津学区（n=100）	100	△ 18.0	13.0	9.0	2.0	12.0	▼ 35.0	23.0	
		河西学区（n=287）	287	3.8	10.5	10.8	2.1	10.8	46.7	14.6	
		速野学区（n=247）	247	2.0	7.3	7.7	2.0	8.1	52.2	19.4	
		中洲学区（n=67）	67	1.5	10.4	7.5	1.5	13.4	40.3	17.9	
当該認定状況		一般高齢者（n=1,468）	1,468	3.7	10.1	7.8	1.8	8.6	48.8	15.7	
		要支援1・2（n=112）	112	0.9	6.3	6.3	3.6	7.1	40.2	28.6	

(4) 認知症の人の暮らし

●問8.8 あなたが認知症になった場合、どのような不安がありますか。(いくつでも○)

【全体】

- 認知症になった場合の不安要素について、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではない」が 83.9%で最も高く、次いで「周囲に迷惑をかけてしまうのではない」が 66.7%、「買い物や料理、車の運転など、できていたことができなくなってしまうのではない」が 63.9%となっています。

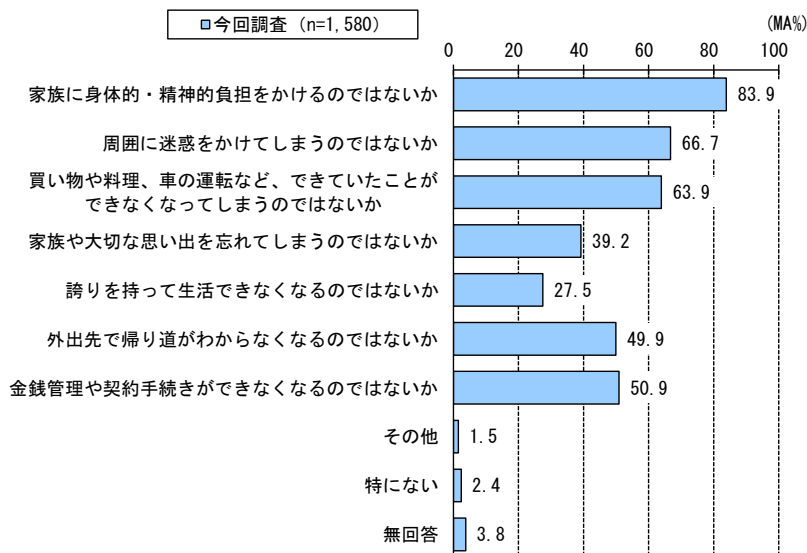
【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「その他」を除くすべての項目で高くなっています。
- 女性前期高齢者では「家族に身体的・精神的負担をかけるのではない」「周囲に迷惑をかけてしまうのではない」「外出先で帰り道がわからなくなるのではない」など多くの項目で他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 「その他」を除く全ての項目において、一般高齢者では要支援1・2に比べて割合が高くなっています。

【認知症になった場合の不安要素】



単位：%

		母数	認知症になった場合の不安要素									
			家族に身体的・精神的負担をかけるのではない	周囲に迷惑をかけてしまうのではない	買い物や料理、車の運転など、できていたことができなくなってしまうのではない	家族や大切な思い出を忘れてしまうのではない	誇りを持って生活できなくなるのではない	外出先で帰り道がわからない	金銭管理や契約手続きができない	その他	特にない	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	80.7	67.4	62.7	36.0	25.8	47.2	50.0	2.2	2.8	4.7
	後期高齢者 (n=431)	431	80.3	62.2	58.7	36.4	26.2	45.5	43.2	0.5	4.2	5.6
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	91.1	71.6	72.8	41.9	27.5	58.1	57.2	2.1	0.9	1.2
	後期高齢者 (n=500)	500	84.4	67.0	63.4	42.0	29.8	50.2	54.2	1.6	1.6	3.4
学区	守山学区 (n=402)	402	85.1	67.7	62.4	38.6	27.1	49.5	50.2	1.7	2.0	3.5
	吉身学区 (n=314)	314	85.7	68.8	64.0	43.9	32.2	52.5	58.3	1.6	2.9	2.2
	小津学区 (n=163)	163	87.1	68.7	71.8	42.3	30.7	50.3	53.4	-	2.5	3.1
	玉津学区 (n=100)	100	83.0	65.0	61.0	35.0	21.0	53.0	50.0	1.0	2.0	6.0
	河西学区 (n=287)	287	83.3	64.5	62.7	40.1	28.2	50.2	50.5	2.1	2.8	4.5
	速野学区 (n=247)	247	77.3	65.6	61.5	34.4	23.9	46.6	44.9	1.6	2.4	5.7
	中洲学区 (n=67)	67	89.6	62.7	71.6	34.3	20.9	46.3	▼ 40.3	1.5	1.5	1.5
該認定状況	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	84.3	67.4	65.5	39.3	27.6	50.5	51.4	1.4	2.2	3.8
	要支援1・2 (n=112)	112	79.5	58.0	▼ 43.8	38.4	26.8	42.9	45.5	2.7	4.5	3.6

●問8.9 あなたが認知症になった場合でも、続けたい活動はありますか。(いくつでも○)

【全体】

- 認知症になっても継続したい活動について、「友人との交流」が42.7%で最も高く、次いで「趣味関係のグループ」が20.6%、「居場所づくり」が16.1%となっています。

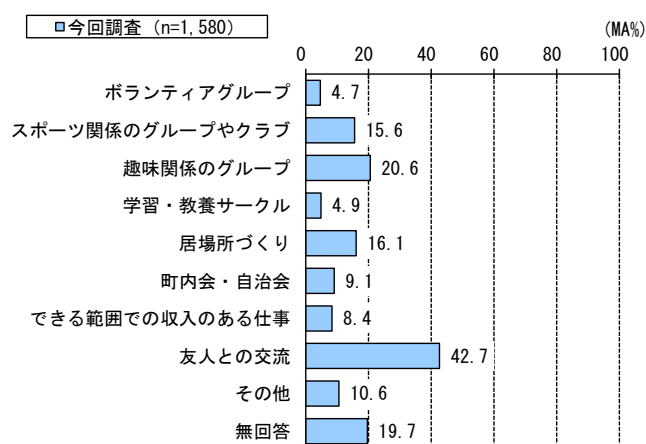
【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「町内会・自治会」「できる範囲での収入のある仕事」などが高くなっています。
- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「居場所づくり」「友人との交流」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「ボランティアグループ」「その他」が高く、「居場所づくり」は同じで、他の項目では一般高齢者の方が高くなっています。

【認知症になっても継続したい活動】



単位：%

		母数	認知症になっても継続したい活動										単位：％
			ボランティア	スポーツや関係のグループ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	居場所づくり	町内会・自治会	収入のある範囲での仕事	友人との交流	その他	無回答	
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	4.3	18.0	19.3	3.7	9.9	9.6	△ 19.9	33.5	15.5	13.4	
	後期高齢者 (n=431)	431	7.0	15.5	22.5	5.6	12.1	13.7	6.7	▼ 32.7	13.2	21.1	
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	4.3	18.3	22.3	7.3	16.2	4.9	9.2	△ 56.0	6.7	14.4	
	後期高齢者 (n=500)	500	3.2	12.2	18.8	3.4	23.4	7.6	1.8	48.4	7.6	26.0	
学区	守山学区 (n=402)	402	3.0	17.9	17.4	4.5	11.7	7.0	6.5	41.5	10.0	22.6	
	吉身学区 (n=314)	314	3.5	16.2	24.2	4.1	14.0	7.0	9.9	45.2	11.8	18.5	
	小津学区 (n=163)	163	4.3	15.3	23.3	6.7	24.5	18.4	6.1	△ 52.8	11.0	11.7	
	玉津学区 (n=100)	100	7.0	12.0	24.0	6.0	22.0	14.0	10.0	41.0	4.0	19.0	
	河西学区 (n=287)	287	8.0	17.1	22.6	5.2	22.3	8.7	7.3	38.7	11.1	17.8	
	速野学区 (n=247)	247	4.9	11.7	15.8	4.5	11.3	6.9	10.1	37.2	12.1	23.5	
	中洲学区 (n=67)	67	3.0	11.9	20.9	4.5	13.4	11.9	13.4	52.2	9.0	22.4	
該認定状況	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	4.6	16.0	21.5	4.9	16.1	9.2	8.8	43.5	10.4	18.8	
	要支援1・2 (n=112)	112	6.3	9.8	▼ 8.9	4.5	16.1	8.0	2.7	▼ 32.1	13.4	31.3	

- 問8.10 あなたが認知症になった場合でも、住み慣れた地域で暮らしていくためには、特にどのような地域住民の協力があると助かると思いますか。(〇は3つまで)

【全体】

- 住み慣れた地域で暮らすための住民協力について、「認知症への正しい理解」が51.7%で最も高く、次いで「話し相手」が47.1%、「定期的な声かけや見守り」が41.5%となっています。

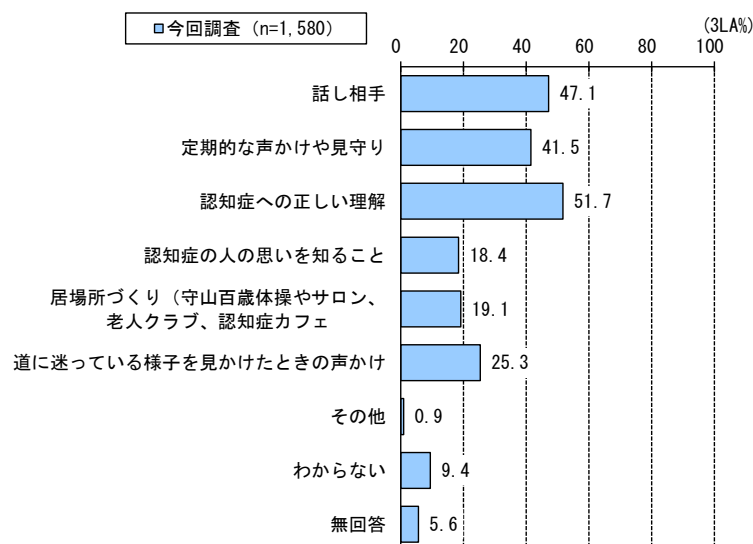
【性・年齢】

- 女性 後期高齢者では「話し相手」が最も高く、他の区分では「認知症への正しい理解」が最も高くなっています。
- 女性では多くの項目で男性に比べて高く、男性では女性に比べて「わからない」が高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「居場所づくり（守山百歳体操やサロン、老人クラブ、認知症カフェなど）」が25.4%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「話し相手」「定期的な声かけや見守り」が高く、他の項目では低くなっています。

【住み慣れた地域で暮らすための住民協力】



単位：%

		母数	住み慣れた地域で暮らすための住民協力									単位：%
			話し相手	定期的な声かけや見守り	正しい認知症への理解	認知症の人のことを知る	認知症の人のサポート（守山百歳体操やサロン、老人クラブ、認知症カフェなど）	居場所づくり（見道に迷ったときの声かけ）	その他	わからない	無回答	
性・年齢	男性 前期高齢者（n=322）	322	40.7	39.8	46.6	16.8	18.0	22.0	0.9	12.1	5.6	
	後期高齢者（n=431）	431	44.8	36.4	48.5	16.7	15.1	27.4	0.9	11.8	8.4	
	女性 前期高齢者（n=327）	327	46.8	46.5	60.6	19.0	25.4	26.6	1.2	6.4	2.1	
	後期高齢者（n=500）	500	53.4	43.8	52.0	20.6	19.0	24.6	0.8	7.6	5.6	
学区	守山学区（n=402）	402	45.3	40.0	52.0	16.9	18.9	24.4	0.7	10.2	4.7	
	吉身学区（n=314）	314	44.6	44.3	51.9	19.1	18.5	26.4	0.6	11.5	4.8	
	小津学区（n=163）	163	44.8	44.2	50.9	22.7	25.2	27.6	0.6	8.0	3.1	
	玉津学区（n=100）	100	△ 58.0	51.0	50.0	20.0	24.0	29.0	-	3.0	7.0	
	河西学区（n=287）	287	46.3	39.7	53.0	19.2	18.8	24.0	1.0	9.4	7.7	
	速野学区（n=247）	247	49.4	36.8	47.0	15.8	16.2	21.5	2.0	11.3	6.9	
	中洲学区（n=67）	67	53.7	41.8	△ 65.7	17.9	11.9	32.8	1.5	1.5	6.0	
当該認定状況	一般高齢者（n=1,468）	1,468	46.5	41.4	52.6	18.6	19.6	25.8	0.8	9.3	5.5	
	要支援1・2（n=112）	112	54.5	42.9	▼ 40.2	16.1	12.5	17.9	2.7	11.6	7.1	

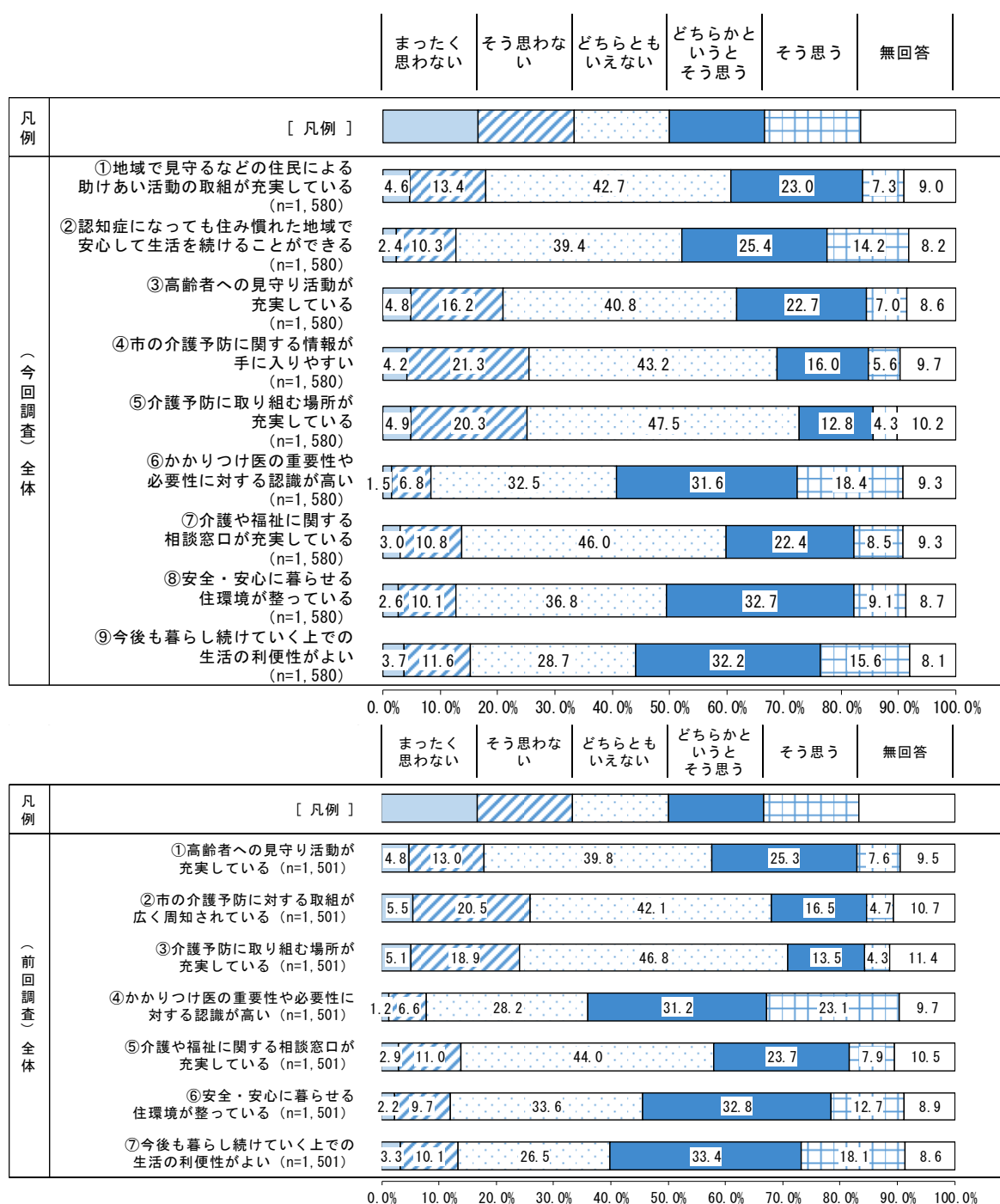
11. 地域における暮らし

(1) 地域に関する認識

●問9. 1-1 あなたが住んでいる地域について「感じること」何ですか。

- 地域環境の現状について、「どちらかというと思う」「そう思う」を合わせた“そう思う”が最も多いのは、⑥かかりつけ医の重要性や必要性に対する認識が高いで 50.0%、次いで⑨今後も暮らし続けていく上での生活の利便性がよいが 47.8%、⑧安全・安心に暮らせる住環境が整っているが 41.8%となっています。
- 前回調査に比べて、“そう思う”が高く、“そう思わない”「まったく思わない」を合わせた“そう思わない”が低いのは、「市の介護予防に対する取組が広く周知されている」となっています。
- “そう思う”が低く、“そう思わない”が高いのは、「高齢者への見守り活動が充実している」となっています。

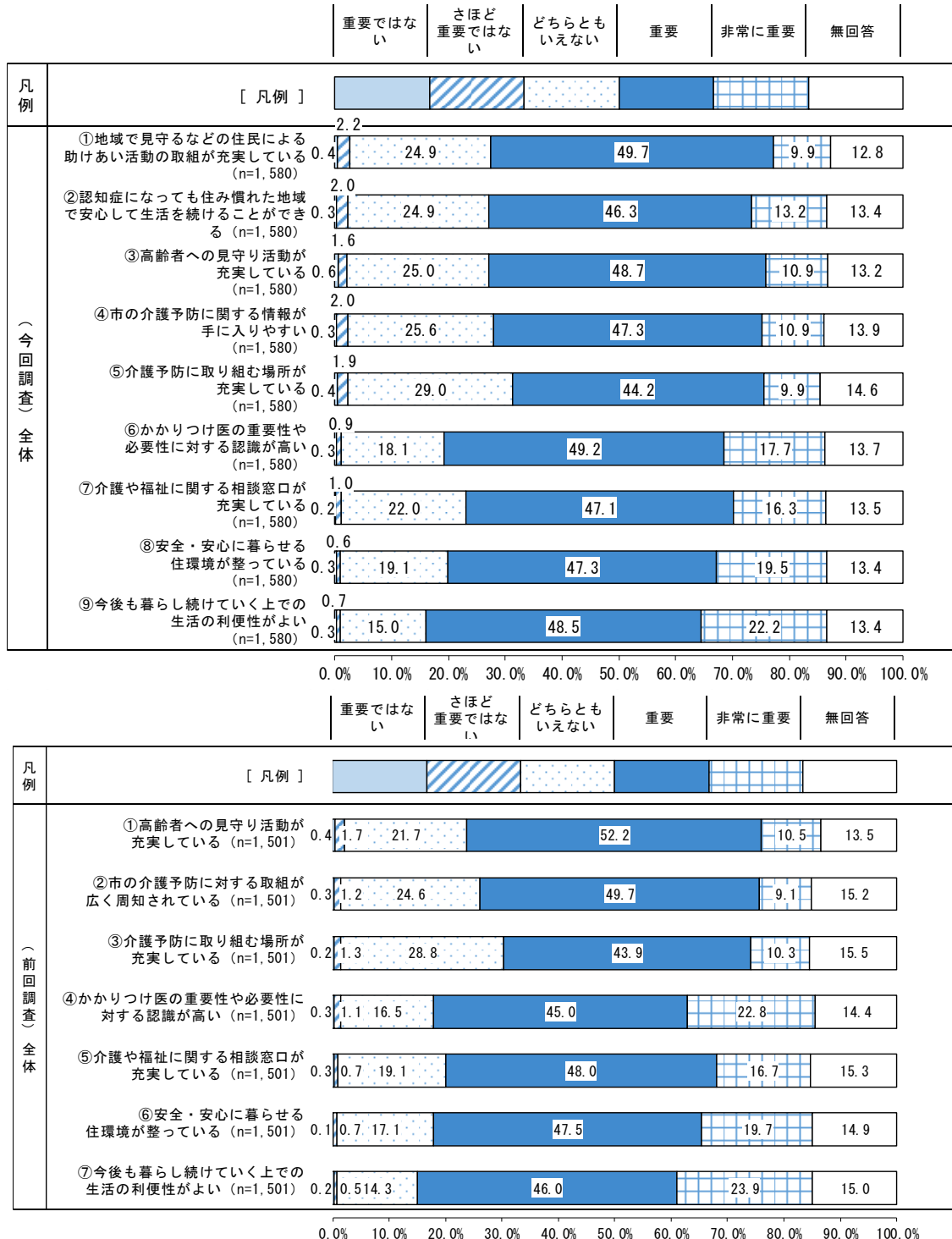
【地域環境の現状】



●問9.1-2 あなたが住んでいる地域について「必要なこと」は何ですか。

○ 今後必要なことについて、「重要」「非常に重要」を合わせた“重要”が最も多いのは、[⑨今後も暮らし続けていく上での生活の利便性がよい]で70.7%、次いで[⑥かかりつけ医の重要性や必要性に対する認識が高い]が66.9%、[⑧安全・安心に暮らせる住環境が整っている]が66.8%となっています。

【今後必要な整備】

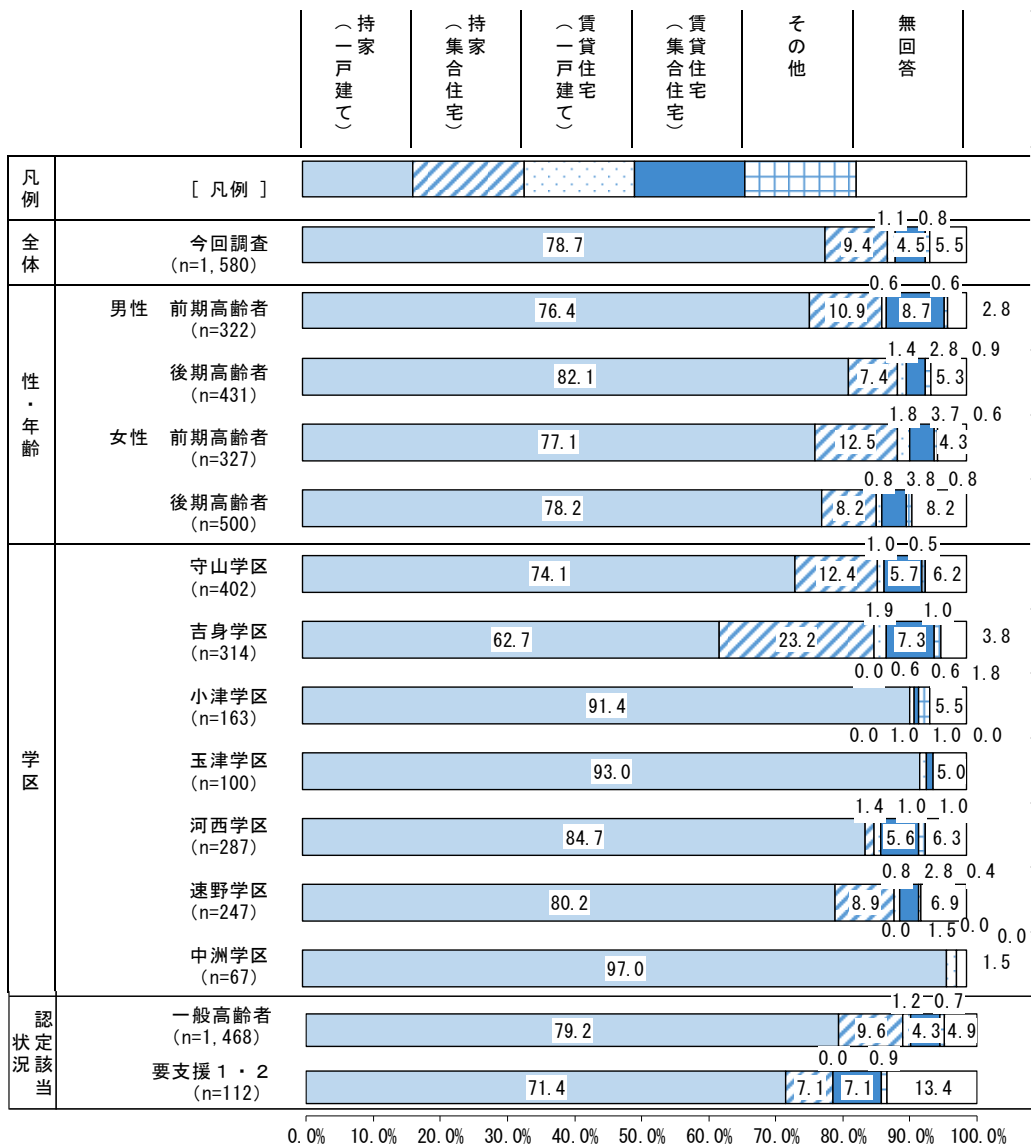


(2) 住まいについて

●問9.2 お住まいは、持家または賃貸住宅のどちらですか。(○は1つ)

【全体】	
○	住宅の所有形態について、「持家（一戸建て）」が 78.7%で最も高く、次いで「持家（集合住宅）」が 9.4%、「賃貸住宅（集合住宅）」が 4.5%となっています。
○	“持家”は 88.1%、“賃貸”は 5.6%となっています。
【学区】	
○	吉身学区では他の区分に比べ、「持家（一戸建て）」が 62.7%と低く、「賃貸（集合住宅）」が 7.3%と高くなっています。
【認定該当状況】	
○	「持家（一戸建て）」は一般高齢者が 79.2%と要支援 1・2 に比べて高くなっています。
【認定該当状況】	
○	要支援 1・2 では“持家”が一般高齢者に比べて低くなっています。

【住宅の所有形態】



●問9.2-1 将来のお住まいについて、不安に感じていることはありますか。(持家の人のみ) (いくつでも○)

【全体】

- 将来の住まいに対する不安要素について、「特にない」が32.5%で最も高く、次いで「災害が起きたときの避難など」が30.4%、「庭の手入れや小規模な修繕など」が28.2%となっています。

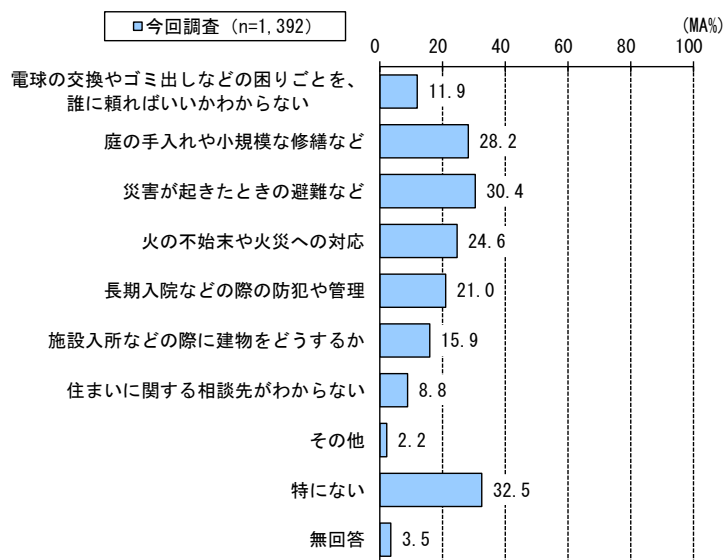
【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では「災害が起きたときの避難など」が最も高く、後期高齢者では「特にない」が最も高くなっています。
- 男性 前期高齢者では「火の不始末や火災への対応」「長期入院などの際の防犯や管理」「施設入所などの際に建物をどうするか」「住まいに関する相談先がわからない」が他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では要支援1・2に比べて「施設入所などの際に建物をどうするか」「住まいに関する相談先がわからない」が高くなっています。

【将来の住まいに対する不安（持家）】



単位：%

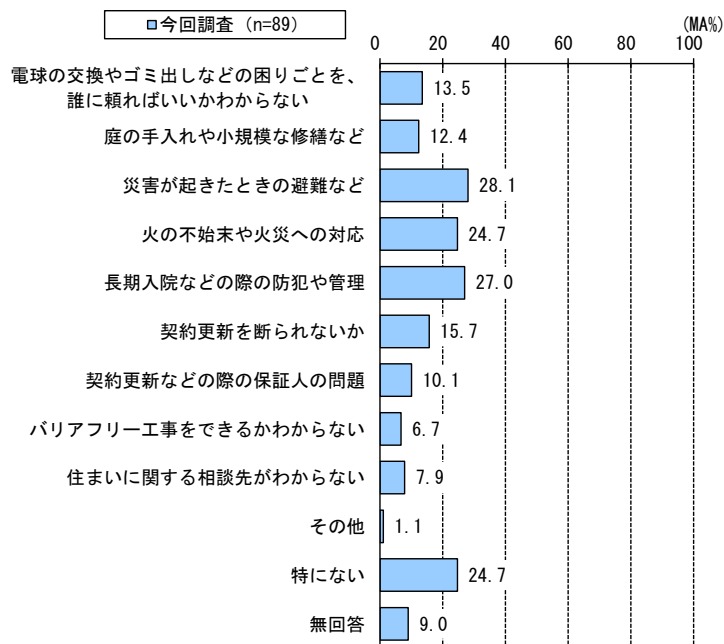
		将来の住まいに対する不安（持家）											単位：%
		母数	わからない 誰かに頼れば いいかわかり ない	電球の交換や ゴミ出しなど の困りごとを、 などの困りごと を、	庭の手入れや 修繕など	災害が起きた ときの避難な ど	火の不始末や 火災への対応	長期入院など の防犯や管理	施設入所など の際に建物を どうするか	住まいに関す る相談先がわ からない	その他	特にない	無回答
性・年齢	男性 前期高齢者（n=281）	281	9.6	25.6	31.7	29.2	27.8	21.0	12.1	2.8	30.2	0.7	
	後期高齢者（n=386）	386	10.4	26.9	28.5	24.9	24.6	16.1	7.5	2.1	34.7	3.6	
	女性 前期高齢者（n=293）	293	13.0	32.4	33.1	22.5	15.7	16.0	9.9	1.4	32.4	1.7	
	後期高齢者（n=432）	432	14.1	28.0	29.4	22.9	17.1	12.3	6.9	2.3	32.2	6.5	
学区	守山学区（n=348）	348	11.8	22.1	27.9	23.9	17.8	11.5	4.9	3.4	35.3	4.6	
	吉身学区（n=270）	270	13.0	25.2	32.2	26.3	20.7	13.7	12.2	1.9	32.2	2.6	
	小津学区（n=149）	149	11.4	37.6	33.6	26.2	24.2	20.1	11.4	1.3	30.9	1.3	
	玉津学区（n=93）	93	14.0	32.3	28.0	22.6	25.8	21.5	11.8	2.2	31.2	1.1	
	河西学区（n=247）	247	11.7	29.1	31.2	25.1	19.8	14.6	7.3	1.6	34.4	4.9	
	速野学区（n=220）	220	11.8	30.0	30.9	25.0	23.2	21.4	7.7	1.8	27.7	3.6	
	中洲学区（n=65）	65	7.7	35.4	27.7	18.5	23.1	16.9	13.8	1.5	33.8	4.6	
当該認定状況	一般高齢者（n=1,304）	1,304	11.7	27.9	29.8	24.4	20.7	16.0	9.0	2.2	33.3	3.1	
	要支援1・2（n=88）	88	15.9	31.8	38.6	28.4	26.1	13.6	4.5	1.1	▼ 21.6	9.1	

●問9.2-2 将来のお住まいについて、不安に感じていることはありますか。(賃貸) (いくつでも○)

【全体】

○ 将来の住まいに対する不安(賃貸)について、「災害が起きたときの避難など」が28.1%で最も高く、次いで「長期入院などの際の防犯や管理」が27.0%、「火の不始末や火災への対応」「特にない」が24.7%となっています。

【将来の住まいに対する不安(賃貸)】



単位: %

		母数	将来の住まいに対する不安（賃貸）													単位：％
			電球の交換やゴミ出しなどの困りごとを、誰に頼ればいいのかからしない	庭の手入れや小規模な修繕など	避難など	災害が起きたときの	火の不始末や火災への対応	長期入院などの際の防犯や管理	断られ更新を断れないか	契約更新などの問題	できるかかわからない工事を	住まいに関する相談先がわからない	その他	特にない	無回答	
性・年齢	男性 前期高齢者（n=30）	30	13.3	10.0	▼ 16.7	33.3	33.3	23.3	20.0	3.3	13.3	-	23.3	6.7		
	後期高齢者（n=18）	18	16.7	16.7	33.3	22.2	33.3	22.2	11.1	△ 16.7	5.6	-	16.7	-		
	女性 前期高齢者（n=18）	18	5.6	11.1	△ 44.4	22.2	22.2	11.1	5.6	5.6	-	5.6	16.7	16.7		
	後期高齢者（n=23）	23	17.4	13.0	26.1	17.4	17.4	▼ 4.3	-	4.3	8.7	-	△ 39.1	13.0		
学区	守山学区（n=27）	27	18.5	18.5	33.3	14.8	29.6	▼ 3.7	3.7	3.7	-	3.7	22.2	7.4		
	吉身学区（n=29）	29	10.3	3.4	27.6	△ 37.9	24.1	24.1	17.2	3.4	6.9	-	24.1	13.8		
	小津学区（n=2）	2	-	-	△ 50.0	△ 50.0	-	△ 50.0	-	△ 50.0	△ 50.0	-	-	-		
	玉津学区（n=2）	2	△ 50.0	△ 50.0	-	△ 50.0	-	△ 100.0	△ 50.0	-	-	-	-	-		
	河西学区（n=19）	19	10.5	10.5	31.6	21.1	31.6	▼ 5.3	5.3	10.5	5.3	-	△ 36.8	10.5		
	速野学区（n=9）	9	11.1	22.2	▼ 11.1	▼ 11.1	33.3	22.2	11.1	11.1	△ 22.2	-	22.2	-		
	中洲学区（n=1）	1	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 100.0	-	-	-		
当該認定状況	一般高齢者（n=81）	81	14.8	12.3	28.4	24.7	27.2	17.3	11.1	7.4	8.6	1.2	23.5	7.4		
	要支援 1・2（n=8）	8	-	12.5	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	△ 37.5	25.0		

12. 高齢者福祉について

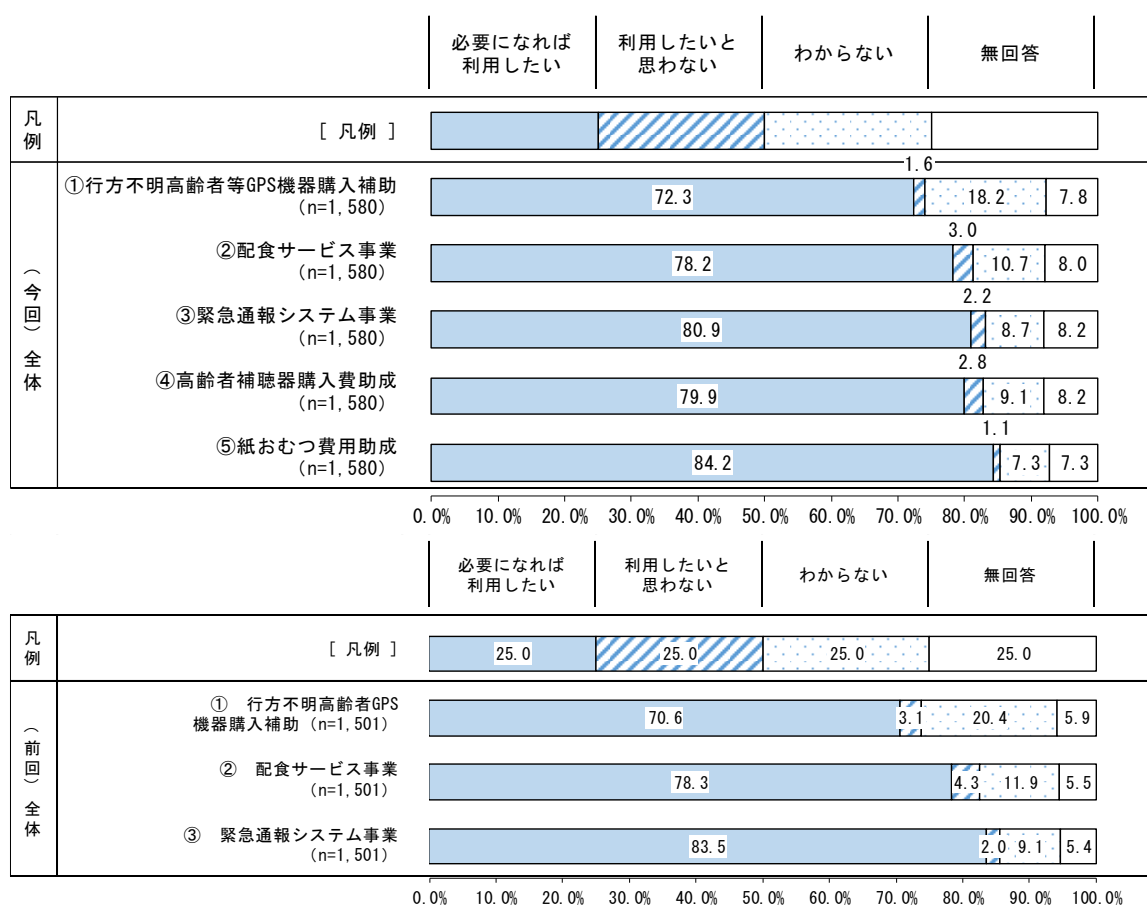
(1) 福祉サービスについて

- 問10.1 今後、福祉サービスが必要になった時に次のような市の高齢者福祉サービスを利用したいと思いますか。(①～⑤それぞれ○は1つ)

【全体】

- 高齢者福祉サービスの利用意向について、「必要になれば利用したい」は、[⑤紙おむつ費用助成]で最も高く 84.2%、次いで [③緊急通報システム事業] が 80.9%、[④高齢者補聴器購入費助成] が 79.9%となっています。

【福祉サービスの利用意向】



13. 地域包括支援センターについて

●問11.1 地域包括支援センターを知っていますか。(○は1つ)

【全体】

- 地域包括支援センターの認知度について、「知っている」が39.1%で最も高く、次いで「名前だけ知っている」が30.8%、「知らない」が22.2%となっています。
- 「知っている」「名前だけ知っている」を合わせた“知っている”は69.9%となっています。
- 新たに選択肢とした「名前だけ知っている」を「知らない」に含んで考えると、「名前だけ知っている」と「知らない」を合わせた割合が5割以上となっています。

【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「知っている」が高く、特に女性 前期高齢者では49.8%となっています。

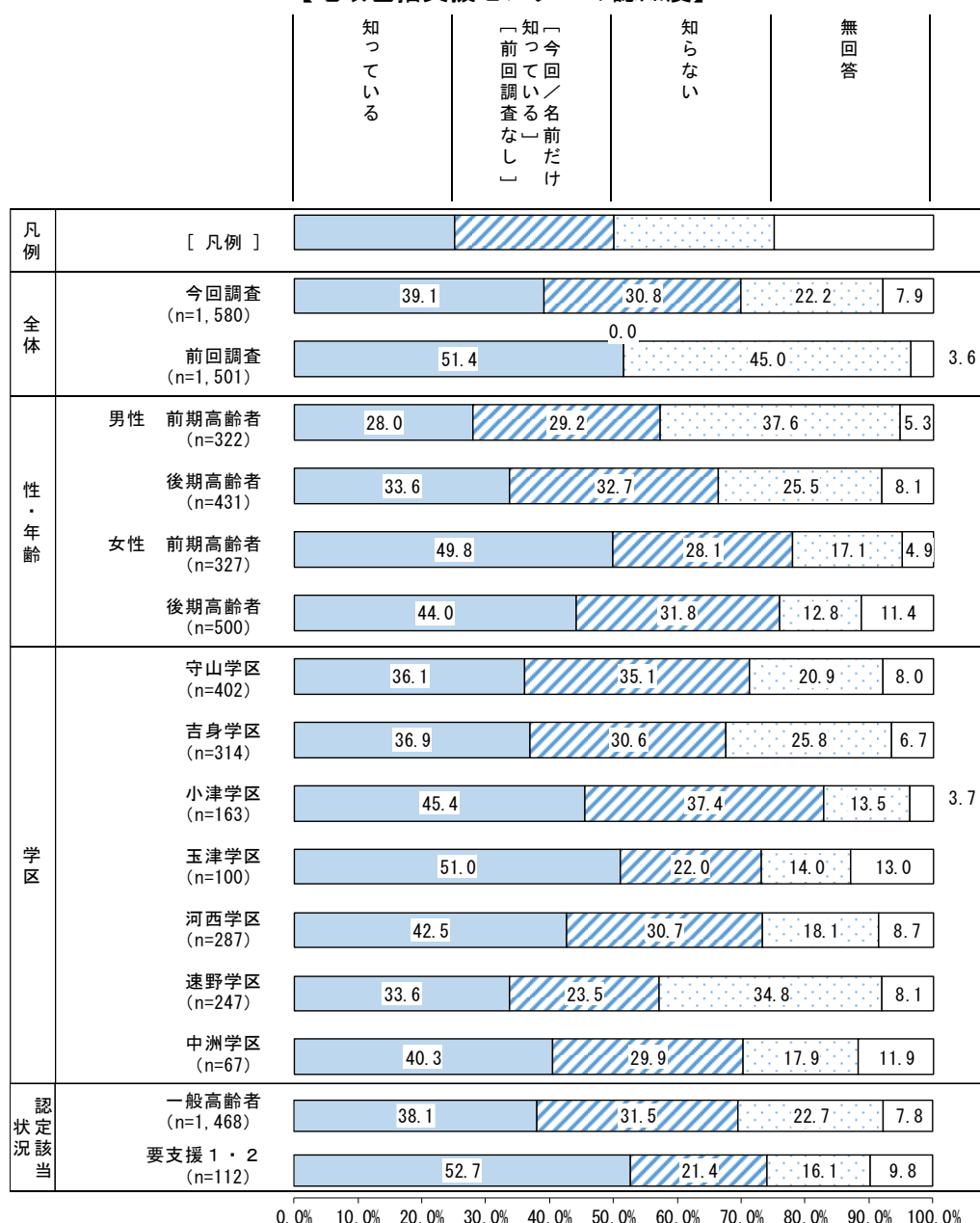
【学区】

- 「知っている」は玉津学区で最も高く51.0%、速野学区で最も低く33.6%となっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「知っている」が52.7%と一般高齢者の38.1%に比べて高くなっています。

【地域包括支援センターの認知度】



●問11.1-1 地域包括支援センターをどこで知りましたか。(いくつでも○)

【全体】

- 地域包括支援センターを知ったきっかけについて、「市広報」が69.1%で最も高く、次いで「医療・介護関係者からの紹介」が17.6%、「自治会、民生委員・児童委員からの紹介」が15.9%となっています。

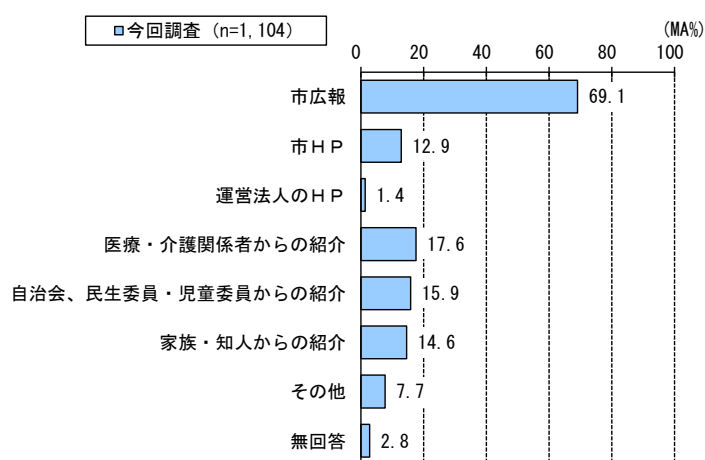
【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「市HP」が高く、「市広報」「自治会、民生委員・児童委員からの紹介」が低くなっています。
- 女性 後期高齢者では他の区分に比べて「市HP」が低く、「医療・介護関係者からの紹介」「自治会、民生委員・児童委員からの紹介」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「医療・介護関係者からの紹介」が36.1%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【地域包括支援センターを知ったきっかけ】



単位：%

		母数	地域包括支援センターを知ったきっかけ							
			市 広 報	市 H P	運 営 法 人 の H P	紹 介 医 療 ・ 介 護 関 係 者 か ら の	児 童 ・ 自 治 会 ・ 民 生 委 員 か ら の	紹 介 家 族 ・ 知 人 か ら の	そ の 他	無 回 答
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=184)	184	67.4	18.5	2.2	16.8	14.1	13.0	7.1	2.7
	後期高齢者 (n=286)	286	74.5	14.7	1.7	12.6	17.1	14.3	7.0	2.1
	女性 前期高齢者 (n=255)	255	63.5	15.3	1.6	18.0	11.0	16.5	9.4	3.5
	後期高齢者 (n=379)	379	69.7	7.1	0.5	21.4	19.3	14.2	7.4	2.9
学区	守山学区 (n=286)	286	69.6	11.9	1.4	15.7	13.6	14.0	9.1	2.1
	吉身学区 (n=212)	212	70.3	13.2	0.9	20.8	17.9	18.4	6.1	1.9
	小津学区 (n=135)	135	73.3	15.6	-	10.4	16.3	12.6	6.7	2.2
	玉津学区 (n=73)	73	64.4	15.1	1.4	△ 31.5	17.8	12.3	6.8	4.1
	河西学区 (n=210)	210	70.5	12.9	1.0	16.2	14.3	16.2	6.7	4.8
	速野学区 (n=141)	141	61.7	10.6	2.8	19.1	19.1	12.8	9.9	2.1
	中洲学区 (n=47)	47	72.3	12.8	4.3	14.9	14.9	8.5	8.5	4.3
当該認定状況	一般高齢者 (n=1,021)	1,021	70.0	13.2	1.3	16.1	16.4	14.0	7.7	2.8
	要支援1・2 (n=83)	83	▼ 57.8	8.4	2.4	△ 36.1	10.8	21.7	7.2	2.4

- 問11.1-2 地域包括支援センターの取組のうち知っていることを教えてください。(いくつでも○)

【全体】

- 地域包括支援センターの取組で知っていることについて、「高齢者の生活や介護等の困りごと相談」が 92.9%で最も高く、次いで「在宅医療・在宅介護の普及啓発」が 55.8%、「認知症の人とその家族を支える取組」が 46.4%となっています。

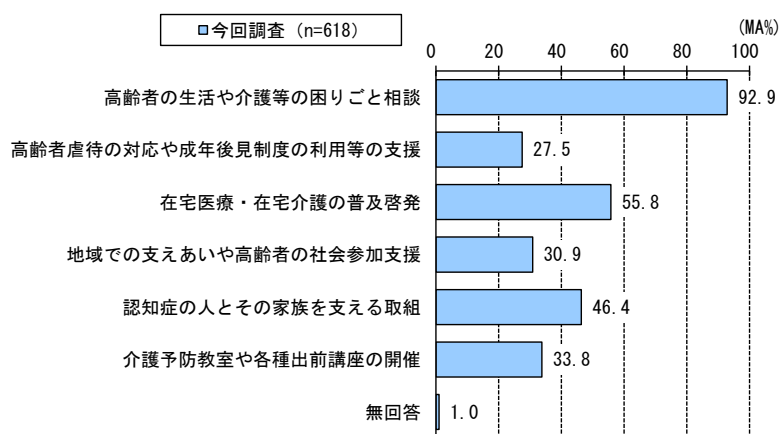
【性・年齢】

- 男性 前期高齢者では「高齢者虐待の対応や成年後見制度の利用等の支援」が 37.8%と他の区分に比べて高くなっています。
- 女性 前期高齢者では「認知症の人とその家族を支える取組」「高齢者の生活や介護等の困りごと相談」が他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「介護予防教室や各種出前講座の開催」が高くなっています。

【地域包括支援センターの取組で知っていること】



単位：%

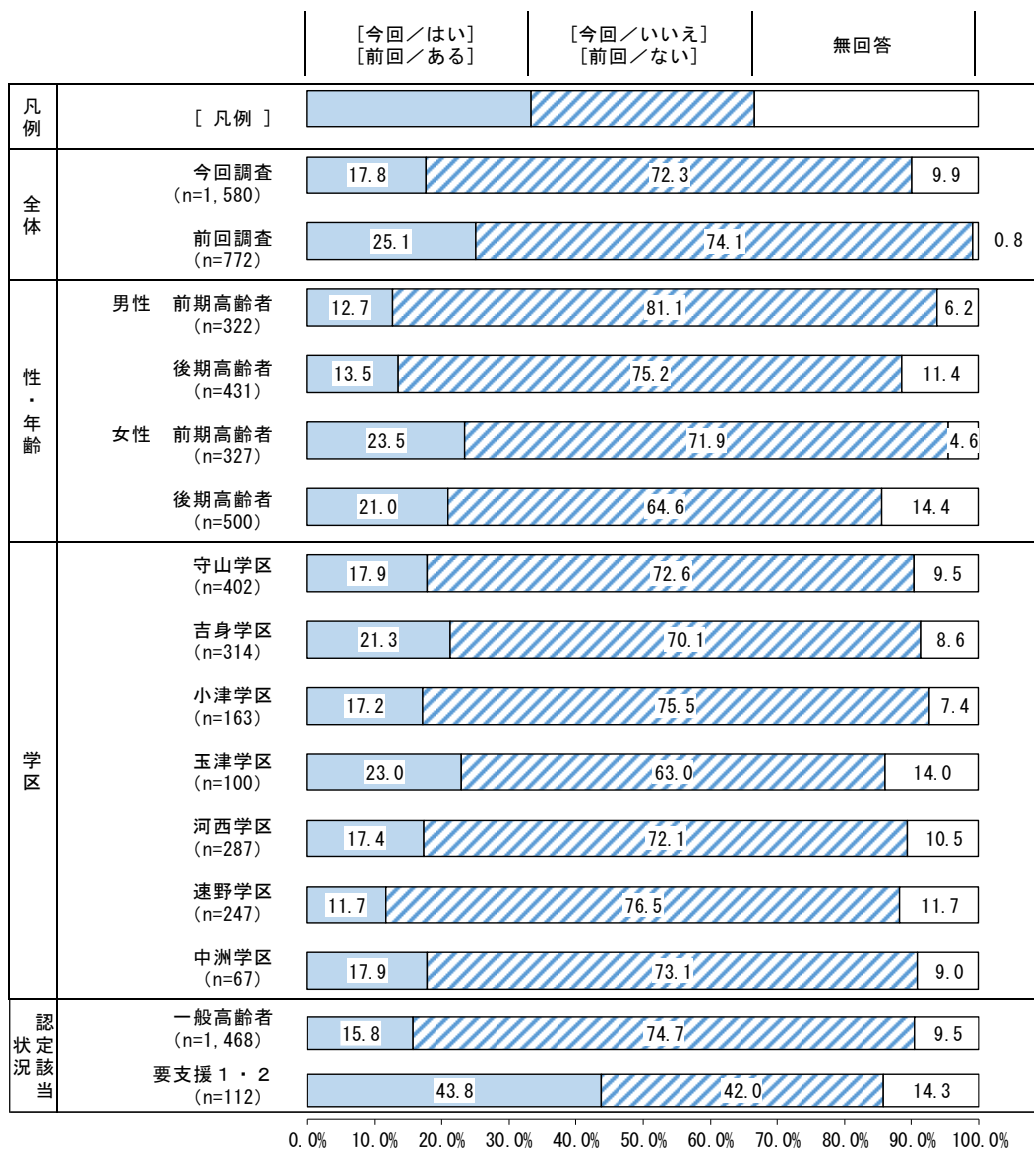
単位：％

			母数	地域包括支援センターの取組で知っていること						
				高齢者の生活や困りごと相談	高齢者虐待の対応や支援	在宅医療・在宅介護の普及啓発	地域での社会参加支援	認知症の人と家族を支える取組	介護予防教室や講座の開催	無回答
性・年齢	男性	前期高齢者 (n=90)	90	86.7	△ 37.8	57.8	30.0	40.0	30.0	1.1
		後期高齢者 (n=145)	145	91.0	30.3	64.1	35.2	43.4	37.2	0.7
	女性	前期高齢者 (n=163)	163	96.9	27.6	51.5	27.6	52.8	31.3	-
		後期高齢者 (n=220)	220	93.6	21.4	52.7	30.9	46.4	35.0	1.8
学区	守山学区 (n=145)		145	90.3	24.1	50.3	25.5	44.8	29.0	1.4
	吉身学区 (n=116)		116	95.7	28.4	52.6	31.0	47.4	32.8	-
	小津学区 (n=74)		74	93.2	31.1	58.1	36.5	52.7	37.8	-
	玉津学区 (n=51)		51	86.3	23.5	52.9	29.4	51.0	25.5	3.9
	河西学区 (n=122)		122	91.8	32.0	59.0	35.2	47.5	△ 44.3	1.6
	速野学区 (n=83)		83	97.6	27.7	59.0	31.3	▼ 34.9	31.3	-
	中洲学区 (n=27)		27	96.3	18.5	△ 74.1	25.9	55.6	29.6	-
状況認定	一般高齢者 (n=559)		559	93.2	28.3	56.4	31.1	48.3	33.6	1.1
	要支援 1・2 (n=59)		59	89.8	20.3	50.8	28.8	▼ 28.8	35.6	-

●問11.1-3 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(○は1つ)

【全体】	
○	地域包括支援センターの利用経験について、「はい」が17.8%、「いいえ」が72.3%となっています。
【性・年齢】	
○	前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「はい」が高くなっています。
【学区】	
○	「はい」は、玉津学区で23.0%と最も高く、速野学区で11.7%と最も低くなっています。
【認定該当状況】	
○	要支援1・2では「はい」が43.8%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【地域包括支援センターの利用経験】



●問11.1-4 どのような要件で利用しましたか。(いくつでも○)

【全体】

- 地域包括支援センターの利用目的について、「介護サービスの利用に関する相談」が65.8%で最も高く、次いで「高齢者の困りごと相談」が32.0%、「出前講座」が15.3%となっています。

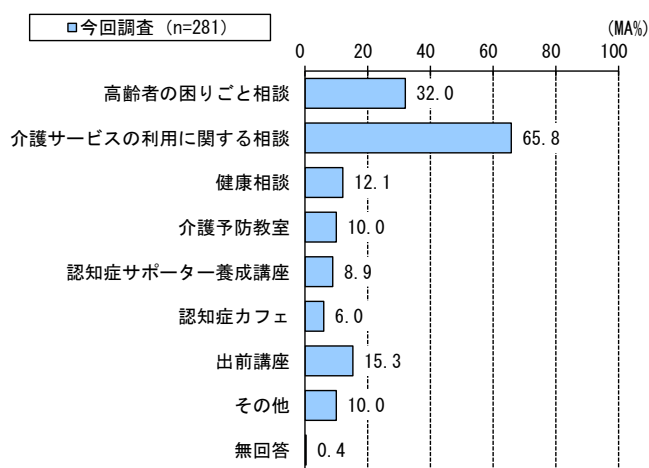
【性・年齢】

- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「介護サービスの利用に関する相談」が高く、「介護予防教室」が低くなっています。
- 男性 後期高齢者では「健康相談」が20.7%、「出前講座」が22.4%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「介護サービスの利用に関する相談」「健康相談」が高くなっています。

【地域包括支援センターの利用目的】



単位：％												
		母数	地域包括支援センターの利用目的									
			高齢者の 困りごと 相談	介護サー ビスの 利用に 関する 相談	健康 相談	介護 予防 教室	認知 症 サポ ーター 養成 講座	認知 症カ フェ	出前 講座	その他	無回 答	
性・ 年齢	男性 前期高齢者 (n=41)	41	31.7	68.3	12.2	7.3	4.9	4.9	17.1	19.5	-	
	後期高齢者 (n=58)	58	27.6	51.7	20.7	10.3	10.3	1.7	22.4	10.3	-	
	女性 前期高齢者 (n=77)	77	35.1	74.0	6.5	9.1	11.7	7.8	13.0	10.4	-	
	後期高齢者 (n=105)	105	32.4	66.7	11.4	11.4	7.6	7.6	12.4	5.7	1.0	
学区	守山学区 (n=72)	72	30.6	65.3	9.7	8.3	11.1	6.9	18.1	8.3	-	
	吉身学区 (n=67)	67	34.3	71.6	9.0	10.4	4.5	6.0	6.0	7.5	-	
	小津学区 (n=28)	28	35.7	60.7	14.3	14.3	10.7	3.6	21.4	10.7	-	
	玉津学区 (n=23)	23	47.8	56.5	13.0	13.0	13.0	13.0	17.4	17.4	4.3	
	河西学区 (n=50)	50	32.0	60.0	18.0	6.0	10.0	4.0	18.0	10.0	-	
	速野学区 (n=29)	29	20.7	72.4	13.8	17.2	10.3	6.9	13.8	13.8	-	
	中洲学区 (n=12)	12	16.7	75.0	8.3	-	-	-	25.0	8.3	-	
当該 認定 状況	一般高齢者 (n=232)	232	32.3	64.7	9.1	10.8	9.9	6.9	16.8	11.2	0.4	
	要支援1・2 (n=49)	49	30.6	71.4	26.5	6.1	4.1	2.0	8.2	4.1	-	

- 問11.1-5 今後、介護や生活のことで困ったときに、地域包括支援センターを利用したい
と思いますか。(○は1つ)

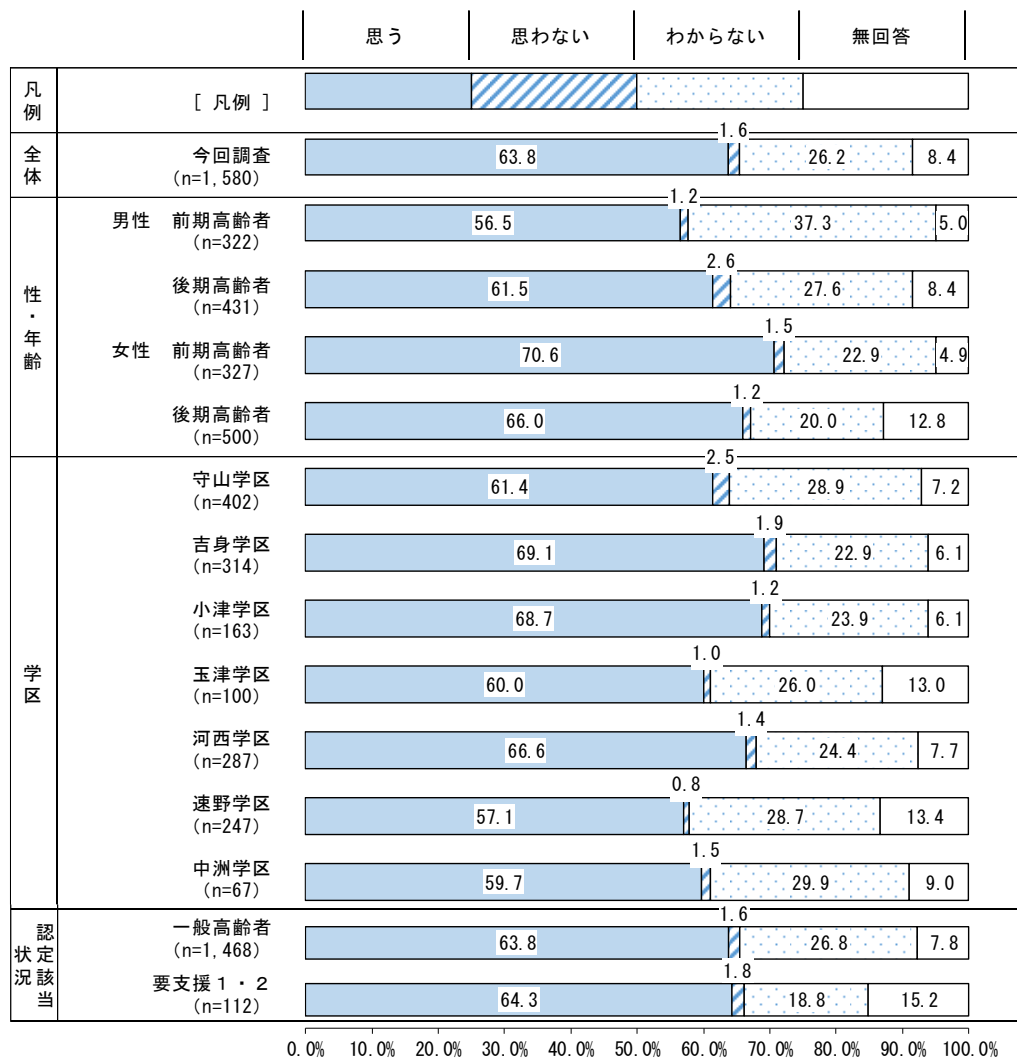
【全体】

- 地域包括支援センターの今後の利用意向について、「思う」が 63.8%で最も高く、次いで「わからない」が 26.2%、「思わない」が 1.6%となっています。

【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「思う」が高く、特に女性 前期高齢者では 70.6%となっています。

【地域包括支援センターの今後の利用意向】



●問11.1-6 地域包括支援センターに期待することは特に何ですか。(○は3つまで)

【全体】

- 地域包括支援センターへの期待について、「高齢者の生活や介護等の困りごと相談」が75.8%で最も高く、次いで「在宅医療・在宅介護の普及啓発」が46.1%、「認知症の人とその家族を支える取組」が31.8%となっています。

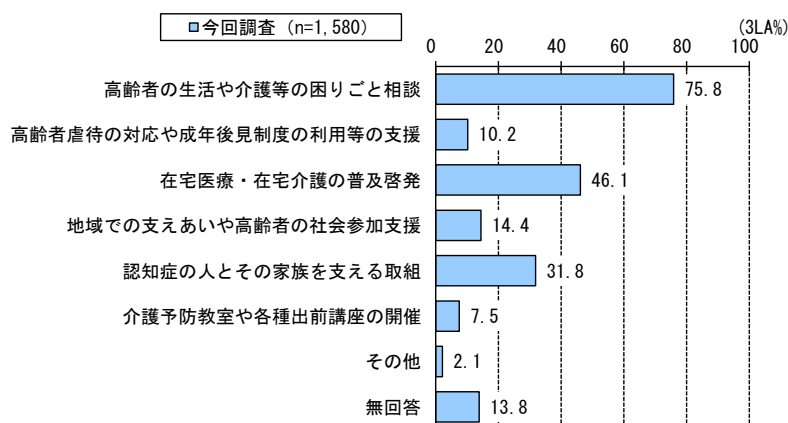
【性・年齢】

- 女性 前期高齢者では他の区分に比べて「高齢者の生活や介護等の困りごと相談」「認知症の人とその家族を支える取組」「介護予防教室や各種出前講座の開催」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて、多くの項目において低くなっています。

【地域包括支援センターに期待すること】



単位：％

		母数	地域包括支援センターに期待すること							
			介護等 の高齢者の 困りごと 相談	利用等 の高齢者 虐待の 支援	在宅医療・ 在宅介護の 普及啓発	高齢者 の社会 参加の 支援	家族を 支える 取組	認知症 の人と その 関係	各種 出前 講座 の 開催	その他
性・年齢	男性 前期高齢者 (n=322)	322	77.0	14.6	45.7	17.4	32.0	4.0	3.1	9.6
	後期高齢者 (n=431)	431	73.1	10.7	50.6	14.8	29.7	6.3	2.1	14.2
	女性 前期高齢者 (n=327)	327	83.8	11.6	42.8	14.4	37.6	10.4	1.5	9.2
	後期高齢者 (n=500)	500	72.2	6.0	44.8	12.2	29.8	9.0	1.8	19.2
学区	守山学区 (n=402)	402	76.4	10.4	46.5	11.7	31.1	7.2	1.2	13.2
	吉身学区 (n=314)	314	77.4	10.8	47.1	14.0	32.2	10.5	2.9	11.5
	小津学区 (n=163)	163	77.9	13.5	41.7	14.1	35.6	8.6	1.2	12.3
	玉津学区 (n=100)	100	77.0	11.0	50.0	15.0	31.0	4.0	-	17.0
	河西学区 (n=287)	287	76.7	8.7	49.5	19.5	29.6	5.6	2.8	12.5
	速野学区 (n=247)	247	70.9	8.1	41.7	13.0	30.8	7.3	2.8	19.0
	中洲学区 (n=67)	67	73.1	10.4	46.3	16.4	40.3	7.5	3.0	13.4
状況 認定	一般高齢者 (n=1,468)	1,468	76.2	10.6	46.2	14.7	32.9	7.6	2.0	13.4
	要支援1・2 (n=112)	112	70.5	5.4	45.5	10.7	▼17.9	7.1	2.7	18.8

14. 介護保険制度・サービスについて

●問12.1 あなたご自身が要介護状態になった場合、どのようにしたいと思いますか。(○は1つ)

【全体】

- 要介護状態になった際の希望（生活場所）について、「自宅で介護サービスを受け、住み慣れたところで暮らしたい」が 57.4%で最も高く、次いで「将来的に施設等に入りサービスを受けたい」が 34.0%、「その他」が 2.6%となっています。
- 前回調査に比べると、「施設等に入りサービスを受けたい」が高く、「自宅でサービスを受けて暮らしたい」が低くなっています。
- 「施設等に入りサービスを受けたい」の割合が高くなっているものの、「自宅でサービスを受けて暮らしたい」が5割以上を占めています。

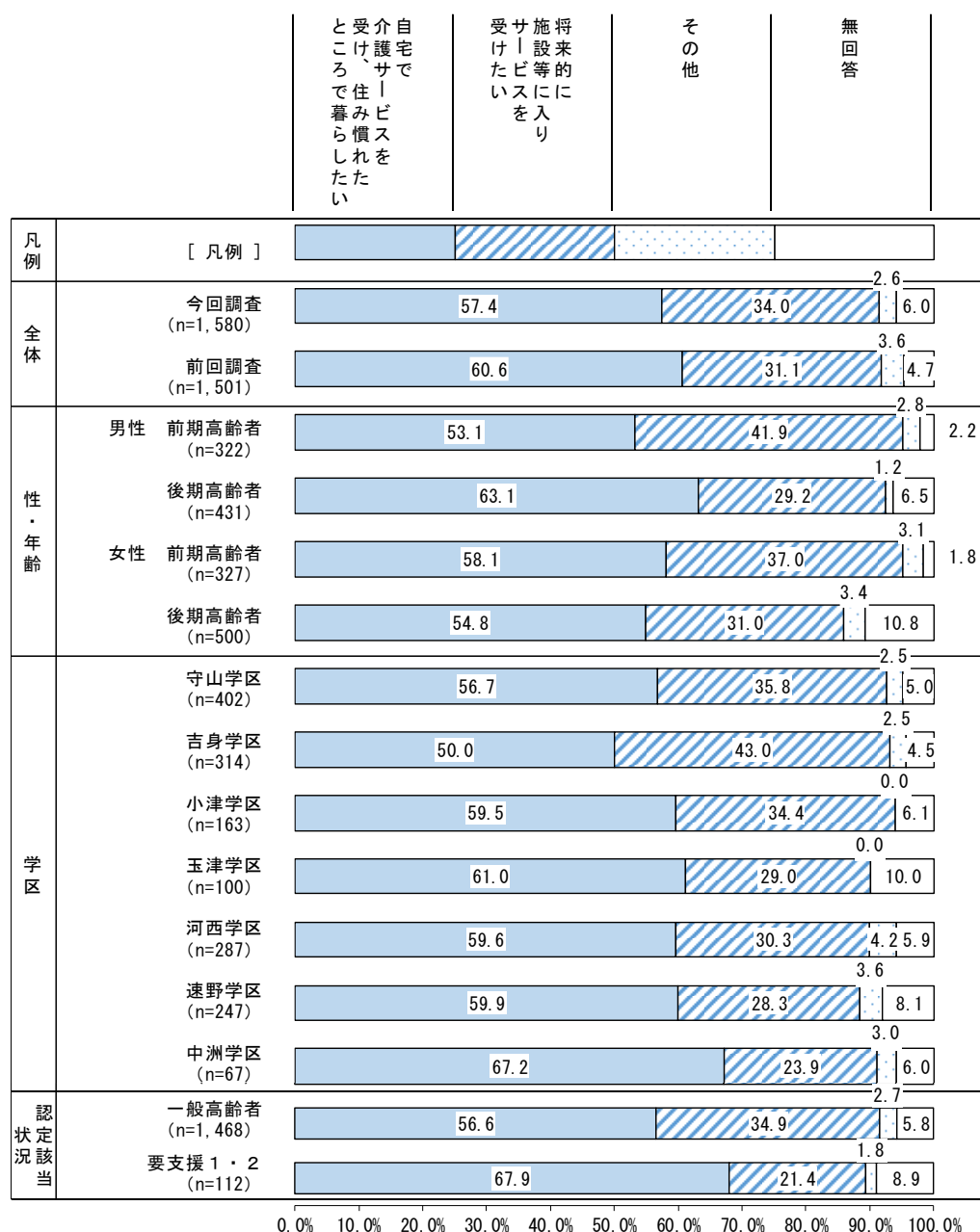
【性・年齢】

- 「自宅で介護サービスを受け、住み慣れたところで暮らしたい」は男性 後期高齢者が 63.1%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「自宅で介護サービスを受け、住み慣れたところで暮らしたい」が 67.9%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【要介護状態になった際の希望（生活場所）】



●問12.1-1 居宅で介護サービスを選定する際に最も重視することは何ですか。(○は1つ)

【全体】

- 在宅サービス選定時の重視点について、「自宅から近い」が30.8%で最も高く、次いで「ケアマネジャー等専門家の意見」が19.4%、「周りの評価が良い」が18.5%となっています。

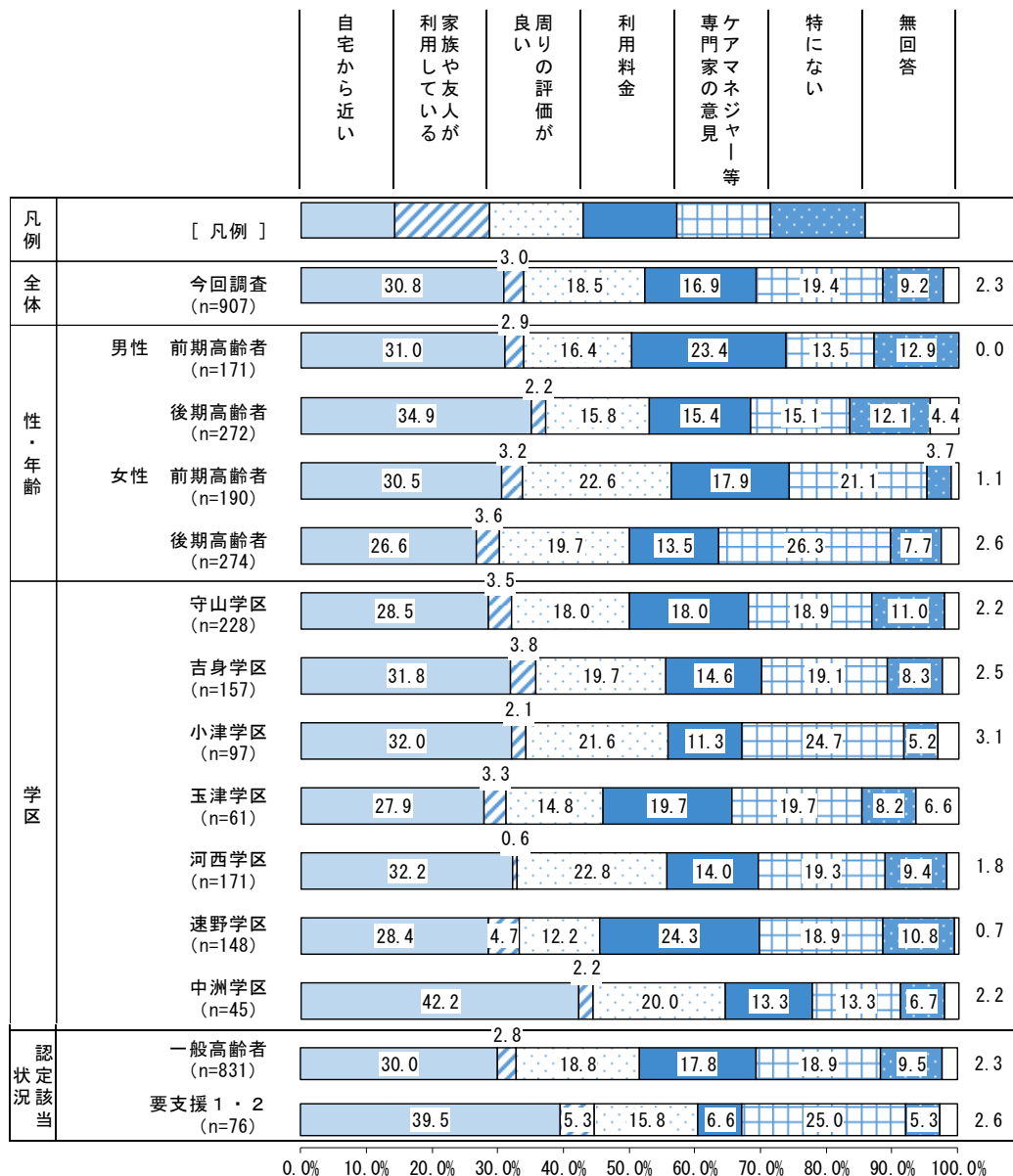
【性・年齢】

- 「自宅から近い」は男性 後期高齢者が34.9%と他の区分に比べて高くなっています。
 ○ 前期・後期高齢者ともに女性では男性に比べて「周りの評価が良い」「ケアマネジャー等専門家の意見」が高くなっています。
 ○ 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「利用料金」が高く、特に男性 前期高齢者では23.4%となっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「自宅から近い」が39.5%、「家族や友人が利用している」が5.3%、「ケアマネジャー等専門家の意見」が25.0%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【在宅サービス選定時の重視点】



●問12.1-2 どのような施設等を望みますか。(○は1つ)

【全体】

- 希望する施設等の種類について、「特別養護老人ホーム」が41.9%で最も高く、次いで「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅等）」が29.4%、「グループホーム（認知症対応型共同生活介護）」が13.0%となっています。

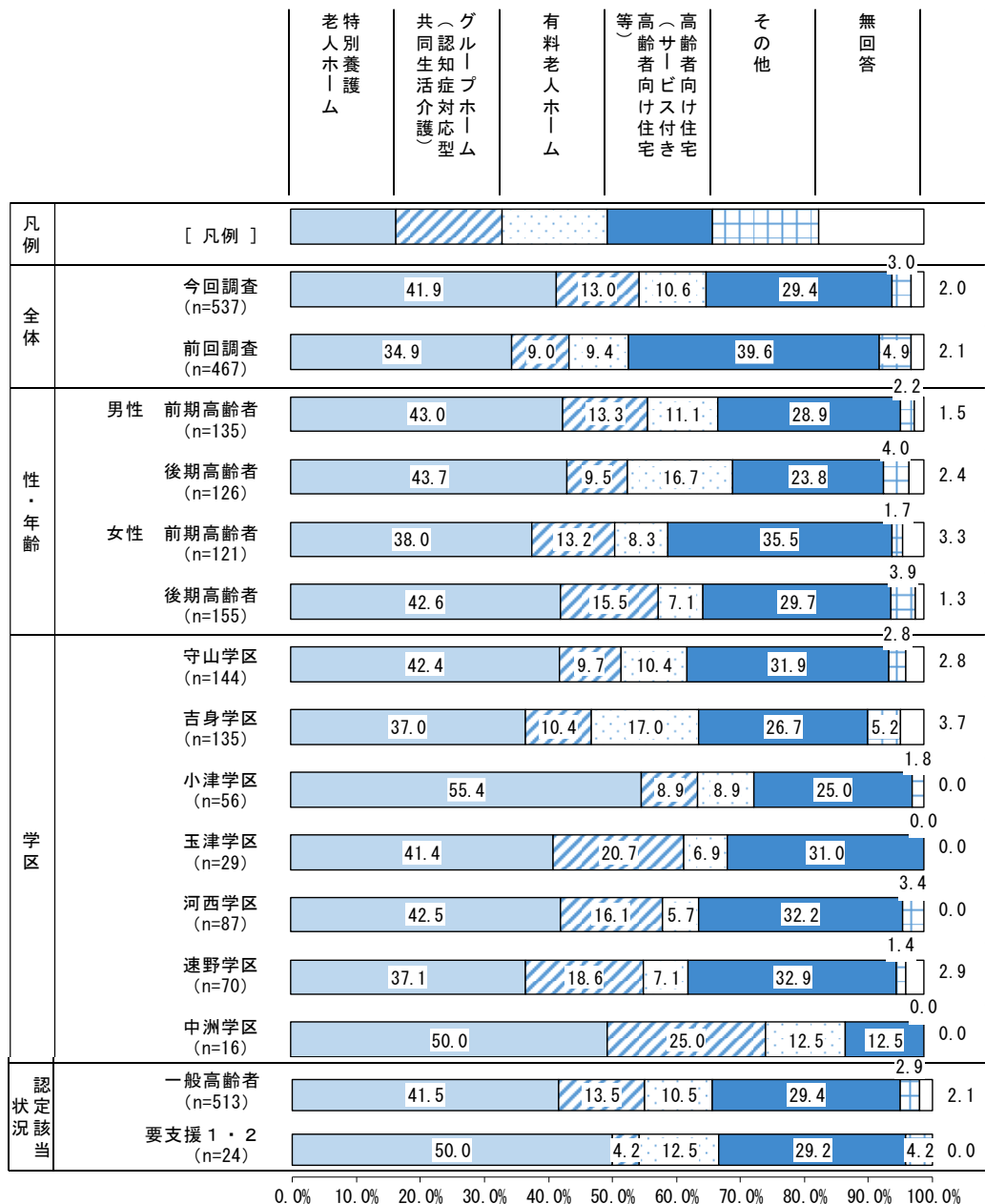
【性・年齢】

- 女性 前期高齢者では「特別養護老人ホーム」が38.0%と他の区分に比べて低く、「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅等）」が35.5%と他の区分に比べて高くなっています。
- 「有料老人ホーム」は男性 後期高齢者が16.7%と他の区分に比べて高くなっています。
- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて「高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅等）」が高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では「特別養護老人ホーム」が50.0%と一般高齢者に比べて高くなっています。

【希望する施設等の種類】



●問12.1.2 あなたの介護保険料について経済的な負担感はどうですか。(○は1つ)

【全体】

- 介護保険料の経済的負担感について、「今の程度なら、やむを得ない」が 37.6%で最も高く、次いで「やや負担が大きい」が 24.6%、「負担が大きい」が 19.2%となっています。
- 「負担は感じない」「それほど負担を感じない」を合わせた“負担を感じない”は 9.0%、「やや負担が大きい」「負担が大きい」を合わせた“負担が大きい”は 43.8%となっています。

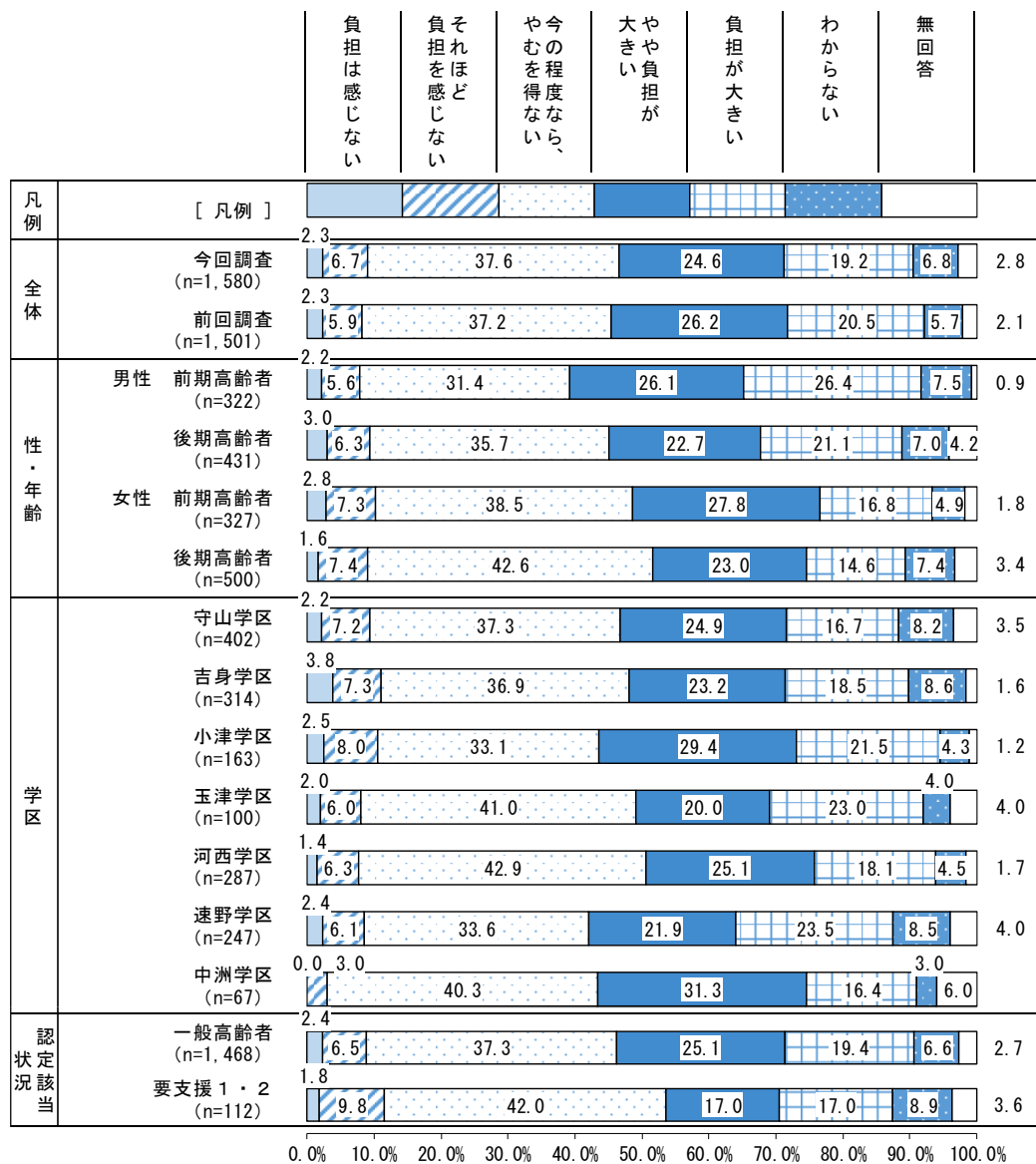
【性・年齢】

- 前期・後期高齢者ともに男性では女性に比べて「負担が大きい」が高く、特に男性 前期高齢者では 26.4%となっています。
- 男女ともに前期高齢者では後期高齢者に比べて“負担が大きい”が高くなっています。

【認定該当状況】

- 「それほど負担を感じない」は要支援1・2が9.8%と一般高齢者に比べて高くなっています。
- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「今の程度なら、やむを得ない」が高く、“負担が大きい”が低くなっています。

【介護保険料の経済的負担感】



- 問12.3 入所施設が増えると保険料への影響が大きくなりますが、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

【全体】

- 施設整備と保険料負担に関する考え方について、「在宅サービスを充実させ、保険料への影響はなるべく抑えたほうがよい」が 40.6%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が 24.6%、「介護の負担を軽減するため、保険料に影響があっても施設の充実を優先させたほうがよい」が 20.4%となっています。
- 前回調査に比べると、「施設の充実」が高く、「在宅サービスの充実」が低くなっています。「施設の充実」が上昇傾向にあるものの、4割以上が「在宅サービスの充実」を希望しています。

【性・年齢】

- 男性 後期高齢者では「在宅サービスを充実させ、保険料への影響はなるべく抑えたほうがよい」が 50.6%と他の区分に比べて高くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2では一般高齢者に比べて「介護の負担を軽減するため、保険料に影響があっても施設の充実を優先させたほうがよい」「在宅サービスを充実させ、保険料への影響はなるべく抑えたほうがよい」がともに高くなっています。

【施設整備と保険料負担に関する考え方】

